

# 紀要

## 第3号

美作地域における弥生時代の磨製石器生産	米田 克彦
雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）	柴田 英樹
岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成	石田 爲成
岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について	四田 寛人
総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）	藤井 雅大・金田 善敬
倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査	澤山 孝之
岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査	山磨 康平・高田恭一郎

2024年3月

岡山県古代吉備文化財センター

## 目 次

美作地域における弥生時代の磨製石器生産	1
雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）	15
岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成	23
岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について	45
総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）	55
倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査	61
岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査	77



## 美作地域における弥生時代の磨製石器生産

米田克彦

## 1 はじめに

岡山県北部の美作地域は中国山地山間部の津山盆地や吉井川・旭川上流域にあたり、両河川を介して県南部の瀬戸内海沿岸、北に峰を越えれば山陰の日本海沿岸、盆地や平野を伝って東は播磨、西は備中北部や備後とも繋がり、時代を越えて東西南北の交流の結節点となった。

美作地域に稻作が伝播すると、弥生時代に農耕社会が形成された。その実像は長年にわたる遺跡の発掘調査成果の蓄積によって具体的に解明されつつある<sup>(1) (2)</sup>。大陸系磨製石器は稻作に伴って伝わり、生業や手工業生産の作業効率を高めた。そして、弥生時代は利器が石器から青銅器や鉄器に転換された時代でもある。

岡山県の弥生時代石器の研究は1980年代から深められた。まず、瀬戸内海沿岸を中心とした中・四国地方の弥生時代石器については、平井典子氏が器種組成や消長、石包丁の類型と地域性を概観したうえ、石器の流通について全体像を示した<sup>(3)</sup>。その後、平井勝氏が列島規模で各器種を網羅的に概観し、地域的な動向や変遷を明らかにするなかで多くを取り上げて詳しく検討したほか、岡山県南部の石器組成の変遷もまとめた<sup>(4) (5)</sup>。そして、県北部の石器については安川農史氏<sup>(6)</sup>が石器組成の変遷をまとめたほか、佐藤寛介氏<sup>(7)</sup>が津山市域を対象に石包丁の地域的特徴や幅年について検討を加えた。

吉備における弥生時代石器の生産と流通については、高田浩司氏がサスカイト製石器を中心に製作技術や搬入形態の分析を通じて生産と流通について検討したうえ、畿内と比較することで社会構造に迫った<sup>(8)</sup>。その後、草原孝典氏は弥生時代前期～中期の石器組成を丹念に整理し、岡山平野における石器の生産と流通、集落間の関係性について論じた<sup>(9)</sup>。

また、山ノ奥遺跡では弥生時代中期の遺構から石器とその未成品が多く出土した。これをもとに筆者は集落構造に加えて、石器の石材、器種組成や各種の製作技術を検討し、同遺跡の石器生産についてまとめた<sup>(10)</sup>。

さらに、藤井翔平氏は吉備南部における縄文～弥生移

行期の収穫具の変遷を検討してその特質を明らかにし、農耕を主な生業とする社会的背景を論じた<sup>(11)</sup>。

美作地域では弥生時代の集落や墓の調査例が多く、弥生文化を形成する諸要素の調査研究が進められているが、弥生文化を特徴づける大陸系磨製石器の研究については、他の資料や地域に比べて低調な現状にある。

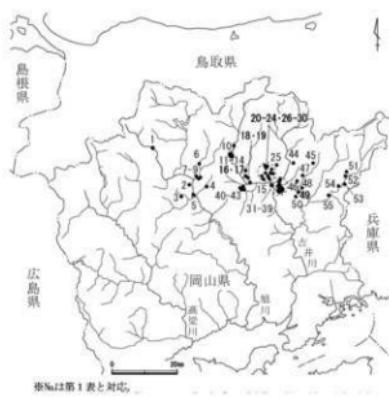
そこで本稿では美作地域の磨製石器を対象に、製作遺跡、組成や製作技術を検討することで、その生産の特徴や利器の鉄器化について考察したい。なお、本稿では発掘調査された遺跡を対象とし、表探資料は省略した。

## 2 磨製石器製作遺跡の分布と変遷

美作地域で弥生時代の磨製石器未完成品が出土した遺跡は55か所あり、製作遺跡とみられる（第1表）。時期別にみると、前期～中期1、前期～後期2、中期20、中期～後期16、後期10、不明6に分けられる。

前期は遺跡が少なく、事例が限られる。津山盆地の高橋谷遺跡は前期後半から中期中葉を主体とする集落で、美作地域のなかでもいち早く磨製石器が製作された。

中期前葉は集落が少ないなか、高橋谷遺跡や吉井川上流域の久田原遺跡で製作されている。そして、中期中葉



第1図 美作地域における弥生時代の磨製石器製作遺跡の分布 (S=1/1,500,000)

第1表 美作地域における弥生時代の磨製石器未・完成品（製品）の出土数

第 1 回	所 在 地	道 路 名	主な時期	天 然 石 材			大 型 刨 刀			中 型 刨 刀			工 具			天 然 石 材			成 品 ・ 制 品			文獻	
				原石 素材	扁平 石斧	扁平 石斧	斜块 片刃 石斧	斜块 片刃 石斧	磨製 石斧丁	石鎚	凹刃	砥石	大形 刨刀 石斧	中型 刨刀 石斧	扁平 片刃 石斧	圆弧 石斧	磨製 石斧丁	磨製 石斧					
1 真庭市東甘	室の前道路	後期								鋸削1	○								7		1		
2 真庭市福田	福田 A 道路	中期～後期								穿孔1	1	2	1	3	1				4		2		
3 真庭市西内河	黒鹿尾風呂道路	中期後半								鋸削4				1					2		3		
4 真庭市西内河	且の原道路	中期後半～後期初頭								鋸削1				○					5				
5 真庭市西原	西原道路	中期								鋸削1				?					1		4		
6 真庭市櫻西	上野道路	後期後半～末								鋸削3				研磨1					2		6		
7 真庭市木全金	大久道跡	(前期末～後期)									6									7			
8 真庭市中原	且山道路	後期								鋸削3				研磨2					8				
9 真庭市三島	種々森道路	中期後葉～後期中葉					鋸削2	鋸削2	研磨4		3	2	○	1	1			5		9			
10 錦町野村	野村道路	中期中葉					鋸削1	鋸削1	研磨2		○			穿孔1					4		10		
11 錦町野久田	下原道路	中期後葉～後期後葉								鋸削2				○					2		11		
12 錦町野久田下原	久田原ノ内道路	中期中葉～後葉					鋸削2		研磨1	○	○	○	8	5				13	(1)	12			
13 錦町野久田下原	久田原ノ内道路	中期後葉～後期後葉					鋸削1			穿孔1			○	2	3			1	14		13		
14 錦町野久田下原	更原道路	中期中葉～後期中葉					鋸削1		鋸削1					穿孔1				2	2	6		14	
15 錦町野久田原	大間道跡	不明								鋸削1				研磨1								15	
16 錦町野久田原	大番工塙道路	不明								鋸削1				穿孔1								15	
17 錦町野久田原	大番工塙道路	不明								鋸削1				穿孔1								15	
18 津山市戸島	戸島鳴道跡	中期後半					鋸削1	素材1			○			○								19	
19 津山市戸島	戸島前鳴道跡	中期後葉～後期後葉								鋸削3	○	○	3	1		1	11		20				
20 津山市大田	大田茶屋道跡	弥生						鋸削1	鋸削1	研磨1				穿孔1				2	1	3		16	
21 津山市大田	大田西奥道跡	中期								鋸削4				穿孔1				1	1	1		16	
22 津山市大田	大田大正道跡	中期					鋸削1						穿孔1					1		1		16	
23 津山市大田	大田篠子道跡	弥生											穿孔2									16	
24 津山市大田	大田十二社道跡	後期中葉～末								鋸削1				穿孔1								16	
25 津山市下高食西	ビショコ谷道跡	中期後半											穿孔1									17	
26 津山市高社北	高社北御所跡	中期中葉～後期前葉					鋸削1		穿孔1				○	○	○	5		6		21			
27 津山市南北	馬場谷道跡	(前中期後半～中期前半)		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○		○		22			
28 津山市沼	京免道跡	後期前葉～後葉								研磨1				○				3		12		23	
29 津山市沼	竹ノ下道跡	中期後葉								研磨1				穿孔1					2		23		
30 津山市沼	沼 E 通路	中期後半								鋸削1				穿孔1								24	
31 津山市山人	舟入西道路	中期後葉								鋸削1				穿孔4				○	1	2	1	8	
32 津山市山上	日上小原田道跡	中期後半					鋸削1						穿孔1									26	
33 津山市山邊	元神原道路	中期								研磨1				穿孔1				1				27	
34 津山市河辺	西田道跡	中期前半					鋸削1						穿孔1					1		3		28-29	
35 津山市金井	金井別所道跡	中期後葉								鋸削1		?			2							30	
36 津山市金井	貴西道路	中期後葉								鋸削2				穿孔1								31	
37 津山市小原	豊口道跡	前葉～後期								鋸削1				穿孔1								32	
38 津山市小原	小原道跡	中期前葉～中葉								鋸削1				穿孔1				○	1			33	
39 津山市小原	牛生原小原道跡	中期後半～後期前葉								鋸削1				穿孔1								34	
40 津山市桑下	桑込東通路	中期中葉					素材1		穿孔1		1			1		1	1	2		35			
41 津山市桑下	荒神道跡	中期後半～後期後半								穿孔1		?			2							36	
42 津山市久米川南	法事坊道跡	中期～後期								穿孔1				穿孔1				5				36	
43 津山市戸脇	釋山道路	中期後葉								鋸削2				穿孔1				○	2	1	1	8	
44 津山市上村	山ノ奥道路	中期中葉～後葉		素材1	素材1		鋸削6	鋸削14	穿孔1		○	○	○	3	10	2		7	(1)	37			
45 鎌町町中島	野田道跡	中期後葉					鋸削13	研磨7	穿孔14		○	○	○	3	10	2		7					
46 鎌町町吉吉	吉王寺道跡	中期後葉								鋸削1												48	
47 鎌町町吉吉	吉王寺道跡	中期後葉								鋸削1												49	
48 鎌町町吉吉	吉王寺道跡	中期後葉								鋸削11				穿孔1				○	9	5		50	
49 鎌町町吉吉	吉王寺道跡	中期後葉								鋸削2				穿孔2				○	1	4		51	
50 徳丸町大矢田	大内通路	中期中葉								鋸削1				穿孔1				○	1	1		52	
51 美作市今町	八幡山道跡	中期中葉～後期中葉					3						○	1	1			13		42			
52 美作市今町	八幡山道跡	中期後半～後期前葉	1				鋸削1		穿孔1		○	○	○	1	1			5		45			
53 美作市今町	今岡中山道路	中期後葉								鋸削2				穿孔1				1	1	1		45	
54 美作市川原	川原古堆跡	中期？					鋸削2	素材1			鋸削2			穿孔1								46	
55 美作市川原	古本通路	中期中葉					鋸削1		穿孔1		○			○	6	4		60	50	6	4	204	2

～後葉は同地域の広い範囲で集落が急増し、荒神風呂遺跡、旦の原遺跡、樋ヶ鼻遺跡、杉遺跡、久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、ビシャコ谷遺跡、男戸鶴遺跡、押入西遺跡、一貫西遺跡、隠地東遺跡、稼山遺跡、山ノ奥遺跡、大河内遺跡などで磨製石器生産が盛行する。これらの遺跡は旭川上流域、吉井川上流域とその支流の加茂川流域、津山盆地、吉野川流域と広範囲に分布する。

後期は堂の前遺跡、上野遺跡、旦山遺跡、樋ヶ鼻遺跡、荒神嶺遺跡、天神原遺跡、小原遺跡、弥平治遺跡、八幡山遺跡、今岡中山遺跡などで磨製石器が製作される。遺跡の分布範囲は中期とほぼ同じであるが、吉井川支流の吉野川上流域で新たに遺跡が加わる。ただ、遺跡数や石器の出土数は中期から大幅に減少し、後期末に収束する。

### 3 磨製石器の製作遺構

美作地域で磨製石器未成品が出土した遺構等は、堅穴住居55、掘立柱建物4、段状造構7、土坑14、墓3、柱穴列1、柱穴・ピット4、溝8、河道1、遺構外45、不明3の145例ある。堅穴住居からの出土例が大半を占めることから、集落内では主に堅穴住居で石器製作を行っていた可能性が高い。

堅穴住居からの出土例では、磨製石器の未成品や製品のみが少数出土する例が多い。そうしたなか、山ノ奥遺跡の堅穴住居4・7・9～11・24、荒神風呂遺跡の堅穴住居1、旦の原遺跡のNo11・14住居跡、弥平治遺跡の5号住居跡群は、磨製石器の未成品や製品だけでなく、石器石材の剝片、砥石や叩石の工具が伴い、石器製作跡として捉えることができる。このうち、山ノ奥遺跡では、石器製作跡の堅穴住居4・9・11の3軒は他の堅穴住居よりも大形であるだけでなく、堅穴住居4・11は太型蛤刃石斧と扁平片刃石斧、堅穴住居9は扁平片刃石斧、堅穴住居10は磨製石包丁、堅穴住居7・24はサスカイト製打製石器を主体的に製作していた。また、剝片や工具の出土は乏しいものの、上野遺跡の堅穴住居3では扁平片刃石斧と磨製石包丁、ビシャコ谷遺跡の5号長方形住居状造構、押入西遺跡の段状造構周辺、一貫西遺跡の住居址1では磨製石包丁、樋ヶ鼻遺跡の堅穴住居15、岡遺跡の堅穴住居1では扁平片刃石斧、八幡山遺跡の段状造構25では環状石斧の未成品が複数出土し、特定の器種を製作した遺構であった可能性がある。

### 4 磨製石器の組成

次に、美作地域で製作された磨製石器の器種について検討する。第1表に示したように、磨製石器の各種未成品をまとめると、太型蛤刃石斧43点(14.4%)、扁平片刃石斧114点(38.3%)、柱状片刃石斧8点(2.7%)、環状石斧7点(2.3%)、磨製石包丁125点(42.0%)、磨製石劍1点(0.3%)の計298点が出土している。

磨製石器未成品の出土数と器種ごとに比べると、生産規模は大まかに3つに分けられる。まず、山ノ奥遺跡では未成品が100点も出土しており、同地域では群を抜いて生産規模が大きい。しかも、製作器種は太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧、磨製石包丁、磨製石劍、打製石器などと多様である。出土数及び規模は明確ではないが、高橋谷遺跡は多種多様な磨製石器を製作する点で、山ノ奥遺跡と共に通する。

次いで、弥平治遺跡、西原遺跡、樋ヶ鼻遺跡、上野遺跡では未成品が10～20点とやや多い。いずれの遺跡も扁平片刃石斧を製作する点で共通するが、旭川上流域の西原遺跡、上野遺跡、樋ヶ鼻遺跡では磨製石包丁、吉野川支流の滝川流域の弥平治遺跡では太型蛤刃石斧を重点的に製作しており、主力製品が地域によって異なる。このほか、上記6遺跡以外の遺跡の多くは、磨製石器未成品の出土が10点未満と少なく、小規模な生産である。

磨製石器未成品出土遺跡における完成品、製品の出土数を器種ごとにみると、太型蛤刃石斧は26遺跡で計60点、柱状片刃石斧は6遺跡で計6点、扁平片刃石斧は24遺跡で計50点、環状石斧は5遺跡で計5点以上、磨製石包丁は38遺跡で計204点、磨製石劍は2遺跡で計6点(石包丁の転用)が出土している。

美作地域では、磨製石包丁と扁平片刃石斧、あるいはそのどちらか一方を製作する遺跡が圧倒的に多い。扁平片刃石斧は美作地域で広く普遍的に作られる。それに対し、磨製石包丁は旭川上流域や吉井川上流域、津山盆地の大半の遺跡で多く製作される一方、吉野川流域では尾崎遺跡や川戸古墳群でわずかに製作される程度で、小地域性が認められる。また、太型蛤刃石斧は山ノ奥遺跡で多く製作されるほか、弥平治遺跡、川戸古墳群、樋ヶ鼻遺跡など製作遺跡は限られる。さらに、環状石斧は吉野川流域や吉井川上流域の遺跡にやや偏在して製作され

ている。このほか、磨製石剣は希少ながら、吉井川上流域の遺跡を中心に認められる。

## 5 磨製石器の製作技術

次に、太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧、磨製石包丁の使用石材や製作技術について検討する。なお、石器の各種分類は註4文献に準ずる。

### (1) 太型蛤刃石斧（第2図）

未成品は13遺跡で、計43点が認められる。山ノ奥遺跡では剥離工程品6、敲打工程品13点、研磨工程品7点の計26点、弥平治遺跡は敲打工程品1点、研磨工程品2点、川戸古墳群や樋ヶ鼻遺跡はそれぞれ剥離工程品2点と敲打工程品1点の計3点、美作御脊跡や高本遺跡は剥離工程品各1点、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、岡田遺跡、男戸嶋遺跡は敲打工程品各1点が出土している。特に、山ノ奥遺跡は未成品が多いうえ、各工程の未成品が見られることから、美作地域で最も生産規模が大きく、一貫した生産が行われたと考えられる。次いで、弥平治遺跡、川戸古墳群、樋ヶ鼻遺跡は各工程の未成品が複数認められるが、出土数は少なく、生産規模は小さい。他の遺跡は特定の工程の未成品が1点程度出土しており、単発的な生産であった可能性がある。太型蛤刃石斧の生産は中期に主体的に行われたが、後期は破損品が出土することが多く、縮小したことが推測される。

石材は玄武岩、安山岩、ヒン岩、緑色片岩、砂岩を主体とするほか、角閃石頁岩、角閃石安山岩、斑レイ岩、石英安山岩などがある。

製作は、原石→剥離→敲打→研磨→仕上げの工程をたどる。こうした一連の工程は他の石斧にも共通する。山ノ奥遺跡の事例を基本としつつ、製作工程を復元する。

まず、原石は厚板状の円蹠を選択している（1）。山ノ奥遺跡では加茂川流域の玄武岩を主に採取した可能性がある。山ノ奥遺跡出土玄武岩は、白石純氏によって、加茂川上流域の津山市吉見地内の路頭にあるカンラン石玄武岩とともに偏光顕微鏡観察による岩石種の同定や螢光X線分析を実施した結果、各元素の分析値がほぼ一致したことが検証された<sup>〔2〕</sup>。剥離工程では、原石の周縁を大まかに直接剥離して、棒状に近づくように成形する（2・3）。山ノ奥遺跡出土未成品（2）では接合資料により、長さ6cmの剥片が剥ぎ取られたことが分かる。次

に剥離面の後線を潰すために敲打を施し、刃部や基部を意識しながら、断面が梢円形になるまで全体を整える（4～7）。統いて、研磨を全面にわたって行い、剥離面や敲打痕を研ぎ消す（8～10）。その後、刃部を研いで完成となる（11～15）。なお、山ノ奥遺跡では太型蛤刃石斧未成品27点が認められるなか、敲打工程13点のうち8点、研磨工程品7点のうち4点が失敗品であることから、敲打・研磨工程で欠損する比率が高かったと推測される。

完成品・製品は35遺跡、計75点が出土している。基部は円基や平基があり、側面が平行で、断面が円形に近い梢円形となるⅢB類が大半を占める。長さ21cm、幅6.5cm、厚さ5cm、重量1,100g前後の大形品（ⅢB類）、長さ15cm前後、幅6～7cm、厚さ4～5cm、重量600～800g前後の中形品がある。また、同形で断面が扁平な両刃石斧（ⅢA類）も散見される。

### (2) 柱状片刃石斧（第3図）

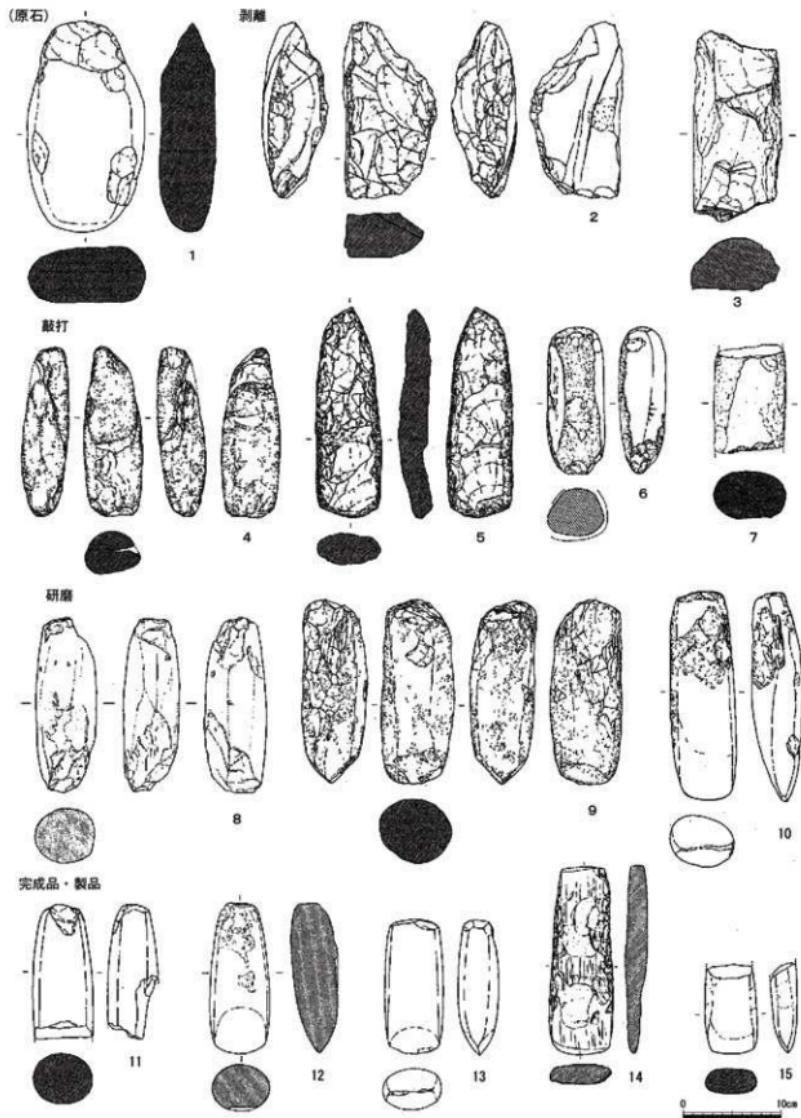
山ノ奥遺跡で8点、高橋谷遺跡で未成品が確認されている。石材は緑色片岩、砂岩、変斑レイ岩、安山岩、石英閃緑岩製など様々である。

製作工程は山ノ奥遺跡の事例から復元できる。柱状片刃石斧は小ぶりな円蹠状原石の周りに直接剥離して、断面が方形に近い直方体に成形したものを素材とする。剥離工程では、刃部と基部を意識して調整剥離する（16・17）。統いて、敲打は前正面や側面を中心に行われ、剥離面を平滑にする（18・19）。そして、研磨工程では断面形が長方形や方形、あるいは台形になるように整形する（20）。その後、刃を研いで完成となる（21～25）。

完成品・製品は山ノ奥遺跡、押入西遺跡、稼山遺跡、高本遺跡、田井たれをす遺跡の6遺跡で計6点が出土し、美作地域では希少である。時期は中期中葉～後葉である。製品は、抉りがあって断面が台形を呈するもの（Ⅰ類B）が高橋谷遺跡で認められるほかは、抉りがないⅡ類が多い。Ⅱ類は、田井たれをす遺跡では長さ14cm、断面が長方形で幅が狭いもの（Ⅱ類A）、山ノ奥遺跡では長さ10cm程度、小形で断面が方形のもの（Ⅱ類B）と幅広のもの、稼山遺跡では小形で幅広のものがある。

### (3) 扁平片刃石斧（第4図）

未成品は27遺跡で、計114点と多く出土した。旭川、吉井川、吉野川の各上流域の遺跡で未成品が認められ、

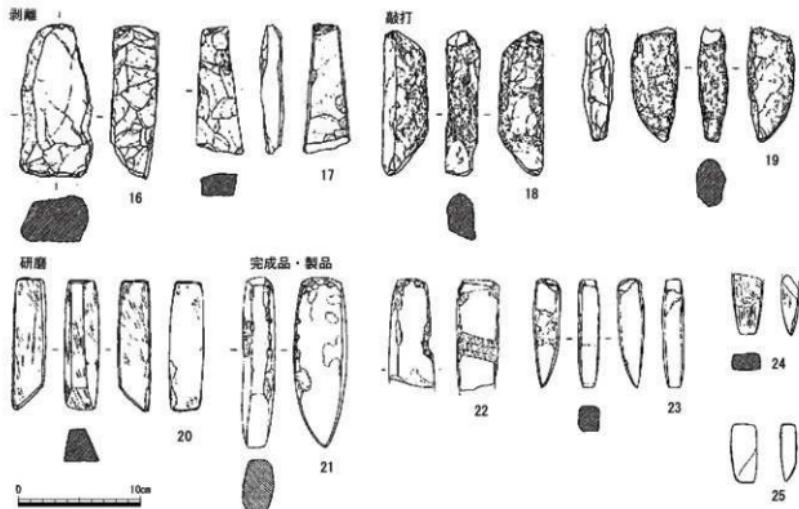


1・2・4・5・9～11・15 山ノ奥（中期中葉～後葉）、3・7 用戸古墳群（弥生？）、6 夏栗（6中期後葉）。

8 弥平治（中～後期）、12 小中道路（中期中葉）、13 梶ヶ鼻（中期後葉）、14 竹田（中期後葉～後期中葉）

[1・2・5・10・13 玄武岩、14 玄武岩？、4・9・11・15 緑色片岩、6 ピン岩、他は不明]

第2図 美作地域の大型蛤刃石斧未・完成品、製品 (S=1/5)



16～20・23・24 山ノ奥（中期中葉～後葉）、21 田井たれをす（中期後半）、22 高橋谷（前期後半～中期前半）、25 榛山（中期後葉）  
[16～19・23・24 緑色片岩、20 流紋岩・21 流紋岩質溶結凝灰岩、25 斧斑レイ岩、他は不明]

第3図 美作地域の柱状片刃石斧未・完成品、製品 (S=1/4)

美作地域で広く製作された。なかでも、山ノ奥遺跡では素材5点、剥離工程品14点、敲打工程品13点、研磨工程品14点の計46点が出土しており、美作地域で最も盛んに作られた。次いで、弥平次遺跡では剥離工程品11点、敲打工程品1点、研磨工程品6点の計18点が多い。続いて、樋ヶ鼻遺跡で6点、小中遺跡で5点の未完成品が認められるほかは、未完成品が4点以下の遺跡が大多数を占める。

製作は、山ノ奥遺跡や弥平治遺跡の事例から復元できる。原石・石核は明確ではないが、長さ12cm、幅5cm、厚さ2cm前後の板状削片を素材とする(26～29)。剥離工程では周縁を細かく調整剥離し、平面形が長方形や長台形になるように成形する(30～33)。次に、表裏面に敲打を施し、剥離面の稜線を潰して平滑にする(34～37)。続いて、各面を研磨して整形する(38～43)。その後、片側に刃部を研いで完成させる(44～51)。中期は丁寧に研磨されたものが多いため、時期が下るにつれて研磨を簡略化して刃部のみを研ぐものを見られる。

完成品・製品は31遺跡で計67点が出土している。山ノ奥遺跡で10点、久田原遺跡や小中遺跡で各5点、大河

内遺跡で4点が出土したほか、3点以下の出土遺跡が大多数である。石材は、緑色片岩、流紋岩、玄武岩を主体とし、安山岩、粘板岩、玄武岩質凝灰岩なども認められる。規格は長方形板状で、長さ12cm、幅5cm、厚さ2cm前後の大形品、長さ8～9cm、幅5cm、厚さ1cm前後の中形品、長さ6cm、幅4cm、厚さ0.8cm前後の小形品、長さ10cm、幅2～3cm、厚さ1cm前後の細長形、長さ3～4cm、幅2cm、厚さ0.5cmの極小品がある。また、樋ヶ鼻遺跡では、極小品と同じような規格で、サスカイト製で刃部を研磨した剝片も認められる。

#### (4) 柱状石斧 (第4図)

未完成品は6遺跡で計7点あり、大田茶屋遺跡で剥離工程品1点、八幡山遺跡で敲打・穿孔・研磨工程品が各1点、美作国府跡、山ノ奥遺跡、八幡山遺跡、今岡中山遺跡で穿孔工程品が各1点、高橋谷遺跡で出土している。石材は安山岩や玄武岩を主体とし、砂岩、細粒閃緑岩、溶結凝灰岩も認められる。

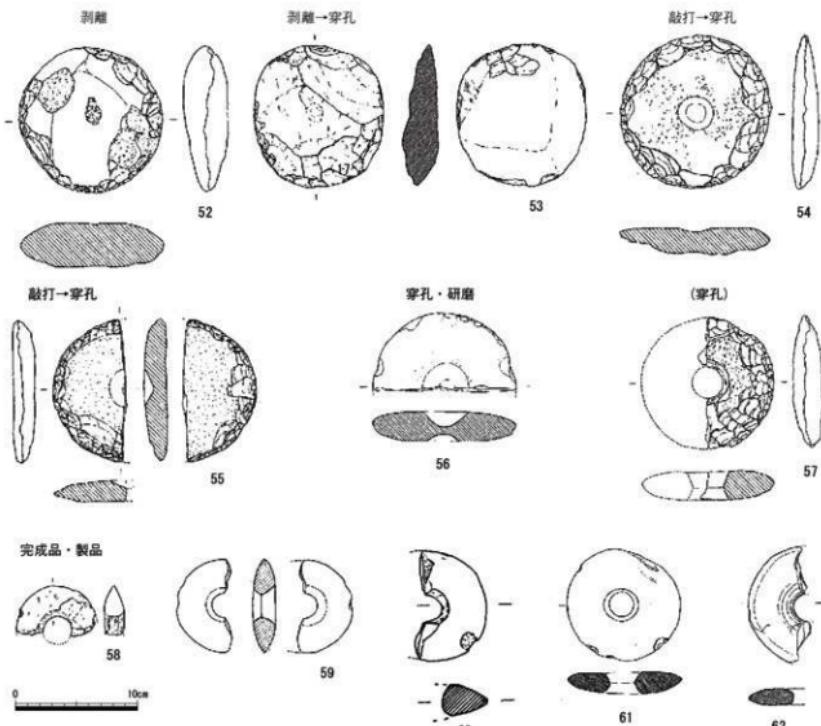
原石は扁平な円錐を用い、側面から半裁して素材とした可能性がある。剥離工程では周縁を大まかに調整剥離して円盤状に成形する(52・53)。敲打は表裏面を重点



26・27・30～32・34～39・42・49・51 山ノ奥（中期中葉～後葉）、28・33 且の原（中期後半～後期初頭）、29・40・41 弥生治（中～後期）、43・50 桶ノ鼻（43 中期後葉、50 後期前葉）、44 八幡山（中期後半）、45 久田畠ノ内（中期後葉）、46 高橋谷（前期後半～中期前半）、47 押入西（中期後葉）

[26・28・30～36・38・39・42・47・49・51 緑色片岩、27・37 玄武岩、43 黒岩、44・45 流紋岩、50 サスカイト、他は不明]

第4図 美作地域の扁平片刃石斧未・完成品、製品 (S=1/4)



52・54・57 八幡山（後期中葉以前）、53 山ノ奥（中期後葉）、55 今朝中山（後期前葉）、56 美作国府跡（不明）、58 高橋谷（前期後半～中期前半）、59 稲山（中期後葉）、60 隠地東（中期中葉）、61 大畠（後期前半）、62 荒神峯（中～後期？）

[52・54・56・57 安山岩、53・55 玄武岩、59 細粒閃綠岩、他は不明]

## 第5図 美作地域の環状石斧未・完成品、製品 (S=1/4)

的に行われ、周縁部は剥離面を残した状態で穿孔が始まる（54・55）。山ノ奥遺跡では敲打痕は認められないが、表面中央に初孔部のような窪み、裏面の縁辺に研磨痕が認められる（53）。穿孔は石錐による両面穿孔である（56～58）。孔が貫通した後は、全体を研磨し、側面に刃部が全周するように研いで完成となる（59～63）。

完成品・製品は高橋谷遺跡、稲山遺跡、隠地東遺跡、久安堀ノ内遺跡、荒神峯遺跡、大畠遺跡の6遺跡で各1点、計6点ある。規格は直径6.5～9cm、厚さ1.5～2.3cm、孔径2cm前後であり、半分に欠損したものが顕著である。分布をみると、吉井川上流域や吉野川上流域の遺跡に多く、美作地域中央・東部に偏る。製作や使用の主な時期

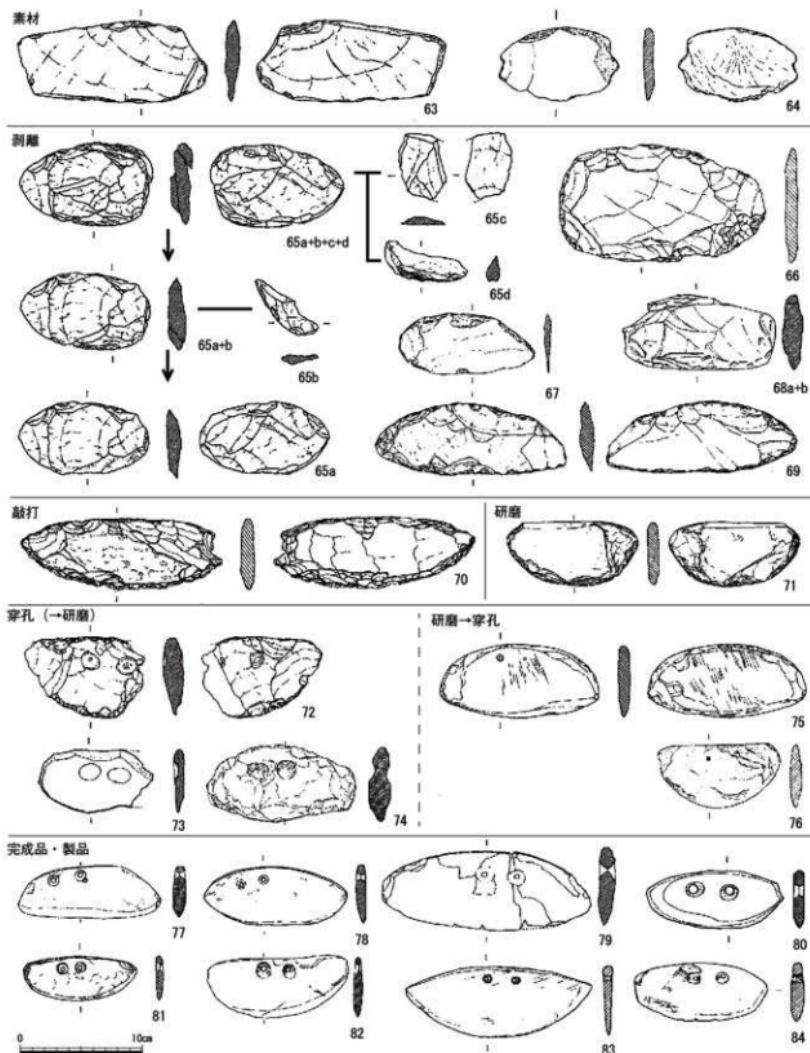
は中期中葉～後期前葉である。

## (5) 磨製石刀丁（第6図）

未完成品は43遺跡で計125点と多く認められ、美作地域で広く盛んに作られている。西原遺跡で15点、山ノ奥遺跡で10点、上野遺跡で8点、旦山遺跡、大田茶屋遺跡、大田障子遺跡、押入西遺跡、法事坊遺跡で各5点、その他は4点以下が21遺跡ある。

石材は緑色片岩を主体としつつ、吉井川上流域では粘板岩、頁岩、結晶片岩、砂質片岩、黒色砂岩、流紋岩などの多様な石材も一定数認められるなか、津山盆地では白雲母石英片岩、吉野川上流域では粘板岩もある。

製作は、原石・石核から素材剥片を剥ぎ取った後、剥



63・65・72・78・79 山ノ奥（中期中葉～後葉）、64 宮の前遺跡（後期）、66 八幡山（後期前葉）、67 芥神風呂（中期後半）、  
68 ビャコ谷（中期中葉）、69・75・81 稲ヶ鼻（69・81 後期前葉、75 中～後期）、70 夏栗（中～後期）、71 大田茶屋（中期後葉）、  
73・80 押入西（中期後葉）、74・77 一貫西（中期後葉）、76・83 大田十二社（82 後期中葉、83 後期後葉）、82 小原（後期中葉）、  
84 天神原（後期末）【63・64・67・68・70・71・75・76・81 緑色片岩、65・72・78 黒色砂岩、66 粘板岩状灰岩、69 レキ岩、72・79・80 砂質片岩、73・77・83・84 粘板岩、82 白雲母片岩】

第6図 美作地域の磨製石包丁未・完成品・製品 (S=1/4)

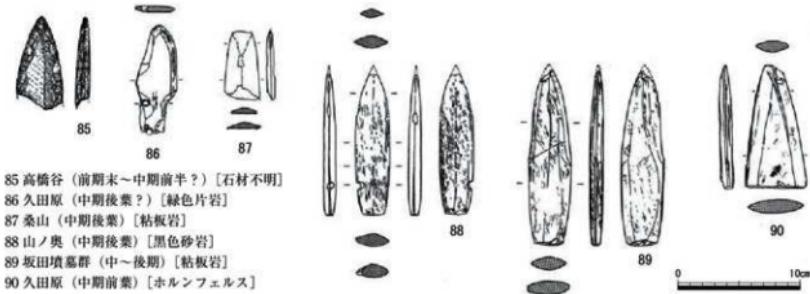
離→(敲打)→研磨・穿孔→仕上げの工程をたどる。石包丁の製作に伴う原石や石核は明確ではないが、山ノ奥遺跡や堂の前遺跡では素材剥片が出土している(63・64)。素材は長さ5~10cm、幅10~17cm、厚さ1cm前後の横長剥片である。剥離工程では、素材剥片の厚さが薄い面を刃部、厚い面を背部となるように意識しながら、周縁を大まかに剥離して成形する(65~69)。山ノ奥遺跡やビャカゴ遺跡では接合資料が得られ、長さ5~7cmの剥片が連続して剥ぎ取られていることが窺える(65a+b+c+d・68a+b)。その後、細かい調整剥離を周縁に施す。夏栗遺跡(70)や一貫西遺跡では表面を敲打した未成品が見つかっているが、美作地域では敲打工程品は極めて少ない。次に、研磨や穿孔が行われるが、遺跡や石材によって順序が異なる。まず、研磨前に敲打や石錐で穿孔を行う未成品は、山ノ奥遺跡(72黒色砂岩製)、押入西遺跡(73)、一貫西遺跡(74)、大田茶屋遺跡で出土しており、穿孔後に研磨を行うことが推測される。それに対して、穿孔前に研磨を行う未成品は、大田茶屋遺跡(71)、荒神岳遺跡、山ノ奥遺跡(緑色片岩製)、押入西遺跡、大田十二社遺跡(緑色片岩製)、京免遺跡、沼E遺跡、天神原遺跡で見つかっており、表面に研磨を施して平滑に整形している。そして、研磨後に穿孔する未成品、鶴ヶ鼻遺跡(75)、大田十二社遺跡(76)、法事坊遺跡などで出土している。このように磨製石包丁の製作工程に研磨→穿孔と穿孔→研磨の2通りがあることは、津山盆地の遺跡出土資料を対象として、佐藤寛介氏(1998)がすでに指摘していることであるが、美作地域全体でも再確認することができた。穿孔は石錐による穿

孔、敲打による穿孔に関係なく、両面穿孔である。研磨・穿孔後の最終工程では刃部を研いで完成となる。

完成品・製品は63遺跡で計280点の出土例がある。領家遺跡や小中遺跡で各15点、久田堀ノ内遺跡で14点、久田原遺跡や宮ノ上遺跡で各13点、荒神岳遺跡で11点、大田十二社遺跡や京免遺跡で各12点、天神原遺跡で10点、稼山遺跡や押入西遺跡で各8点、山ノ奥遺跡や堂の前遺跡で各7点のほか、6点以下は55遺跡ある。地域全体で広く普及し、各小地域では10点以上の石包丁を保有する遺跡が散見される。形態をみると、中期は平面形が直線刃半月形(77)や梢円形(78~80)で、全体的に丸みを帯びて、やや厚みがあるものが多いのに対し、後期は外湾刃半月形(82)や杏仁形(83)が主体となることが佐藤氏によって示唆されている(註7文献)。美作地域では堂の前遺跡、上野遺跡、大田十二社遺跡、天神原遺跡のように後期末まで磨製石包丁が使用された例もある。また、稼山遺跡、向林遺跡では瀬戸内海沿岸で主体的に使われたサスカイト製の打製石包丁が出土したほか、津市大畠遺跡では磨製石包丁の主石材として使われた緑色片岩を打製石包丁に代用した例もある。

#### (6) 磨製石剣・石矛(第7図)

高橋谷遺跡では磨製石剣の研磨工程未成品(85)が出土している。武器形の磨製石器は、桑山古墳群で粘板岩製石剣(87)、山ノ奥遺跡や坂田墳墓群で鉄劍形の石剣(88・89)、久田原遺跡ではホルンフェルス製石矛か石剣(90)が各1点出土している。このうち、山ノ奥遺跡や久田原遺跡の石剣(86)は、石材が磨製石包丁と共に不規則な部位に孔が認められることから、石包丁を転用



第7図 美作地域の磨製石剣・石矛(S=1/4)

した可能性が高い。

## 6 美作地域における磨製石器生産の特徴

以上の様々な検討をまとめると、次のとおり、美作地域における磨製石器生産の特徴をあげることができる。

①生産規模に関わらず、広域にわたって磨製石包丁と扁平片刃石斧を多くの遺跡で製作する。ただし、磨製石包丁の製作は吉野川上流域では低調である。

②大型蛤刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧は、特定の遺跡で製作され、生産量は限られる。

③環状石斧は津山盆地、吉野川上流域にやや偏る。

④緑色片岩が各種石器に多用されるほか、器種や遺跡に応じて多様な石材が選択される。

⑤磨製石器の生産規模は、A類：多種多様な石器を多量に生産する遺跡（山ノ奥遺跡、高橋谷遺跡）、B類：特定の器種を重点的にやや多く生産する遺跡（弥生治遺跡、西原遺跡、上野遺跡、樋ヶ鼻遺跡、押入西遺跡など）、C類：扁平片刃石斧や磨製石包丁を小規模に生産する遺跡（荒神風呂遺跡、旦原遺跡、久田原遺跡、稼山遺跡、一貫西遺跡、小原遺跡など）、D類：扁平片刃石斧あるいは磨製石包丁を小規模に生産する遺跡（堂の前遺跡、旦山遺跡、ビシャコ谷遺跡、荒神峯遺跡、法事坊遺跡など）がある。

## 7 美作地域における磨製石器の流通

磨製石器の未成品と製品（完成品を含む）の器種や出土数を第1表及び第8図のように比べると、美作地域における磨製石器の流通は次のI～IV類に大別できる。

I類は、未成品の出土数が製品よりも圧倒的に多く、磨製石器を大規模に生産して周辺の遺跡に供給した遺跡である。山ノ奥遺跡が該当し、製品の4倍近い未成品が出土したうえ、多種多様な石器を生産していることから、遺跡外に複数器種の磨製石器を供給した可能性が高い。

II類は、未成品の出土数が製品より多く、特定の器種を小規模に生産し、遺跡外へ供給したことが想定される遺跡である。西原遺跡や上野遺跡は磨製石包丁、弥生治遺跡は扁平片刃石斧を小規模に生産した可能性がある。

III類は、未成品と製品の組成や出土数が同じような傾向を示し、自給的な生産を行った可能性がある遺跡である。荒神風呂遺跡、樋ヶ鼻遺跡、押入西遺跡、大田茶屋

遺跡、大田西奥田遺跡、法事坊遺跡、稼山遺跡、が該当し、主に扁平片刃石斧や磨製石包丁を生産して集落内で消費していたことが推測される。

IV類は、未成品よりも製品が多い。あるいは未成品が出土していない遺跡で、他の遺跡で生産された製品を主に入手して消費していたことが想定される。堂の前遺跡、



第8図 美作地域における磨製石器未・完成品、製品の出土数

福田A遺跡、久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、荒神嶺遺跡、大田十二社遺跡、美作国府跡、京免遺跡、天神原遺跡、領家遺跡、小中遺跡、宮ノ上遺跡などが該当する。磨製石包丁が極端に多い遺跡が見受けられ、稻作などの農耕を重点的に行った集落や、各小地域の拠点的な集落、後期の集落が目立つ。

## 8 弥生時代の美作地域における利器の鉄器化

弥生時代は武器や農工具などの利器が石器から鉄器に転換された。第9図に美作地域で時期が分かれる石器や鉄器を抽出し、時期ごとに出土数を集計して変遷を示した。岡山県域の弥生時代鉄器の様相については佐藤氏が具体像に迫り、本稿でも学ぶところが多い<sup>(13)</sup>。

前期の遺跡が希少で、高橋谷遺跡や大旦遺跡で大陸系磨製石器やサヌカイト製打製石器が出土しているが、具体的な様相は明らかでない。

中期前葉～中葉の久田原遺跡で石器が主体であるなか、鑄造鉄器の破片が出土しており、同地域で最古級の鉄器に位置づけられる。同遺跡では打製石器の狩猟工具（鎌）が46%・加工工具（錐・楔など）が33%と主体であるのに対し、磨製石器の伐採・加工工具は5%、収穫具の磨製石包丁は8%と一定数を保有している。のことから、縄文時代の石器組成を基本としつつ、稲作農耕に必要な石器を選択的に取り入れていたことや、このような組成は沖山盆地の遺跡とも共通すること、石包丁の転用

行為が認められることが指摘されている。さらに、同遺跡では石器や菅玉を製作した竪穴住居9・15・18などから板状や棒状の鋳造鉄器再加工品が計12点出土しており、同地域における鉄器出現期を考えるうえで重要視されている。入手にあたっては立地や玉生産との結び付きなどから日本海沿岸地域との交流による可能性が高いとされている<sup>110</sup>。

美作地域では中期中葉に集落が各地に広がり、後葉には広範囲に急増して磨製石器が盛んに生産・消費された。磨製石器は器種が多様となり、特に大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、磨製石包丁は主体となる。また、中期後葉には板状鉄斧、鎌、鉄鎌が出現する。鉄器は沼遺跡、鮎込遺跡、西吉田遺跡、ビシャコ谷遺跡、葡萄田頭遺跡、久田堀ノ内遺跡などで出土しており、このうち、西吉田遺跡や葡萄田頭遺跡では石斧と鉄斧が共に使用された。鉄器出土遺跡は増加するものの、各遺跡では出土数や器種は限定的である。このほか、山ノ奥遺跡では磨製石包丁を転用した鉄劍形石剣が出土し、石器が主体となる集落であっても鐵器がある程度普及していた可能性がある。

後期前葉によると、石蹴や磨製石包丁以外の石器が急速に衰退する。一方で、鉄器の器種や出土数が増え、鉄鎌、板状鉄斧、鑄造鉄斧、鉈、鑿、刀子、鎌が広く普及するようになった。鉄鎌は有本遺跡、向林遺跡、小原遺跡、大畠遺跡、施ヶ二宮岡東遺跡、鑿は稼山遺跡で認められるほか、夏堀遺跡では鉄器や鉄片を再加工した鐵器

部隊	武器 弾薬類		伏深具		加工工具						農具			工具	その他	
	石器	鐵器	大型 始刀 石斧	板状 錐頭	柱状 片刃 石斧	扁平 片刃 石斧	鑄造 鋸斧	伏狀 鋸斧	ヤリ ガンナ	ノミ	タガキ	磨製 石臼	鎌	鍛鎚先	刀子	
初期	—	■														
中期	前半	■						■	■	■						
中期	中後	■														■
中期	後半			6	■	4								7		■
後期	前半		2	21	5	4	19			3				43		■
後期	中後			2	1	4								22	1	
後期	後半		4				2	1	2	2				15		■
後期	東風		21	2	5			1	8	1				21	1	5
			8					1	6					5	1	2

\*1 石器は第1表及び第1表下に記した遺跡のうち、時期が把握できる資料を集計した。

② 鐵道は【中期】久田遺跡、久田塚／内道跡、薦哥田遺跡、男戸塚遺跡、ビシャコ谷遺跡、沼遺跡、辯沢遺跡、西吉田遺跡、【後期】ヒロダン・小板向遺跡、中山遺跡、福田A1道遺跡、上野遺跡、且山塚、猪ヶ塚、竹町号下塚、住居跡、本郷遺跡、荒神船遺跡、二宮大成遺跡、大田十二社遺跡、小原遺跡、大畠遺跡、向林遺跡、大開遺跡、釋山遺跡、今岡山中塚、高岡塚、対象とし、其が把握できる資料を算定した。

第9図 弥生時代の美作地域における利器の出土数・変遷

製作が行われた。ただし、後期中葉まで各遺跡の鉄器出土数は1点と限られる集落が大半を占める。

後期後葉は鉄器の分布域が美作地域の広範囲に及ぶ。しかも、出土数は大幅に増え、後期前葉～中葉の四倍近くになる。美作地域では津市荒神船遺跡、有本遺跡、大田十二社遺跡、大開遺跡、二宮大成遺跡、真庭市旦山遺跡、中山遺跡、上野遺跡、ヒロダン・小坂向遺跡などで鉄器が出土しており、複数の鉄器を保有した集落が多い。鉄器は鎌、板状鉄斧、鎚、刀子が主体であるが、新たに鎗や鍔鎗の刃先が出現する。それに対して、磨製石包丁は後期後葉まで一定数出土し続けていることから、収穫具は磨製石包丁を主体とし、鉄鎌は補助的に使用したことかが追認される。そして、磨製石包丁は大田十二社遺跡や上野遺跡のように後期末葉まで使用されるが、収束傾向にある。このほか、弥生時代の遺跡で鉄器が出土していないなくても、大開遺跡や樋ヶ鼻遺跡出土例のように、鉄器を研いだ砥石も鉄器の普及を示す指標となろう。

美作地域の磨製石器は、前期後半に出現し、中期後葉に盛行したが、後期になって大半の器種が急速に衰退するなか、磨製石包丁は後期末葉まで使用された。一方、鉄器は中期前葉にわずかに出現し、中期中葉から後葉中葉まで段階的に器種や出土遺跡が増え、武器・狩猟具、伐採・加工具、農具に徐々に普及していった。後期後葉～末葉には生業や手工業生産に鉄器が広く普及するなか、主な収穫具として磨製石包丁が使用され続けたことは美作地域の特徴と言える。

## 9 おわりに

本稿では、美作地域における弥生時代の磨製石器の未成品や製品をもとに、製作遺跡の分布、組成や製作技術を検討することで、磨製石器の生産の特徴や流通について考察した。そのうえで石器と鉄器の出土状況の変遷を整理し、利器の鉄器化についても検討した。

弥生時代集落の発掘調査では、形態が分かりやすい石器（製品）は認定・資料化されやすいが、石器生産を具体的に示す製作途中品や敗戦品などの未成品、工具、石器石材の剥片についても的確に認定・資料化する必要があることは言うまでもない。

今後、サスカイトや黒曜石製の打製石器との検討、石器を使用する生業や手工業生産との関わり、瀬戸内海沿

岸地域や日本海沿岸地域との比較を検討することで、さらに美作地域における弥生社会の地域性が浮き彫りになるとを考えられるが、別稿に期したい。

## 註

- (1) 中山俊紀 2005『沼遺跡と美作の弥生集落』吉備考古ライブラリー・11 吉備人出版
- (2) 上林武・河合忍・米田克彦 「第3章 弥生時代」『新修津市史』通史編 自然風土・原始古代 津市
- (3) 平井典子 1988『中・四国における弥生時代の石器』『考古学ジャーナル』No290 ニュー・サイエンス社
- (4) 平井勝 1991『弥生時代の石器』考古ライブラリー64 ニュー・サイエンス社
- (5) 平井勝 1996『岡山県南部の石器組成の変遷』『農耕開始期の石器組成1 近畿（大阪・兵庫）・中国・四国』国立歴史民俗博物館
- (6) 安川豊史 1996『岡山県北部の石器組成の変遷』註5文献
- (7) 佐藤寛介 1998『弥生時代の石器について』文献16
- (8) 高田浩司 2001『吉備における弥生時代中期に石器の生産と流通』『古代吉備』第23集 古代吉備研究会
- (9) 草原孝典 2015『石器組成からみた岡山平野の弥生集落－弥生前期・中期の集落遺跡の動向－』『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 岡山市教育委員会
- (10) 米田克彦 2004『山ノ奥遺跡における弥生時代中期の石器生産』文献37
- (11) 藤井耕平 2020『吉備南部における縄文～弥生移行期の収穫具』『紀要』第1号 岡山県古代吉備文化財センター
- (12) 白石純 2004『山ノ奥遺跡出土石器の石材について』文献37
- (13) 佐藤寛介 2002『岡山県域における弥生時代鉄器文化の様相』『環瀬戸内海の考古学』下巻 古代吉備研究会
- (14) 佐藤寛介・河合忍 2004『弥生時代の石器・鉄器・玉生産について』文献12

## 文献（第1表・図出典）

- 1 美甘町教育委員会1989『堂の前遺跡』
- 2 落合町教育委員会1983『福田A遺跡 高屋B遺跡』
- 3 岡山県教育委員会1990『荒神風呂遺跡 荒神風呂古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告（以下、県報告）76
- 4 岡山県教育委員会1977『旦の原遺跡』『中国縱貫自動車道

- 建設に伴う発掘調査3』県報告14
- 5 岡山県教育委員会1974「美作国府跡 二宮大成遺跡 西原遺跡」「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査3」県報告6
- 6 岡山県教育委員会1994「上野遺跡」「中国横断自動車道建設に伴う発掘調査1」県報告91
- 7 久世町教育委員会1975「久世町史」
- 8 岡山県教育委員会1999「旦山遺跡 惣台遺跡 野辺張遺跡 先日山遺跡 旦山古墳群 奥田古墳 水神ヶ造遺跡」県報告136
- 9 岡山県教育委員会2004「鷹ヶ鼻遺跡」県報告183
- 10 岡山県奥津町教育委員会2000「杉遺跡」奥津町埋蔵文化財発掘調査報告4
- 11 岡山県教育委員会2003「河内構遺跡 河内城跡 河内遺跡 ナル林遺跡 久田上原城跡 北条高下遺跡 焰烟遺跡 間遺跡 比丘尼ヶ城跡 城鎧城跡 札ノ尾遺跡」県報告170
- 12 岡山県教育委員会2004「久田原遺跡 久田原古墳群」県報告184
- 13 岡山県教育委員会2005「久田堀ノ内遺跡」県報告192
- 14 岡山県教育委員会2005「夏果遺跡」県報告194
- 15 岡山県教育委員会2002「立石遺跡、大開遺跡、六番丁場遺跡、九番丁場遺跡」県報告165
- 16 岡山県教育委員会1998「大田茶屋遺跡2 大田障子遺跡 大田松山久保遺跡 大田大正開遺跡 大田西奥田遺跡」県報告129
- 17 津山市教育委員会1981「大田十二社遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告（以下、市報告）10
- 18 津山市教育委員会1984「ビシャコ谷遺跡」市報告16
- 19 津山市教育委員会1999「男川鶴遺跡」市報告65
- 20 津山市教育委員会1999「荒神峯遺跡」市報告64
- 21 岡山県教育委員会2011「美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡」県報告228
- 22 中山俊紀2020「高橋谷遺跡」「新修津山市史」資料編 考古 津山市
- 23 津山市教育委員会1982「京免・竹ノ下遺跡」市報告11
- 24 津山市教育委員会1981「沼E II遺跡」市報告8
- 25 岡山県教育委員会1974「押入西遺跡」「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査1」県報告3
- 26 津山市教育委員会2000「日上小深田遺跡」市報告66
- 27 岡山県教育委員会1975「狼谷遺跡 小中古墳群 小中遺跡 天神原遺跡」「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査4」
- 県報告7
- 28 豊島雪絵2002「岡田遺跡出土遺物について」「年報津山弥生の里」第9号 津山市教育委員会
- 29 宮崎絢子2022「岡田遺跡発掘調査報告」「年報津山弥生の里」第29号 津山市教育委員会
- 30 津山市教育委員会1988「金井別所遺跡」市報告25
- 31 津山市教育委員会1990「一貫西遺跡」県報告33
- 32 津山市教育委員会1986「穂ノ口遺跡」市報告20
- 33 津山市教育委員会1991「小原遺跡」市報告38
- 34 津山市教育委員会1990「小原B・稻荷遺跡」市報告35
- 津山市教育委員会2006「せんご遺跡 隠地東遺跡」市報告77
- 36 久米開発事業に伴う文化財調査委員会1979「稼山遺跡群1」
- 37 岡山県教育委員会2004「山ノ奥遺跡 池東・道田遺跡」県報告180
- 38 野田遺跡調査委員会1984「野田遺跡」
- 39 岡山県勝央町教育委員会2004「若王寺遺跡」勝央町文化財調査報告6
- 40 広域農道美作台地区勝央町地内埋蔵文化財発掘調査委員会1983「弥平治・能部遺跡」
- 41 岡山県教育委員会1997「小中遺跡 白道古墳群 小中古墳群 湯ヶ造古墳」県報告117
- 42 岡山県教育委員会2006「国司尾遺跡 坂田遺跡 坂田埴墓群 宮ノ上遺跡 宮ノ上古墳群」県報告197
- 43 岡山県教育委員会2008「大河内遺跡 稲穂遺跡 下坂遺跡」県報告216
- 44 勝央町教育委員会2009「勝央町内遺跡試掘確認調査報告書（平成15年度～平成17年度）」勝央町文化財調査報告書7
- 45 岡山県教育委員会2008「八幡山遺跡 八幡山南遺跡八幡山門明寺遺跡 尾崎遺跡 中町B遺跡 穴が道遺跡 穴が道古墳 今岡D遺跡 今岡中山遺跡 今岡古墳群 高岡遺跡」県報告213
- 46 岡山県大原町教育委員会1995「川戸古墳群発掘調査報告書」
- 47 岡山県教育委員会1975「高本遺跡 平遺跡 沼古墳群 領家遺跡 下河内調査区 穴塚古墳」「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査5」県報告8
- 48 鏡野町2000「竹田遺跡」「鏡野町史」考古資料編
- 49 岡山県教育委員会2003「田井たれをす遺跡 田井ちご池遺跡 東高塚遺跡」県報告171
- 50 岡山県教育委員会2023「勝負峠遺跡 桑山遺跡 桑山古墳群」県報告262

## 雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）

柴 田 英 樹

### 1 資料紹介にいたる経緯

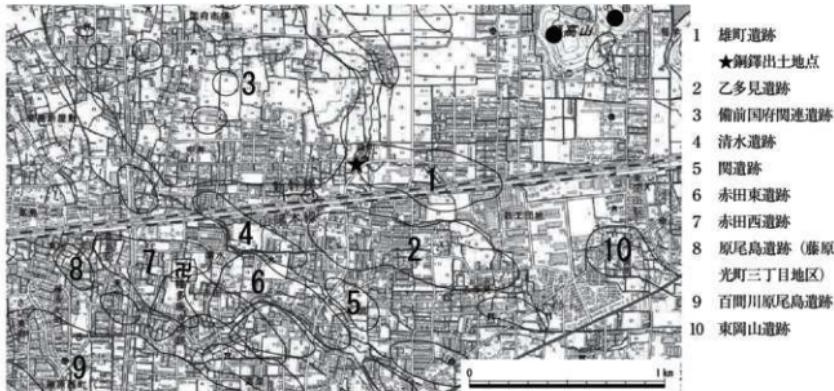
岡山市中区雄町に所在する雄町遺跡は、かつて山陽新幹線の建設に伴い岡山県教育委員会が発掘調査を実施した、弥生時代前期から平安時代にかけての集落遺跡で、中心となる時期は弥生時代中期から古墳時代前期である。検出した堅穴住居24軒のうちで時期の分かるものは、弥生時代9軒、古墳時代10軒を数え、その他にも弥生時代中期の200基近くの土坑墓群や古墳時代の井戸5基や、多数の土坑を検出するなど、当時の拠点集落の一つであることが判明している。

調査は、昭和43（1968）年12月の第1調査区でのボーリング調査を始まりとして、昭和44年1月と11月にはトレンチ調査を行い、同年5月から翌年1月までは軌道敷（第1～4調査区）の発掘調査、昭和45年10月から翌年3月までは側道敷（第1・3・4調査区）の発掘調査を実施している。その調査成果は、昭和47年3月刊行の『埋蔵文化財発掘調査報告－山陽新幹線建設に伴う調査－』で公開された（以下、「報告書」という）<sup>(1)</sup>。また、昭和52年3月には『岡山県埋蔵文化財報告』<sup>7</sup>において、古代の土器等50点の資料が報告された<sup>(2)</sup>。

その後、平成21（2009）年の後半から翌年3月までの期間において、筆者は当該調査資料の再整理の機会を与えられ、遺構図や出土遺物を検討しながら必要に応じて遺物の実測等を行った。その中でも、「報告書」で拓本と写真しか掲載されていない分銅形土製品について実測図を作成したので、その時点からかなり時間が経過したが、本書で資料紹介することにした。

### 2 遺跡の概要

雄町遺跡は、現在岡山平野を貫流している旭川の東岸域にひろがる沖積平野の中央東寄りに位置する。当地域は、旭川が半田山山塊と龍ノ口山山塊の間を抜け、一気に枝分かれした河川によって形成された肥沃な土地であり、現在よりも瀬戸内海の海岸線に近い場所であったと推定されている。このような地理的条件を生かすことで、さまざまな生産を発展させ、また水上や陸上の東西・南北交通の結節点として物資や情報の収集に有利な位置を占めることができたことから、当遺跡を含めて周辺の微高地には百間川遺跡群、さらに西岸域では南方遺跡や津島遺跡など、弥生時代から古墳時代の拠点集落が展開している。



第1図 周辺遺跡分布図（1/25,000）



第2図 調査区配置図 (1/10,000)  
※岡山市発行の岡山市市域図 (2千5百分の1) を使用

発掘調査区は、東西延長約1kmの区間に内で断続的に設定され、西から東へ第1～4調査区と称する<sup>(3)</sup>。各調査区内も、断続的に分けられた大小の調査区で細分されており、比較的まとまった調査範囲は、第1調査区B区を中心とする範囲(約450m<sup>2</sup>)、第2調査区(約960m<sup>2</sup>)、第3調査区東トレンチ(約1,120m<sup>2</sup>)、第4調査区(約2,480m<sup>2</sup>)である。また、微高地としては、間に低位部を挟むものの、特に第3・4調査区には一体性がある。

弥生時代の造構としては、第1調査区では、中期後葉の土器棺1基と後期中葉の大形堅穴住居1軒(1号住居址)、第3調査区東トレンチでは中期後葉の堅穴住居1軒(5号住居址)と灰が詰まった土坑多数を検出し、また後期初頭の3軒の堅穴住居(2・3・8号住居址)のうち大形の3号住居址の覆土からは水晶算盤玉が出土している。第4調査区では、中央の河道東側に中期前葉の堅穴住居2軒(7・8号住居址)、中期中葉～後半の堅穴住居2軒(9・11号住居址)や掘立柱建物など、一方西側では中期前葉の土坑墓群を確認している。

なお、昭和60(1985)年に、第3調査区を含む微高地の想定範囲北西端に当たる地点で、扁平鉢式銅鐸(四区袈裟襟文銅鐸)が不時発見されていることは、当遺跡を考えるうえで重要である<sup>(4)</sup>。

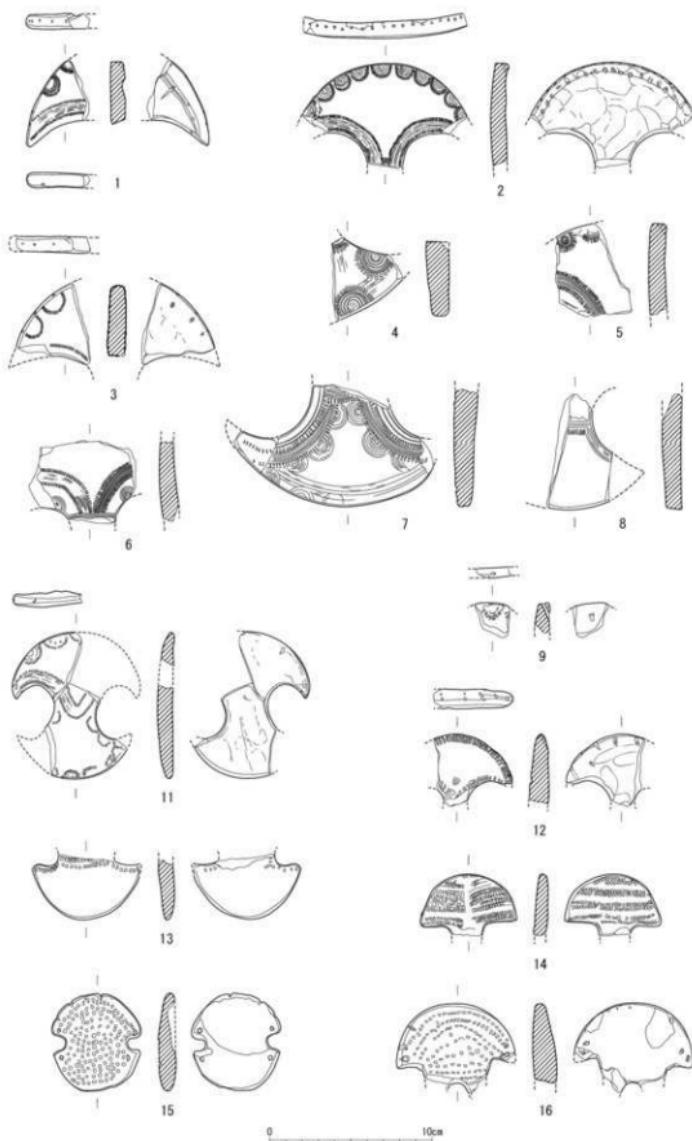
### 3 分銅形土製品の概要

「報告書」には、分銅形土製品16点が掲載されているが、

7と10が接合したため合計15個体が出土したことになる(掲載番号は引き継ぐが、10は欠番とする)。そのうち6点は第3調査区の堅穴住居の覆土から、2点は第4調査区の堅穴住居床面と溝14?上層からの出土で、その他7点は包含層出土のため造構との関係は不明である。

全体形が不明なものもあるが、すべて円形基調であることはほぼ間違いない。剖込み部の形態では、大きく剖込むA類(1・2・3・4・6・7・8・11・12・14)と、小さく剖込むB類(13・15・16)に分類できる。一部剥離しているものの全体形が分かる15以外は、接合できたものも含めてすべて破片である。施文は、ごく浅い数条の平行沈線と刺突等で構成された重弧文と平行文が多く、他には列をなす刺突文などがある。

1は上半端部の破片で、上縁に沿って重弧文、剖込み部に沿って平行文が施される。上端面から裏面にかけての穿孔が4個残り、端には上端面から剖込み部への穿孔が認められ、裏面には幅5mmの凹線が形成される。2は上半部の破片で、両端は欠損している。表面はミガキが施され、上縁に沿って重弧文10個、剖込み部に沿って平行文が認められるが、これは眉状文の可能性もある。裏上面端はわずかに突出し、上端面から裏面にかけての穿孔が20個残る。3は上半端部の破片で、摩滅により不鮮明だが、上縁に沿って重弧文2個、剖込み部に沿って平行文が認められる。上端面から裏面にかけての穿孔3個が残る。4は下半端部の破片で、下縁と剖込み部に沿っ



第3図 分銅形土製品（1/3）

て重弧文が施される。5は上半部の破片で、表裏面ともミガキが施され、上縁に沿って重弧文2個、削込み部に沿って平行文が認められる。裏面上面はわずかに突出し、上端面から裏面にかけての穿孔が1個残る。6は上半部の可能性がある破片で、削込み部に沿って重弧文と平行文が施され、平行文は横方向の平行文で切られる。刺突文内に赤色顔料が残存している可能性がある。7は下半部の破片で、端部片10と接合した。下縁に沿って2条の凹線と重弧文がみえ、削込み部に沿って2条の凹線と平行文、さらにその内側に重弧文が施され、削込み部に横方向の平行文も認められる。8は下半部の破片で、摩滅で不鮮明ながら下縁は無文で、削込み部に沿って平行文、中央には横方向の平行文が認められる。9は上半部の破片で、上縁に沿って重弧文2個、上端面から裏面にかけての穿孔が1個残る。11は上下の形が分かる資料で、長さ9.0cm、推定最大幅5.2cmを測る。裏面は平らで表面が丸く膨らみ、端面は薄くなる。上半に眉状文、上縁及び削込み部下半から下縁かけて重弧文が施され、上端面から裏面にかけての穿孔2個が残り、端には上端面から削込み部への穿孔が残る。12は上半部の破片で、端面は丸く収まる。削込み部に沿う文様は眉状文の可能性があり、上縁に沿って刺突文による平行文が施される。中央に文様の可能性もある窪みが認められるが定かではない。上端面から裏面にかけての穿孔4個、端には上端面から削込み部への穿孔が残る。13は下半部の破片で、端面は丸く収まる。削込み部から中央にかけて刺突文が施され、裏面にも削込み部に沿って刺突文が認められる。14は上半部の可能性がある破片で、削込みは方形を呈るとみ

られ、端面は丸く収まる。表面には中心を挟んで左右に横方向の刺突文の列、裏面は中心で途切れることなく刺突文の列が施される。15は裏面上半が剥離しているが、平面形としてはほぼ完形で、長さ6.0cm、最大幅5.5cmを測り、断面はわずかにレンズ状を呈する。上下端面は丸く収まる。表面全体に刺突文が施され、上端には穿孔を思われるような切込み（刺突）が認められる。上下の両端には表面から裏面にかけて穿孔が認められる。16は上半部の可能性がある破片で、削込みは浅く、端面は丸く収まる。両端には表面から裏面にかけての穿孔が2個ずつ認められる。中央には類例のない特異な穿孔があり、表面には刺突文が列状に施される。

以上、個々について記述したが、次に分類を行って編年に位置付けてみる<sup>(5)</sup>。すでに述べた削込み部形態（A類・B類）に加え、上縁文及び7cmを目安とした長さあるいは幅をみると、A類はほとんどが大形（14のみ小形）と推定される重弧文型、B類は3点中2点（13・15）が小形で、しかも16も大形とはいえ比較的小さい方であり、小形のA・B類は平行文型である。上縁文と大きさに関しては、いずれも全体的な傾向と一致する。

さらに上端孔の有（I類）・無（II類）と眉状文の有（X）・無（Y）で分類すると、A類では2・11・12がI類X、小形の14がII類Y、B類では15・16がII類Yである。2以外は堅穴住居出土で、混入の可能性がある15を除いて考えると、I類Xが中期、II類Yが後期ということでお出しだした遺構の時期と土製品の編年において矛盾はない。

表1 分銅形土製品観察表

掲載番号	出土地区	掲載遺物名等	計測値（mm）			色調	胎土	焼成	備考
			最大長	最大幅	最大厚				
1	3区		38	40	9	にぶい黄橙（10YR7/3）	1mm以下の砂粒少	良好	
2	3区		64	101	9	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の砂粒少	良好	
3	3区		50	45	11	灰白（10YR8/2）	1mm以下の砂粒	良好	
4	1区		50	44	14	灰白（10YR5/1）	1mm以下の砂粒少	良好	
5	1区		57	47	11	灰白（10YR8/2）	1mm以下の砂粒	良好	
6	2区		51	65	11	明赤褐（5YR5/6）	1mm以下の砂粒少	良好	赤色顔料残存か
7	4区 大溝（演14？）上層		74	122	14	明赤褐（5YR5/6）	1mm以下の砂粒	良好	10と接合
8	3区 5号住居址		71	35	12	灰白（10YR8/2）	1mm以下の砂粒	良好	
9	3区		21	22	9	浅黄橙（10YR8/3）	1mm以下の砂粒少	良好	
10	4区		—	—	—	—	—	—	7と接合 ※「報告書」の10
11	4区 9号住居址 床面		90	70	9	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の砂粒少	良好	
12	3区	5号住居址	45	49	12	灰黄（2.5Y6/2）	1mm以下の砂粒	良好	眉状文間に刺突？
13	3区	3号住居址	36	66	9	橙（5YR6/6）	1~2.5mmの砂粒	良好	
14	3区	3号住居址	38	60	8	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の砂粒少	良好	横に多条の刺突文列
15	3区	5号住居址	60	55	10	にぶい黄橙（10YR7/2）	1mm以下の砂粒少	良好	刺突充填
16	3区	8号住居址	56	73	14	陶灰（10YR4/1）	1mm以下の砂粒少	良好	刺突充填、中央に径1cm穿孔

色調は「新版標準土色鉄」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財团法人日本色彩研究所色票監修)による

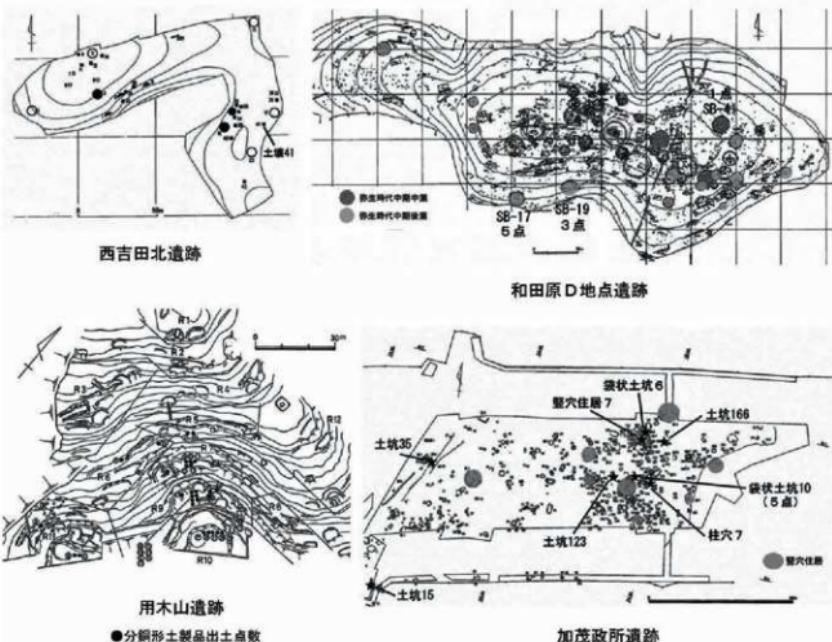
#### 4 出土状況について

分銅形土製品の出土量に関する分析は、赤磐市用木山遺跡等で検出した住居数との対比により「保有量・使用量のおおよそ」は「住居4~6棟に、多くてせいぜい数個」とした東潮氏の指摘<sup>(6)</sup>が挙げられる。その後、筆者が他の遺跡で検討したところ、津山市西吉田北遺跡<sup>(7)</sup>の集落（後期）や広島県庄原市和田原D地点遺跡<sup>(8)</sup>の集落（中期中葉）のように、竪穴住居2~3軒に対して1点程度の出土が最小単位となる可能性が見えてきた。これは東氏の見解と大きな乖離はない。しかし、多くの竪穴住居が検出された場合において、必ずしもその単位に応じたように土製品が集落全体で均等に出土するわけではない。

和田原D地点遺跡の中期後葉の場合では、丘陵全体に展開する16軒の竪穴住居に対し、分銅形土製品は南斜面

に位置する2軒の竪穴住居（SB-17・19）に集中している。用木山遺跡では、谷状地形になった丘陵斜面下方のため検討が必要ではあるが、そこに位置する第7・9・10支群の遺構埋土に集中している。また、岡山市加茂政所遺跡<sup>(9)</sup>は調査範囲が限られるが、中期では竪穴住居等が集中する範囲の土坑等で多く出土している。このように分銅形土製品の出土は、特定場所あるいは特定遺構へ集中する場合があることを想定できる。

当遺跡では中期に属する土製品は11点あり、中期後葉の土器柄1基のみを検出した第1調査区で2点、同時期の竪穴住居1軒（5号）と土坑多数を検出した第3調査区東トレンチで7点、中期中葉～後半の竪穴住居2軒（9・11号）を検出した第4調査区で2点となり、総数では第3調査区が圧倒的に多い。さらに第3調査区東トレンチ（約1,120m<sup>2</sup>）に比べて第4調査区（約2,480m<sup>2</sup>）の面積が広いことなどを勘案すると、第3調査区の点数



第4図 遺跡における分銅形土製品の分布例

\*用木山遺跡のみ東氏作成図、それ以外は筆者加筆あり



第5図 雄町遺跡第3調査区東トレンチ遺構配置図（全時期）

※名称未記載の住居は古墳時代

の多さが際立つ。後期の点数はやや少なくなるが、後期初頭の竪穴住居3軒（2・3・8号）を検出した第3調査区で3点、同時期の顯著な遺構が確認できていない第4調査区1点である。ごく限られた調査範囲のために判断は困難であるが、このように第3調査区に集中する傾向があるようにみえ、加茂政所遺跡の例に類似する可能性がある。

竪穴住居でみると、中期中葉～後葉では第3調査区の5号住居址で3点（1点は混入の可能性）、第4調査区の2軒のうち9号住居址で1点、後期初頭では第3調査区の3軒のうち3号住居址で2点、8号住居址で1点が出土している。各時期3軒のうち2軒もの住居から出土していることに加えて、1軒あたりおおむね1～2点であることは、他の遺跡と比較して高い出土率である。

分銅形土製品が出土した中期後葉～後期初頭の4軒の竪穴住居は、やや小形の9号住居址（第4調査区）を除くと比較的大形で、特に3号住居址（第3調査区）は床

面積60m<sup>2</sup>を超える。この調査では、他に同時期の竪穴住居がほとんど確認できていないことから断言はできないが、第3調査区東トレンチは大形住居が所在する地点であった可能性がある。その他の出土遺物をみても、床面からサスカイト片が出土するものや、覆土中からではあるが砥石や石鎚も多く、さらに水晶製算盤玉は特筆すべきものである。これらのことからも第3調査区の特異性が指摘できる。

以上のように、遺跡内で分銅形土製品が多数出土する場合、特定場所あるいは特定遺構へ集中する傾向が多い可能性がある<sup>(10)</sup>。出土場所は、使用場所や所有・保管場所の可能性もあるが、現在では最終的な廃棄場所と認識するしかなく、集中傾向の例が、その意図的な限定を示すものとすれば、使用終了や廃棄方法の制約、あるいは集落全体による土製品管理の存在などを推測できる。この件については、本稿で仮定した出土傾向の妥当性を含めて今後の検討課題である。

表2 分銅形土製品出土の竪穴住居

調査区	遺構名	平面形 規模 (cm)	土器以外の主な遺物 数字は点数、(数字)は掲載番号	時期	備考
3	3号住居址	円形 887×874	床面：サスカイト片 覆土：砥石5、石鎚15、筋錐車1、分銅形土製品2 (13・14)	後期初頭	建替3回
3	5号住居址	不整円形 650×630	床面：太形蛤刃石斧片1、筋錐車1 覆土：砥石3、石鎚44、やりがんな2、分銅形土製品3 (8・12・15)	中期後葉	建替3回
3	8号住居址	不整円形 664×654	床面：打製石包丁3、サスカイト片 覆土：砥石8、石鎚83、石鎚1、土錐2、水晶製算盤玉1、分銅形土製品1 (16)	後期初頭	建替1回
4	9号住居址	不整円形 460×420	床面：分銅形土製品1 (11)	後期初頭？	焼失

## 謝辞

吉田広氏には特別企画展「発掘 文京の顔展」の情報を持ち、さまざまな御教示を頂きました。末尾ながら記して厚く御礼申し上げます。

## 註

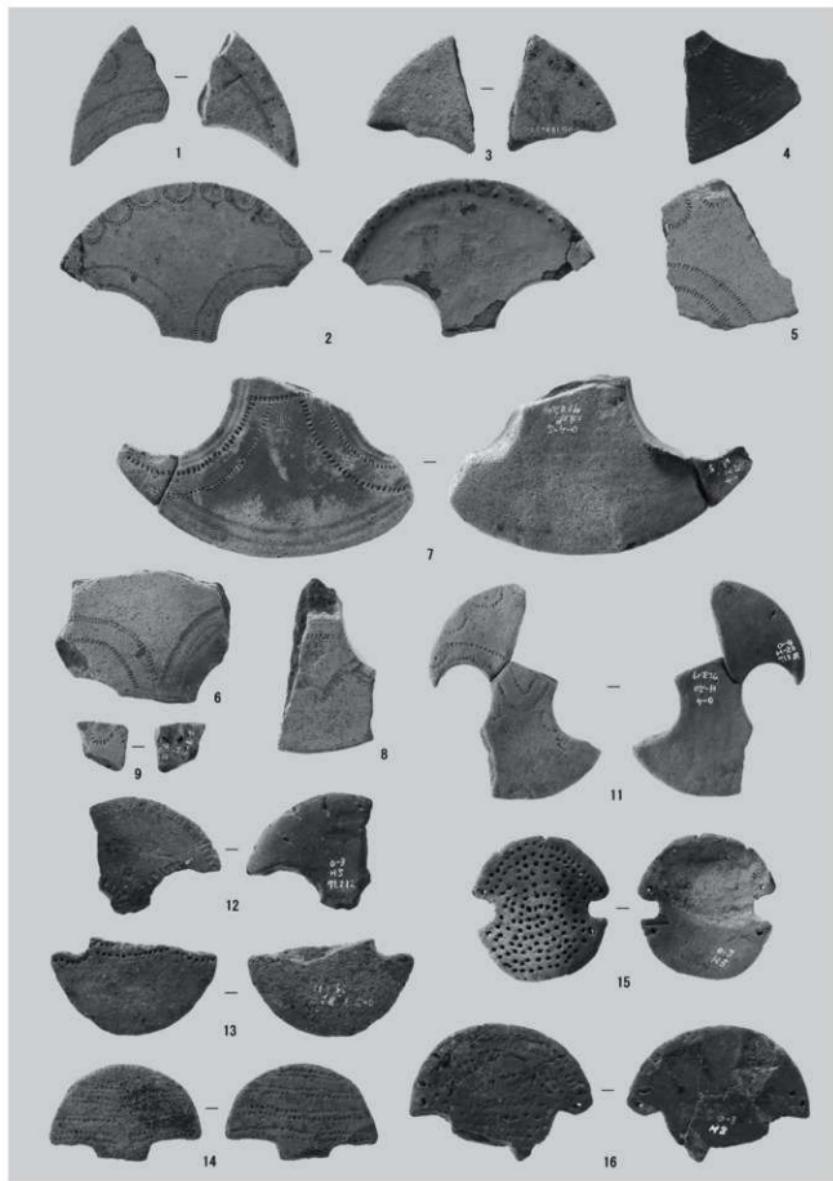
- (1) 高橋謙・葛原克人・中力昭・正岡睦夫・泉本知秀・栗野克己1972「埋蔵文化財発掘調査報告－山陽新幹線建設に伴う調査－」岡山県教育委員会
- (2) 正岡睦夫1977「資料報告：雄町遺跡出土の硯と歴史時代の須恵器について」『岡山県埋蔵文化財報告』7 岡山県教育委員会
- (3) 第2図に示した調査区位置については、原団等に不明確な点があることから検討を重ねた結果を示したが、必ずしも正しいとは言えない状況である。そのため、草原孝典氏が下記の報告書で、困難ながらも位置を模式的に示しているが、それとも一致しない。
- 草原孝典2017「雄町遺跡－弥生時代の拠点的集落遺跡の発掘調査報告－」岡山市教育委員会
- (4) 高橋謙1990「岡山市雄町遺跡の銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第4号
- (5) 栗田英樹2014「円形基調の分銅形土製品の型式編年と地域性」『古代吉備』第26集(下表参照)
- (6) 東潮1977「東高月遺跡群出土の分銅形土製品」『用木山遺跡』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(4) 山陽町教育委員会

大きさ	刺込み形態	上縁文	上端孔	両端孔	肩状文
大形 (幅7cm以上)	A類 (大きい・深い)	重弧文型	I類 (有り)	a類 (有り)	X (有り)
小形 (幅7cm未満)	B類 (小さい・浅い)	平行文型	II類 (無し)	b類 (無し)	Y (無し)

分類案

時期	大形 A類			小形 A類		B類	
	重弧文型 平行文型	重弧文型 (幅前・播磨)	無文型	重弧文型 平行文型	無文型	平行文型	無文型
中期中葉	I類 X	Ib類 Y		(II類 X)			
中期後葉	I類 Y	Ib類 Y	I・II類 Y	I・II類 Y		II類 Y	
後期前～中葉 (後期後葉)	II類 Y		II類 Y		II類 Y	II類 Y	(II類 Y)

編年案



雄町遺跡出土分銅形土製品

## 岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成

石田 爲成

## 1 はじめに

岡山県は、平成26年度から古代歴史文化協議会に参加し、古代歴史文化の研究・活用に関心のある14県（埼玉県、石川県、福井県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山县、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県）と連携して、共同で調査研究を行ってきた。研究テーマとして第1期（平成26年度～平成30年度）は「古墳時代の玉類」、第2期（令和元年度～令和4年度）は「古墳時代の刀剣類」を設定し、各県から出土した刀剣類の集成作業を行った。また、時期別に三つの分科会を設置し、集成を元に刀剣類の分布や消長、副葬の在り方等を比較分析し、当該期の社会構造や地域間交流の実態、各地域の特質の解明を目指して検討を行った<sup>(1)</sup>。共同調査研究の成果については、講演会や展覧会の開催、成果図書の刊行により、これまでにも公表してきた<sup>(2)</sup>。また、各県で作成した集成についても古代歴史文化協議会のホームページ上で公開している<sup>(3)</sup>。

本稿では、古代歴史文化協議会による「古墳時代の刀剣類」の共同研究の成果として岡山県内から出土した弥生時代から古墳時代の鉄製刀剣類の集成を掲載する。また、岡山県が所属した弥生・古墳時代前期分科会での共同研究テーマの中から、吉備における弥生時代から古墳時代前期の刀剣類副葬について若干の検討を行う。

## 2 岡山県内出土の刀剣類集成

岡山県内の弥生時代から古墳時代にかけての鉄製刀剣

類については、弥生時代の鉄製品としてや古墳時代の一部の刀剣類について部分的な集成は存在していたが（文54・87・173・229など）<sup>(4)</sup>、網羅的な集成はこれまで行われていなかった。

集成作業は、発掘調査報告書及び各自治体史、遺跡地図情報等を元に悉皆的に行なった。器種別に計測値など詳細な内容を記載した個別一覧表も作成したが、本稿では紙幅の都合もあり、岡山県内の刀剣類出土遺跡一覧（表3）を掲載した<sup>(5)</sup>。また、素環頭大刀や蛇行剣、鹿角装の刀剣、装飾付大刀など県内出土の各種刀剣類についても一覧を作成して掲載した（表4）。

## 集成の概要

集成の結果、岡山県内においては、弥生時代から古墳時代の585遺跡、620遺構<sup>(6)</sup>から1,059点の刀剣類が出土していることが明らかになった。出土遺構の性格をみると、弥生時代は集落が4遺構、墳墓が10遺構、古墳時代は集落が15遺構、古墳若しくは墳墓が588遺構、祭祀が2遺構となり、両時代ともほぼ墳墓及び古墳から出土している。刀剣類の総数については表1に、出土器種の時期別<sup>(7)</sup>の推移を第1図に示した。時期不明のものも含めると器種別では、刀が691点、剣が281点、ヤリが33点、鉢が54点確認されている。

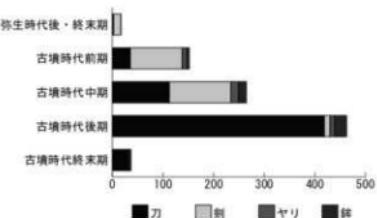
次に、岡山県における鉄製刀剣類の出現と時代・時期別の状況、各種刀剣類について整理する。

## 弥生時代後・終末期（刀2点、剣15点、計17点）

岡山県内で鉄製刀剣類が最初に確認されるのは、弥生時代後期中葉になる。岡山市百間川原尾島遺跡（文40）

表1 岡山県内出土の刀剣類総数

	刀	剣	ヤリ	鉢	時期別合計
弥生時代後・終末期	2	15	0	0	17
古墳時代前期	35	103	9	5	152
古墳時代中期	112	122	15	16	265
古墳時代後期	418	12	9	24	463
古墳時代終末期	31	1	0	5	37
時期不明	93	28	0	4	125
器種別合計数	691	281	33	54	1059



第1図 出土器種の時期別推移

の竪穴住居から全長8.5cmの非常に小型の短剣が1点出土している。この住居は焼失住居で、鉄劍は炭化した垂木等の部材上で確認されている。特に小型の鉄劍は、劍の模倣品や代用品として製作されたと考えられ（文79）、住居廃絶儀礼等に使用された可能性もある。

統いて弥生時代後期後葉になると倉敷市橋築墳丘墓（文72・302）で劍が1点出土している。また、同時期の総社市鶴物谷2号墓（文184）から刀1点の出土が報告されているが、詳細については不明である。

弥生時代終末期（後期末葉）になると、岡山市みその42号墳墓（文64）、倉敷市男女岩遺跡（文73）、浅口市城殿山遺跡（文107）などの墳墓で劍の副葬が認められる。岡山県内においては弥生時代に属する刀の確実な出土例は存在しておらず<sup>(8)</sup>、墳墓への副葬は劍が主体を占める。なお、岡山市津島遺跡（文33）の河道からは劍道具が3点出土しており、集成に加えている。

古墳時代前期（刀35点、劍103点、ヤリ9点、鉢5点 計152点）

前方後円墳の出現以後、古墳への副葬品として刀劍類が増加する。器種別では劍が多数を占めるが、刀の出土数が増加し、ヤリ、鉢が初めて確認できる。初期の前方後円（方）墳である岡山市浦間茶臼山古墳（文43）や岡山市備前車塚古墳（文14・30）では刀劍類が多量副葬されていた可能性が高い。前期後半以降になると岡山市神宮寺山古墳（文14・30・36）、岡山市金蔵山古墳（文48）、瀬戸内市花光寺山古墳（文14・209・210）などの大型前方後円墳、備前市鶴山丸山古墳（文14・16）、備前市新庄天神山古墳（文14・16）などの大型円墳から多量の刀劍類の出土が確認されている。特徴的な刀劍類としては、素環頭大刀が井原市山手3号墳（文151）、瀬戸内市花光寺山古墳で確認されている<sup>(9)</sup>。

古墳時代中期（刀112点、劍122点、ヤリ15点、鉢16点 計265点）

前期に比べて、全ての刀劍類の出土数が増加し、劍の出土数は全時期の中で最も多くなる。県北部の美咲町年の輪古墳（文288）は大型の円墳で、刀劍類を含む武器類の多量副葬が認められる。また、県北部を中心古式群集墳が盛んに築かれるが、津山市長畠山北5号墳・9号墳（文125）、真庭市大木1号墳（文239）など、群内の一部の古墳に刀や劍が1～2点程度副葬される。

一方、県南部では、岡山市造山古墳、総社市作山古墳などの巨大古墳が存在するが、刀劍類の出土について

不明である。周辺の陪塚も含めて主体部の調査例は少なく、今回の集成での刀劍類の出土数や内容は、実態を反映していない可能性が高い。その他、注目される資料として、瀬戸内市我城山6号墳（文207）から銀装素環頭大刀が出土しており、百済からの搬入品との指摘がある（文293）。

古墳時代後期（刀418点、劍12点、ヤリ9点、鉢24点 計463点）

全時期を通じて刀劍類の出土数が最も多く、約9剣を刃が占める。劍の出土は、中期に比べて激減する。横穴式石室墳からの出土例が大多数を占めるが、武器類の副葬は大刀と鐵鎌が基本となっており、石室規模の大きな上位の古墳には馬具が伴う。大刀の普遍的な副葬から、横穴式石室を通じてなされた集団の編成は軍事編成の形をもって進められたとの指摘がある（文104）。

また、古墳時代後期になると装飾付大刀が数多く出土する。表4に一覧を示したが、象嵌装大刀<sup>(10)</sup>や單龍・單鳳環頭大刀など多種にわたる。單龍・單鳳環頭大刀、振り環頭大刀は県南部、双龍環頭大刀、頭椎大刀は県北部で出土しており、分布に特徴が認められる<sup>(11)</sup>。

古墳時代終末期（刀31点、劍1点、ヤリ0点、鉢5点 計37点）

いわゆる終末期古墳に刀劍類の副葬が認められるが、出土数自体は少ない。県北部の真庭市大谷1号墳（文234）では金銅装双龍環頭大刀が、美作市外波道古墳（文262）では金銅装圭頭大刀が出土している。その他、真庭市定北古墳（文237）、美作市大塚5号墳（文265）など県北部の有力古墳で金銅装大刀の出土が目立つ。また、真庭市定東塚古墳（文236）では三角穂式鉄鉢が5点出土しており、畿内の中央政権から地方の有力首長層への配布が想定されている（文87）。

### 3 吉備における弥生時代～古墳時代前期の刀劍類副葬について

ここでは、古代歴史文化協議会の弥生・古墳時代前期分科会における検討テーマの中から、吉備における弥生時代の刀劍類副葬と古墳時代の開始に際しての刀劍類副葬の変化について若干の検討を行う。

#### 弥生時代の刀劍類副葬

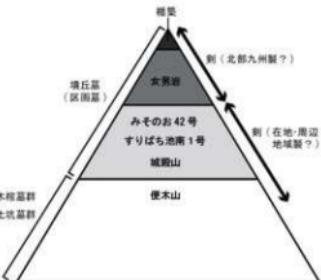
吉備では、弥生時代後期後葉になると墳墓へ刀劍類の副葬が始まる。刀劍類が最初に副葬されたのは倉敷市橋築墳丘墓（文72・302）で、中心主体から玉類とともに全長46.9cmの長剣が1点出土している。刀劍類の墳墓へ

の副葬が普及するのは、弥生時代終末期（後期末葉）以降で、基本的に1~2点の剣が副葬されるが、刀はほぼ認められない。弥生時代終末期になると刀の副葬が主体となる山陰や北陸の日本海沿岸地域とは対照的な様相を呈している（文303）。

吉備では、有力首長層は墳丘墓や区画墓を築く。楯築墳丘墓は、その卓越した墳丘規模や内容から最高首長墓と考えられる。時期は下り、やや下位に位置付けられるのは倉敷市女男岩遺跡（文73）で、後期末葉に築かれた墳丘墓と考えられる。中央部の埋葬主体には、全長38cmと25cmの短剣が2点副葬されていた。これらの上位首長層の墳墓に副葬された鉄劍は、厚手の長劍若しくは短剣で<sup>(12)</sup>北部九州で製作されたとの指摘がある（文103）。

弥生時代後期末葉になると、規模等が劣る下位首長層の墳墓でも剣副葬が認められる。岡山市みそのお42号墳墓（文64）で、2つの主体部から1点ずつ、全長15~16cm程度の短剣が切断されたり折り曲げられたりした状態で出土している<sup>(13)</sup>。また、総社市すりばち池南1号墓（文159）では全長約17cm、浅口市城殿山遺跡（文107）では全長約21cmの短剣が副葬されている。さらに下位に位置付けられる土坑墓群などの集団墓では、赤磐市便木山遺跡（文218）の土坑墓1基から全長約15cmの短剣が1点出土している。これらの墳墓に副葬された剣は、いずれも薄手の短剣で、在地若しくは北部九州以外の吉備の周辺地域での製作が想定されている（文292）。

このように吉備では、上位の首長層は北部九州製の鉄



第2図 吉備の弥生墳墓と副葬鉄劍の階層性

劍を、下位の首長層や有力家長層は在地若しくは周辺地域で作られた鉄劍を入手し、墓に副葬したと考えられ、第2図に示したように副葬される鉄劍と墳墓の階層にも相関関係を認めることができる。

#### 古墳の出現と刀剣類副葬

弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての時期に、全長約38mの前方後円形の墳丘をもつ、総社市宮山墳墓群（文14・154）が築かれる。後円部の竪穴式石室からは劍1点、刀1点と共に飛禽鏡・玉類・鉄鎌・銅鎌が出土している。宮山墳墓群に続いて出現するのは、全長約138mを測る大型前方後円墳の岡山市浦間茶臼山古墳（文43）である。後円部の竪穴式石室からは、刀5点以上、劍18点以上と推定される多量の刀剣類と共に細線式獸帶鏡・銅鎌・鉄鎌・鉄製農工具などが出土している。また、全長約48mの前方後方墳である岡山市備前車塚古墳

表2 刀剣類が副葬された弥生墳墓と前期古墳の比較

時代	墳墓・古墳名	所在地	時期	墳丘形態	墳長(m)	中心埋葬	刀	劍	ヤリ	鉤	鎌	玉類	鏡	甲冑	農工具	その他	文献
後期	橋梁山丘墓	倉敷市	後期後葉	東西中円	80	木棺木棺	1		○							特殊器台・特殊鏡	文72・302
	説物山丘2号墓	総社市	後期後葉	方?	30	竪穴式石室	1?		○							特殊器台・特殊鏡	文184
	女男岩遺跡	倉敷市	後期末葉	方?	20?	木棺	2									特殊鏡	文73
	鶴谷曾生埴生反瓦	岡山市	後期末葉	方	-	竪穴式石室	1		○							文22	
弥生	みそのお42号墳墓	岡山市	後期末葉	方	21.5	木棺	1		○							文64	
時代	第3主																
	みそのお42号墳墓	岡山市	後期末葉	方	21.5	木棺	1		○							文64	
	第3主																
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	14.4	木棺?	1		○							文159	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文107	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文218	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文154・154	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文173	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文43	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文44・30	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文27	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文64	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文20	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文20	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文175	
	14.4木棺?	総社市	後期末葉	方	-	木棺	1		○							文175	

(文14・30)では、後方部の堅穴式石室から、刀と剣が複数点、鉢が1点出土し、三角縁神獸鏡11面、内行花文鏡、画文帶神獸鏡、鐵鍊、鉄製農工具等も伴っている。

表2に刀剣類が副葬された弥生墳墓と前期古墳の諸要素の一覧を示した。吉備において浦間茶臼山古墳をはじめとする古墳時代前期前葉の前方後円墳や前方後方墳は、弥生時代の墳墓に比べ、墳丘の規模、副葬品の種類や量に至るまで様々な要素が飛躍的に発展した内容となっている。副葬される刀剣類については、刀が新たに加わり、多量に副葬される傾向が認められる。古墳時代になるとヤマト王權の下に集約された刀剣類が、各地の有力首長に配布されたとの見解もある(文271)。一方で、岡山市みそのお14号墳墓(文64)、赤磐市用木4号墳(文220)、総社市殿山10・11号墳(文175)など中・小規模の古墳では前期を通して刀剣類は1~2点のみを副葬するものが多く、弥生時代の様相と大きく変わらないことから、複数器種による刀剣類の多量副葬は、一部の有力首長層に限られていたと考えられる。

#### 4 おわりに

岡山県は、平安時代後期以降の日本刀の一大生産地で、備前長船などの備前刀でも、著名な地域である。

今回の集成で、弥生時代から古墳時代においても、1,000点を超える刀剣類の出土が確認され、各時期にも注目される資料が多く存在していることが明らかになった。今後は、集成を元にして、各種刀剣類についての個別研究を深化し、刀剣類から見た弥生・古墳時代の社会構造や地域的特性、地域間交流の様相などについて解明していく必要があり、検討課題としたい。

集成作業や本稿の作成にあたり、上村武氏、小林有紀子氏、佐藤寛介氏、関幸代氏、平井典子氏、水田貴士氏、ライアン・ジョセフ氏から多くの助力や教示をいただいた。末筆ながら厚くお礼申し上げる。

#### 註

(1) 各分科会と構成県は次のとおりである。

弥生・古墳時代前期(石川県・福井県・島根県・岡山県・福岡県)、古墳時代中期(奈良県・兵庫県・広島県・佐賀県・宮崎県)、古墳時代後期(埼玉県・三重県・和歌山県・鳥取県)

(2) 令和元・3・4年に古代歴史文化講演会、令和4年に展示会「刀剣~古代の武といのり~」を大阪歴史博物館で開催した。また、令和4年に共同研究の成果図書として『刀剣-武器から読み解く古代社会-』を刊行した。

(3) 各県の集成や器種別の個別一覧については、古代歴史文化協議会のホームページ(<https://kodairarekibunkyo.jp/touken-date.html>)で公開しているので参考にしていただきたい。

(4) 集成及び本稿の参考・引用文献は、表5に文献一覧としてまとめて掲載しており、本文中では(文~)とした。

(5) 集成は弥生時代から古墳時代の鉄製刀剣類(刀、剣、ヤリ、鉢)を対象とした。刀については、全長20cm程度以下で目釘孔の確認できないものは「刀子」として対象外とした。なお、青銅製品は対象外であるが、百間川原尾島遺跡出土の鉄劍形劍1点(文41)を加えた。

(6) 集成は遺構単位でを行い、古墳等で複数の主体部から刀剣類が出土している場合は、それぞれ1遺構としてカウントした。また、複数点出土の情報があつても正確に数が把握できず状態不明な場合は、出土数は1点とした。

(7) 時期区分については、基本的に古代歴史文化協議会の方針に従った。弥生時代終末期(後期末葉)は才ノ町式に相当する。古墳時代前期は下田所式からで、古墳時代後期はMT15型式併行期から、古墳時代終末期はTK217型式併行期からとなる。

(8) 真庭市旦原遺跡(文244)では、弥生時代終末期の堅穴住居から刀の出土が報告されており集成に加えているが、出土した刀の特徴は新しく、古墳時代以降に混入した可能性もある。

(9) 岡山市みそのお5号墳墓(文64)出土の鉄刀については、素環部切斷の可能性が指摘されている(文292)。

(10) 今回の集成作業にあたって一部古墳出土の遺物についてX線写真撮影による再調査を行い、岡山市龍王塚古墳(文5)、新見市道上古墳(文201)、浅口市宮の駒古墳(文268)で新たに象嵌を有する刀装具の存在が明らかになった。

(11) 県南部に單龍・單鳳環頭大刀が、県北部に双龍環頭大刀が特徴的に分布することについては、中央の特定有力氏族と地域首長の関係において大刀入手したことによる指摘がある(文236・304)。

(12) 吉備における古墳出現期の刀剣類については、ライアン・ジョセフ氏によって詳細な検討が行われている。刀剣類の製作技術水準に問わる鉄本体の重厚さを重視した厚手・薄手の区分は本稿でも援用した。また、副葬刀剣類に問わる生産・流通の階層的な様相についても、すでに指摘されている(文292)。

(13) 刀剣類も含めた副葬品の破壊は、弥生時代終末期に出現し盛んになるが、古墳時代前期の首長墳の儀礼には継承されず、小規模墳で残存するとの指摘がある(文104)。

表3 岡山県内の刀剣類出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	地形	規模	出土遺構	時期		器種	基盤備考	文献番号	備考	
							時期	前中期分					
1	名物未定	岡山市北区東井	古墳	円墳			古墳		1		文1	伝大刀出土	
2	尾崎山古墳	岡山市北区下高田・吉	古墳	前方後円墳	44	第1主室（複穴式石室）	古墳・前		1		文2・3		
3	塚の上2号墳	岡山市北区三和	古墳	方墳	6.3	箱式石棺	古墳・前	～中	1		文4	伝鉄劍出土	
4	鳴ヶ若山古墳	岡山市北区三和	古墳	円墳	12.5	横穴式石室	古墳・前		1		文6		
5	難山塚古墳	岡山市北区吉	古墳	円墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	2	御象嵌銅大刀1、 金銅鏡主頭？大刀1	文5		
6	磐谷古墳	岡山市北区日近	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	1	鉢のみ	文58		
7	南庭1号墳	岡山市北区下足守	古墳	円墳	17	第1主室（木棺）	古墳・中	5世紀前半	1		文7・8		
8	南庭1号墳	岡山市北区下足守	古墳	円墳	17	第2主室（複穴式木棺）	古墳・中	5世紀前半	1		文7・8		
9	すくも山道跡	岡山市北区足守	古墳			南面斜面（箱式石棺？）	古墳・中	5世紀後半	1		文9	箱式石棺の南側より出土	
10	長板1号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	7.1	箱式石棺	古墳・前	前後半	1		文10		
11	南庭2号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	9	箱式石棺	古墳・中		2		文57		
12	一圓1号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	9以上	石棺1（箱式石棺）	古墳・中	5世紀後半	2		文59		
13	下足守見板山	岡山市北区下足守	古墳				古墳		2		文2		
14	下足守	岡山市北区下足守	古墳				古墳		1		文2		
15	上土田29号墳	岡山市北区上土田	古墳				古墳・中	～	5世紀中葉以降	1	文1・11		
16	大岐29号墳	岡山市北区大岐	古墳				古墳・後	7世紀前半、 TK216	1		文1・12		
17	宝山2号墳	岡山市北区平山	古墳	方墳	13	横穴式石室	古墳・中		1		文13		
18	宝山5号墳	岡山市北区平山	古墳	円墳	10	木棺葬葬	古墳・中		3	1	文13		
19	柳山古墳（油山第1号古墳）	岡山市北区新庄下	古墳	円墳	25	割竹形木棺	古墳・中	5世紀前半	1	1	文14・ 15	千足古墳と湧出泥	
20	千足古墳（油山第2号古墳）	岡山市北区新庄下	古墳	前方後円墳	30	第1主室（複穴式石室）	古墳・中	5世紀前半、 ～TK216	7	4	2	文15・ 16・17	泥の可能性あり
21	加茂所古道跡	岡山市北区加茂	集落			満34	古墳・前	7世紀前半	1		文18		
22	足守川加茂A古墳	岡山市北区加茂	集落			土路溝り	古墳・前	初期前須	1		文19・ 292	鍛造鐵劍の可能性	
23	足守川加茂B古墳	岡山市北区加茂	集落			包金壺	古墳・前	5世紀後半	1	二又鋒1	文19	あり（文292）	
24	奥板遺跡	岡山市北区内田	集落		A地区 No.140 袋狀土坑	共生、鉢 束	後期前須	1			文47		
25	前池内3号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半4四半期 ～7世紀前半、7世紀後半5四半期	1		文20		
26	前池内4号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・前	6世紀後半、 7世紀前半、 8世紀初期前須	1		文20		
27	雷山5号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初	2		文20		
28	南嶺天神山8号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	12.1	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初	2		文20		
29	後池内7号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半2四半期	1		文20		
30	鹿2号墓	岡山市北区津寺	古墳	方墳	9.5	主室部（箱式木棺）	古墳・前	初期前須	1		文20		
31	鹿3号墓	岡山市北区津寺	古墳	方墳	16	第1主室（箱式木棺）	古墳・前	初期前須	2		文20		
32	杉尾西5号墳	岡山市北区津寺	古墳	方墳	8	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半、TK47	1	1	文21		
33	天神山1号墳	岡山市北区幸川市塙	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・前	初期前須	1		文14		
34	天神山12号墳	岡山市北区幸川市塙	古墳	前方後円墳	60	A石室（複穴式石室）	古墳・前	初期後須	1	1	文14		
35	天神山12号墳	岡山市北区幸川市塙	古墳	前方後円墳	60	B石室（複穴式石室）	古墳・前	初期後須	1	1	文14		
36	義豈愛生碑津丘墓	岡山市北区大塙	方墳			第1主室（複穴式石室）	古墳・前	後期後須	1		文22		
37	青谷5号墳	岡山市北区大塙	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初 TK43～TK209	4		文23	金銅鏡主頭？大刀1	
38	西山1号墳	岡山市北区柏谷	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初 TK43～TK209	4		文24	金銅鏡大刀1	
39	西山2号墳	岡山市北区柏谷	古墳	円墳	15.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初 TK43～TK209	2		文24	御象嵌銅大刀1・ 金銅鏡大刀1	
40	西山3号墳	岡山市北区柏谷	古墳	円墳	9.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初 TK10～TK209	2		文24・ 25	鉢大刀1	
41	西山11号墳	岡山市北区柏谷	古墳	方墳	8	豊穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初 TK10～TK209	1		文24		
42	猪ノ坂東古墳	岡山市北区津高台	古墳	円墳	15	粘土壁（組合せ式石室）	古墳・中	5世紀	1		文26		
43	七块1号墳	岡山市北区津高台	古墳	前方後方墳	45	後方第1石室（豊穴式石室）	古墳・前	初期前須	1	1	文27・ 292	刀劍類は埴内出土 人土からの出土 鉢は鉢切先か（文 292）	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	形態	規模	出土遺構	時期		器種 分類	刀 剣 サリ 鉢	器種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期細分					
44	七つ坑1号墳	岡山市北区津島西坂・津島ヶ原	古墳	前方後方墳	45	後方部後2石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期前葉	1			文27	
45	郡母坂1号墳	岡山市北区津島木本町・津島高瀬	古墳	前方後方墳	33	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉	1			文14・28	
46	津安古墳	岡山市北区津島山田町	古墳	前方後方墳	41.5	西主室部(竪穴式石室)	古墳・前	前期中葉	2	2		文29	
47	有保塙古墳 (原の木古墳)	岡山市北区津島西坂	古墳	前方後方墳(帆立貝形)	30	竪穴式石室	古墳・中	5世紀末	1	10		文30・31・32	
48	神宮寺古墳	岡山市北区中井町	古墳	前方後方墳	150	副室(小竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉	1以上	1以上	刀・劍で25点以上	文14・30・36	
49	一本松1号墳	岡山市北区法界院	古墳	前方後方墳(帆立貝形)	55	竪穴式石室	古墳・中	5世紀前半	1	1		文2・30	
50	津保道路	岡山市北区いづみ町	集落			河原1・北岸	弥生・後	後期後葉～天葉一終末	3		銅鏡具のみ(廣角製 表裏1食む)	文33	
51	津島道路	岡山市北区いづみ町	集落			包丁屋	古墳		1			文34	
52	津島江道跡	岡山市北区津島東	集落			溝9上層	古墳・後		1	1		文35	
53	平瀬2号墳	岡山市北区平瀬	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀前葉・TK43～TK209	2		銀象嵌装大刀1	文37	
54	名物未定	岡山市北区玉柏	古墳			竪穴式石室	古墳		1		文1	伝刀出土	
55	林5号墳	岡山市北区玉柏	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	1		鏡灰のみ	文38	
56	備前東塚古墳	岡山市中区西神	古墳	前方後方墳	48	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉	1以上	1以上	1刀・劍それぞれ1点 以上出土	文14・30	
57	鶴の古墳跡	岡山市北区土田	古墳	円墳		箱式石棺?	古墳		1		文1	伝刀出土	
58	上道財田村土田	岡山市中区土田	古墳				古墳・後		1		鏡形? 銀頭大刀1	文2・44・62	鶴尚不明の觀形?
59	上郡財田村出土	岡山市中区土田	古墳				古墳・後		1		金銅鑄主頭大刀1	文81	
60	金藏山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後方墳	165	中央石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉	2	2	1刀・劍それぞれ2点 以上出土	文48・49	
61	金藏山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後方墳	165	中央石室副室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉	2		2二叉鋒1食む	文48・49	
62	金藏山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後方墳	165	南石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉	3	3	1刀・劍それぞれ3点 以上出土	文48・49	
63	沢田字東整石	岡山市中区沢田	古墳				古墳		3			文2	
64	津松14号墳	岡山市北区丹波山	古墳	方墳	20	南石室(木棺)	古墳・中	5世紀前半	4	4		文30	
65	津松14号墳	岡山市北区丹波山	古墳	方墳	20	北石室(漆竹形木棺)	古墳・中	5世紀前半	1	2	1	文30	
66	津松14号墳	岡山市北区丹波山	古墳	方墳	20	中央石室(竪穴式石室)	古墳・中	5世紀前半	5	3	2	文30	
67	原尻鳥道跡	岡山市中区藤原光久町	集落			溝19	古墳・後	7世紀初4半期	1			文39	
68	原尻鳥道跡	岡山市中区藤原光久町	集落			包丁屋	古墳		1			文39	
69	百間川原尾原道	岡山市中区原尾原	集落			三段?・六面石室	弥生・後	後期中葉	1			文40	
70	百間川原尾原道	岡山市中区原尾原	集落			竪穴住居9	古墳・前	前期初頭	1		鉄釘形銅刺	文41	青銅製
71	兼基字底山	岡山市中区兼基	古墳				古墳		1			文2	
72	今谷1号墳 (櫻山12号墳)	岡山市中区今谷	古墳	円墳	9	埴丘外土塁(一括土塁)	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	1			文50	
73	北山1号墳	岡山市中区浦里	古墳	方墳	11	南埋葬(粘土壠)	古墳・中	4～5世紀	1			文42	
74	北山4号墳	岡山市中区浦里	古墳	方墳	14		古墳・前	4～5世紀	1	1		文42	
75	浦間茶臼山古墳	岡山市東区浦間・茶臼山	古墳	前方後方墳	138	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉	5以上	18以上	刀は破片で12点、劍 は鏡片49点	文43	
76	佐野山古墳	岡山市東区竹原	古墳	円墳	15	竪穴式石室	古墳・前		1	1		文1・44	
77	浅川2号墳	岡山市東区浅川・桜原	古墳	円墳	7	箱式石棺	古墳・前	4世紀後半～5世 紀初期	1			文45	
78	浅川3号墳	岡山市東区浅川・桜原	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・前	4世紀後半～5世 紀初期	1			文45	
79	寺山7号墳	岡山市東区寺山・内・原	古墳	円墳	9.5	主室部(木棺遺 物)	古墳・中	5世紀後半	1			文46	
80	根岸古墳	岡山市東区根岸	古墳	円墳	20.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀 前葉	2		金銅鑄大刀1	文46	
81	名物不明	岡山市東区吉井	古墳				古墳		2			文60	
82	高島古墳	岡山市南区高島	古墳				古墳・前	5世紀後半～6世紀 初期	1			文14・30・51	
83	八幡大塚2号墳	岡山市南区北高島	古墳	円墳	35	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀前葉・TK43～TK209	1		2 銀頭大刀1	文14・52・53・54	
84	福岡山古墳	岡山市南区鈴鹿宇津原	古墳			竪穴式石室	古墳・後		1		銅1のみ	文30	
85	久谷2号墳	岡山市北区御津宇津原	古墳	円墳	10	竪穴式石室	古墳・前		1			文1・63 伝刀出土	
86	みのりの3号墳	岡山市北区御津宇津原	古墳	正方形	10	主室部(木棺)	古墳・中	5世紀後半・TK209～TK47	1			文64	
87	みのりの5号墳	岡山市北区御津宇津原	古墳	正方形	10	主室主体部(木 棺)	古墳・前	前期前葉	1		着銀頭部切磨の司馬 性あり(文292)	文64・292	
88	みのりの14号墳	岡山市北区御津宇津原	古墳	方形	20	主室主体部(木 棺)	古墳・前	前期前葉	1			文64	
89	みのりの38号墳	岡山市北区御津宇津原	古墳	方形	8	主室主体部(木 棺)	古墳・前	前期初頭	1			文64	
90	みのりの42号墳	岡山市北区御津宇津原	墳墓	長方形	21.5	主室主体部(木 棺)	古墳・前	後期後葉	1			文64	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	形態	規模	出土遺物	時期		刀	剣	ササギ	鉢	器種備考	文獻番号	備考
							時期	時期別分							
91	みのわの号4号墳	岡山市北区御津高津	墳墓	長方形	21.5	第5主体區(木棺生・葬末)	後期末葉		1					文64	
92	岩井山4号墳	岡山市北区御津伊田	古墳	方墳	12	第6号棺(箱式石棺)	古墳・中	5世紀		1				文63	
93	岩井山6号墳	岡山市北区御津伊田	古墳	方墳	10.8	箱式石棺	古墳・中	5世紀		1				文63	
94	高岡1号墳	岡山市北区御津伊田	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1					文・65	印字墳出土物か不明
95	豊美寺1号墳	岡山市北区御津豊美寺	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文・65	印字墳出土物か不明
96	松尾11号墳	岡山市北区御津町下大原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文・65	
97	塚の森3号墳	岡山市北区御津町下大原	古墳	方墳		箱式石棺	古墳・中			2				文56	塚の1片は刀の可能性あり
98	大庭下谷1号墳	岡山市北区御津町下大原	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳		1					文・65	伝刀出土
99	三ツ星1号墳	岡山市北区御津町吉田	古墳	円墳	14.7		古墳・中	5世紀		1				文・65	伝刀出土
100	津守郡御津村神山古墳	岡山市北区御津町神山	古墳				古墳・後		1					文2・66	
101	半音口古墳	岡山市北区瀬戸町瀬戸水屋	古墳	10		造底土	古墳・後		1					文67	主体部は横穴式石室
102	上の山1号墳	岡山市北区瀬戸町瀬戸水屋	古墳			箱式石棺?	古墳			1				文68	伝刀出土
103	諫古古墳	岡山市北区瀬戸町諫古	古墳				古墳			1				文68	伝刀出土
104	龜山1号墳	岡山市北区瀬戸町龜山	古墳	円墳	8.5		古墳		1					文68・69	伝刀謫出土
105	坂根古墳	岡山市北区瀬戸町坂根	古墳	円墳	13		古墳			1				文1	伝刀出土
106	铁砲山下古墳	岡山市北区瀬戸町下	古墳	円墳			古墳			1				文68	伝刀出土
107	陣屋山2号墳	岡山市北区瀬戸町陣屋山	古墳	円墳	25		古墳			1				文14・15	伝刀出土
108	陣屋山D-1号	岡山市北区瀬戸町江尻	古墳	方墳		東土坑墓	古墳・前			1				文21・22	
109	陣屋山D-1号	岡山市北区瀬戸町江尻	古墳	方墳		中央央土坑墓	古墳・前			1				文14・15	
110	鞍鉢寺奥谷古墳	岡山市北区瀬戸町鞍鉢寺	古墳				古墳			1				文68	古墳の詳細不明
111	郷ノ溝道路	倉敷市郷ノ溝	集落			溝9	古墳・後	6世紀後半		1				文55	
112	矢頭大抜古墳 (矢頭17号墳)	倉敷市矢頭	古墳	前方後円墳	47	整穴式石室	古墳・前	前期前葉		1				文3・70	
113	矢頭B19号墳	倉敷市矢頭	古墳	方墳	10	主室部(木棺直葬)	古墳・前	前期中葉		2				文71	
114	矢頭57号墳	倉敷市矢頭	古墳	方墳	10	不明	古墳・前	前期中葉		1				文71	
115	椎原丘墓	倉敷市矢頭	古墳	壇場双方中円形	20	中心主体(木棺木棺)	生・後	後葉		1				文72・302	
116	王高山半平塚4号墳	倉敷市半平塚	古墳			横穴式石室	古墳・前	7世紀末		1				文73	
117	王墓山古墳	倉敷市日畠	古墳	円墳	25以上	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	3		5	全銅鏡主鏡桂葉蓮瓣大刀1	文14・73		
118	王墓山赤井2号墳	倉敷市日畠	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀	1				文73		
119	王墓山赤井4号墳	倉敷市日畠	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初	1	1			文73		
120	王墓山赤井南2号墳	倉敷市日畠	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初	3	1	1	全銅鏡大刀1・ 全銅鏡内鏡7大刀1	文73		
121	王墓山赤井南4号墳	倉敷市日畠	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初	1				文73		
122	女忍若道跡	倉敷市矢頭	墳墓	方形?	10以上	中央土壤基(木棺)	生・終	後葉		2				文73	
123	天王古墳	倉敷市玉島八幡	古墳	前方後円墳	50		古墳・中	5世紀後半		1				文70・74	伝刀出土
124	ドードン山2号墳	倉敷市玉島町天城	古墳			横穴式石室	古墳・後		1				文70	伝刀出土	
125	浦舟船着古墳	倉敷市福田町	古墳			横穴式石室	古墳・後		1				文70	伝刀出土	
126	溝7号古墳	倉敷市福田町	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀	9				文75		
127	金浜古墳	倉敷市完島	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	4				文70・76		
128	高見エビス墓1号墳	倉敷市完島	古墳			横穴式石室	古墳・後		1				文70	伝刀出土	
129	琴海1号墳	倉敷市阿津丁目	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	2	1	1	全銅鏡主鏡大刀1	文77		
130	琴路1号墳	倉敷市阿津井田之浦	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	1				文70		
131	ホニコッサマ古墳	倉敷市完島町	古墳			箱式石棺	古墳		1				文70	伝刀出土	
132	南北21号墳	倉敷市完島町川辺	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・前	4世紀末～5世紀中葉	1				文78		
133	南明地4号墳	倉敷市完島町川辺	古墳	円墳	14	主室部2(複数木棺)	古墳・前	前期後葉～中期前半		1				文80	
134	后玉古墳	倉敷市船越町	古墳	前方後円墳	20		古墳		1					文81・82	伝大刀出土
135	箭大塚古墳	倉敷市真備町	古墳	円墳(露出)	50	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初	3					文82・83・84・85・86	
136	竪三塚古墳	倉敷市真備町井并二万	古墳	円墳	37	整穴式石室	古墳・中	5世紀末	1					文81	伝大刀出土再埋納
137	絆塚古墳	倉敷市真備町二万二	古墳	円墳	13	横穴式石室?	古墳・後		1					文81	
138	二万大塚古墳	古墳	前方後円墳	38	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	5					文86		

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種	文獻 番号	備考		
							時期	時期細分	刀	劍	ササギ		
139	勝負砂古墳	金沢市真備町下二万	古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	43	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後半	2	2	鹿角形柄頭2・鹿角 鉢形頭(波弧文あり)・文88 1・骨角製短刀頭1		
140	天狗山古墳	金沢市真備町川辺・下二万	古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	57	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後葉・TK47	2	1	3	1 直角先大刀頭口1(直 鉢文あり)・鹿角製 短刀頭1・二本芯足 列コイル状二重模 糸巻き1	文2・ 14・84・ 85・99 299
141	古鏡寺1号墳	津市山市方	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1			文90	
142	高倉大門古墳	津市上高倉	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1			鉢刀片5のみ	文2・90
143	寺田古墳	津市北部	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 初頭	1			文91	
144	笠置2号墳	津市宇加郡	古墳	円墳	9	第1主体部(木 棺外蓋)	古墳・後	6世紀後半	1			文92	
145	五反田2号墳	津市山市	古墳	円墳	11	主室部(木棺蓋 葺)	古墳・中	6世紀末～6世紀 初頭	1			文93	
146	田原丸山1号墳	津市山下田邑	古墳	円墳	36	第1主体(竪穴 式石室)	古墳・前	前期後半	2			文2・ 14・94・ 95・96 (6)	
147	田原丸山1号墳	津市山下田邑	古墳	円墳	36	第1主体(木棺 内)	古墳・前	前期後半	1			文2・4・ 94・95・ (6)	
148	有本2号墳	津市山下田邑	古墳	方墳	9	第1主体(木棺 内)	古墳・前	前期中葉	1			文97	
149	有本4号墳	津市山下田邑	古墳	方墳	10	第1主体(六 丈石室)	古墳・前	前期中葉	1			文97	
150	男鹿崎古墳	津市戸鳥	古墳	円墳	15	主室部(木棺)	古墳・後	5世紀中頃	2			文98	
151	下原西二子古墳	津市戸鳥	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1			文99 伝刀出土	
152	大間3号墳	津市二宮	古墳	円墳	13	主室部(木棺蓋 葺)	古墳・後	6世紀前半・MT15	1			文99	
153	大間4号墳	津市二宮	古墳	円墳	12	主室部(木棺蓋 葺)	古墳・後	6世紀中葉・TK10	1			文99	
154	二宮大成古墳	津市二宮	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 前半	1			柄頭は出土してい ないが鉄の特徴か ら直角先大刀と推定 (文101)	文100・ 101
155	下原山道跡	津市山市社	墳墓			包含層	古墳		3			文102	
156	森山1号墳	津市山市平福	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉・TK10		1		石突1のみ	文105
157	森山2号墳	津市山市平福	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉・TK10	1			直角先大刀	文105
158	森山3号墳	津市山市平福	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉・TK10	2			直角先柄頭2	文105
159	森山4号墳	津市山市平福	古墳	円墳	10	第1主体部(竪 穴式石室)	古墳・後	6世紀中葉・TK10	1			文105	
160	森山5号墳	津市山市平福	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀前半・TK43	1			文105	
161	森山南1号墳	津市戸鳥尾	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀天葉～7世 紀中葉	1			銀装嵌袋大刀	文106
162	森山南3号墳	津市戸鳥尾	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	7世紀前半～7世 紀中葉	2			文106	
163	綱崎3号墳	津市山市高尾	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀中葉	1			文106	
164	高瀬アリ谷1号 墳	津市山市高尾	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	1			文98	
165	丸山1号墳	津市山市福田	古墳	円墳	10.8	横穴式石室	古墳・後		2			文108	
166	丸山2号墳	津市山市福田	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後		1			文108	
167	中村1号墳	津市山市福田	古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	23	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉・TK10	6			銀先大刀1・鹿角 刀頭具2	文108
168	門の山8号墳	津市山市平福	古墳	円墳	9.5	第1主体(木棺 直体)	古墳・中	5世紀末・TK47	1			文109	
169	門の山9号墳	津市山市平福	古墳	円墳	8	主室部(木棺蓋 葺)	古墳・後		1			文109	
170	カキ谷1号墳	津市山市樺	古墳	円墳	11.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀前半～7世 紀終	1			文110	
171	沼6号墳	津市山市沼	古墳	方墳	13.8	粧土櫛(薪竹形 木棺)	古墳・中	5世紀	1			文94・ 111	
172	沼6号墳	津市山市沼	古墳	方墳	13.8	箱式石棺	古墳・中	5世紀	1			文94・ 111	
173	沼8号墳	津市山市沼	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	1			文111	
174	六ツ塚1号墳	津市山市川崎	古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	21	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1	1		文14・ 94・112	
175	六ツ塚2号墳	津市山市川崎	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1			文90・ 112	
176	六ツ塚3号墳	津市山市川崎	古墳	円墳	14	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1			文14・ 94・112	
177	六ツ塚5号墳	津市山市川崎	古墳	円墳	15	粧土	古墳・後	6世紀前半	1			文14・ 94・112	
178	東山丸山古墳	津市山市川崎	古墳			粧土	古墳		1			文2・90	
179	押入西1号墳	津市山市押入	古墳	円墳	12.5	主室部(埴形木 棺)	古墳・中	5世紀前半・TK73	1			素面頭大刀1	文113
180	橋本塚1号墳	津市山市押入	古墳	円墳	30	第1主体(薪竹 形木棺)	古墳・中	5世紀後半	2	6		文114	
181	橋本塚1号墳	津市山市押入	古墳	円墳	30	第1主体(稚形 木棺)	古墳・中	5世紀後半	1			文114	
182	能登寺1号墳	津市山市押入	古墳	前方後円墳	55.5	横穴式石室	古墳・中	5世紀前半～6世 紀初頭	1			文98	
183	正経塚古墳	津市山市野山西	古墳	前方後円墳		長方形石棺	古墳・中	5世紀前半	2	1		文14・ 95・115	
184	天神社1号墳	津市山市河辺	古墳	円墳	12	粧土中	古墳・中	5世紀前半～6世 紀初頭	1			文93	
185	天神原1号墳	津市山市河辺	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀前半・TK209	1			双輪頭大刀1	文116
186	井口草塚古墳	津市山市河辺	古墳	前方後円墳 (帆立貝形)	35	排土中	古墳・中	5世紀末	2			文117	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		西種 時代 時期細分	刀 剣 サリ 銘	西種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期細分					
187	近丸丘1号墳	津市市近長	古墳	円墳	20	第1主体（削竹形木棺）	古墳・前	前期中葉	1		把頭は木質に黒漆を塗り縫割を施す	文116	
188	近丸丘2号墳	津市市近長	古墳	方墳	12	中心主体(木棺)	古墳・前	前期中葉	1			文118	
189	の場1号墳	津市市金屋	古墳	円墳	13	楕円式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	1			文119	
190	の場2号墳	津市市金屋	古墳	円墳	10	楕円式石室	古墳・後	7世紀初頭～中 TK217	1			文119	
191	の場3号墳	津市市金屋	古墳	円墳	10	楕円式石室	古墳・後	7世紀初頭、TK209前	1		小刀は鹿角装	文119	
192	日上歎山58号墳	津市市日上	古墳	前方後円墳	32	楕円式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	2			文94-120	
193	日上天王山古墳	津市市日上	古墳	前方後円墳	56.9	中心石槽（楕円式石室）	古墳・前	前期中葉	1			文121	
194	日上天王山古墳	津市市日上	古墳	前方後円墳	56.9	第六石槽（楕円式石室）	古墳・前	前期中葉	1			文121	
195	日上天王山古墳	津市市日上	古墳	前方後円墳	56.9	第六石槽（楕円式石室）	古墳・前	前期中葉	1			文121・石棺内から過去に人骨と短剣が出土	122
196	日上田古墳	津市市日上	古墳	円墳	19	椎標	古墳・後	6世紀前半	1			文125・遺物内容は明治期の記述から	123
197	河辺上原1-C号墳	津市市河辺	古墳	円墳	16.5	第1主体（椎標、木棺）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2			文124	
198	河辺上原2号墳	津市市河辺	古墳	円墳	11	第1主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀末、TK47	1			文124	
199	河辺上原2号墳	津市市河辺	古墳	円墳	11	第4主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉、MT85	1			文124	
200	名恵末定	津市市国分寺	古墳				古墳		1			文99・伝承出土	
201	長船山北3号墳	津市市国分寺	古墳	円墳	10	主部（木棺直葬）	古墳・中	5世紀末、TK47	1			文125	
202	長船山北5号墳	津市市国分寺	古墳	円墳	14.5	第1主体（楕円式石室、木棺）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文125	
203	長船山北7号墳	津市市国分寺	古墳	円墳	9.5	主部（木棺直葬）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文125	
204	長船山北9号墳	津市市国分寺	古墳	円墳	14.5	第1主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文125	
205	長船山北11号墳	津市市吉田	古墳	円墳	11	第1主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文126	
206	長船山北11号墳	津市市吉田	古墳	円墳	11	第2斜糸	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文126	
207	大畠1号墳	津市市瓜生原	古墳	円墳	9.5	A主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15-TK10	1			文127・既新舊はA主体に伴わない可能性あり	
208	大畠1号墳	津市市瓜生原	古墳	円墳	9.5	B主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15-TK10	1			文127・把頭に布目を裏表で囲め内面に墨書き文	文127
209	大畠道跡	津市市瓜生原	集落			往住址	古墳		1			文127・刀は往住に伴わないと	
210	大畠道跡	津市市瓜生原	集落			往住址11	古墳・後		1			文127	
211	大畠道跡	津市市瓜生原	集落			土墳墓9	古墳？		1			文127	
212	柳吉古墳	津市市瓜生原	古墳	円墳	7.5	楕円式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初	1			御象嵌銅頭様大刀1	文128
213	一直東3号墳	津市市金井	古墳	方墳	12.4	主部（木棺直葬）	古墳・中	5世紀	1			文129	
214	茶山弓場	津市市金井	古墳	方墳	20.6	第4主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀末、TK47	1			文130	
215	横ノ山古墳	津市市中原	古墳	前方後円墳	27	楕円式石棺	古墳		1			文2・90	
216	日上歎山72号墳	津市市日上	古墳	円墳		耕作土中	古墳		1			文129	
217	枝口1号墳	津市市郡下	古墳	円墳	13	楕円式石室	古墳・後		1			文131・文132	
218	久米三成4号墳	津市市郡下	古墳	前方後方墳	35	後方部第1主体（箱式石棺）	古墳・中	5世紀初	1			文133	
219	姫4号墳	津市市郡下	古墳	円墳	15.7		古墳		1			文131・文133	
220	大日1号墳	津市市郡下	古墳	円墳	28		古墳・中	5世紀前半	1			文131・文134	
221	里公文塚の元古墳	津市市里公文	古墳				古墳・後		1			伝承？出土、南面に存した別古墳	
222	藤池跡古墳	津市市里公文	古墳				古墳		1			文133・文135	
223	奥の前1号墳(油木底塚)	津市市油木北	古墳	前方後円墳	65	組合せ式石室	古墳・前	前期後半	1	2		文133・文136	
224	足山1号墳	津市市久米川南	古墳	前方後円墳	67		古墳・中	5世紀前半	1			古く盗掘された跡、刀・玉類が出士。市指定名称「藤王古墳」	文131
225	足山2号墳	津市市久米川南	古墳	円墳	17	楕円式石室	古墳・後		3			文131・別三體刀、伝銀劍(刀)3点出土	
226	石才2号墳	津市市木下	古墳	円墳	10.5	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半	2			文136	
227	コクデン2号墳	津市市木下	古墳	円墳	15.5	楕円式石室	古墳・後	7世紀後半～8世紀初	3			文136	
228	丸山4号墳	津市市木下	古墳	円墳	21	楕円式石室	古墳・後	6世紀前半	1			文133・文137	
229	山田原1号墳	津市市福田下	古墳	円墳?		楕円式石室	古墳・後		1			文133・伝承銅劍出土	
230	万座山古墳	津市市加茂町中	古墳	円墳	24	楕円式石室	古墳・後	5世紀初半、TK43-TK237	9			文14・金銅鏡大刀1・138・296	
231	室尾生石谷古墳	津市市加茂町青柳	古墳	円墳	14.3	表様	古墳・後	6世紀後半～7世紀初	1			文139・刀は石室外で表様、共伴遺物は楕円式石室内の遺物	
232	水原古墳	津市市新野山	古墳	円墳	16	楕円式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	1	1	1	文2・140・141	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	形態	規模	出土遺構	時期		器種	器種備考	文獻番号	備考
							時期	時期細分				
233	丸山塚	津市市場	古墳			古墳・後	2				文140	伝刀出土、古墳所在不明
234	城子の塚	津市市西中	古墳			古墳・後	1				文140	伝刀出土、古墳所在不明
235	灰出1号墳	玉野市道	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1		文142	刀の点数は不明
236	灰出2号墳	玉野市道	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後		1		文142	刀の点数は不明
237	灰出3号墳(先祖山)古墳	玉野市道	古墳	前方後円墳	30		古墳・前	前期後半	1		文3	鉄剣破片出土
238	高須の古墳	玉野市高井	古墳			古墳・後	1			金銅製大刀1?	文143・ 144	伝金銅製大刀出土
239	弓場山古墳	笠岡市走出	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・中	2			文145・ 146	
240	キヨコダツ古墳	笠岡市走出	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1	金銅製大刀1	文146	
241	和田山古墳群	笠岡市和財	古墳				古墳		1		文146	伝刀出土
242	押野二塚古墳	笠岡市押野	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	刀刃數は不明
243	高須寺裏山1号墳(愛媛)	笠岡市走出	古墳	前方後円墳	50	前方原主体(暨六式石室)	古墳・中	5世紀後半	5	1	文146・ 148	
244	高須寺裏山15号墳(七ツ塚古墳群)	笠岡市走出	古墳	方墳	9	箱式石棺	古墳・中		1	1	文146・ 148	
245	小池原古墳	笠岡市白石島上浦	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1		文147	伝刀出土
246	大見島遺跡	笠岡市大見島	祭祀				古墳・終	米~平安	2		方頭大刀1・青銅製刀装具	草創道跡での出土。方頭大刀は7世紀後半の製作か(文150)
247	久彌掛古墳	井原市高屋町野々原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
248	円生古墳	井原市高屋町生井	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
249	吉谷古墳	井原市高屋町吉谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
250	山手3号墳	井原市木之子山手	古墳	円墳	20	竖穴式石室	古墳・前		1		文151	
251	山手5号墳	井原市木之子山手	古墳	円墳	14.5	横穴式石室	古墳・後		1		文151	
252	妙畠ヶ古墳	井原市木之子山妙畠	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文151	
253	向中原遺跡	井原市東山原町今市	古墳?				古墳		2		文151	
254	高瀬2号墳	井原市東山原町木崎	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文151	
255	吉野古墳	井原市高屋町吉野	古墳	円墳			古墳		1		文147	伝刀出土
256	猪谷古墳	井原市大江町猪谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
257	東大谷1号墳	井原市大江町東大谷	古墳	円墳	11.4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中	3		文152	
258	厚原1号墳	井原市厚原町厚原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳		1		文147	伝刀出土
259	石舟山古墳	井原市大江町米田	古墳	円墳	15	竖穴式石室	古墳・中		1		文144・ 151	
260	厚原4号墳	井原市岩倉町厚原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
261	大仙山遺跡	井原市芳井町大仙山	遺跡?				生土・古墳		2		文147・ 153	
262	若木山1号墳	船社市若木	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1		文81	伝刀出土
263	若木山2号墳	船社市若木	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1		文81	伝刀出土
264	大山12号墳	船社市若木	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文81	伝刀出土
265	日没2号古墳	船社市日没	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	2		文154・ 155	
266	森4号古墳	船社市見延	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・終	7世紀前半~中頃	1		文156	
267	佐佐山古墳(井尻野1号墳)	船社市佐佐野	古墳	方墳	25	箱式石棺	古墳・中	5世紀	2		文154・ 154	
268	すりばち古墳群	船社市小寺	古墳	円墳	8.8	竖穴式横口式石室	古墳・後	6世紀中頃以降	1		文158	
269	すりばち古墳群	船社市小寺	墳墓			1号棺(箱式石棺)	古墳・後	6世紀前半	1		文158	
270	すりばち古墳群	船社市寺	墳墓	長方形	14.4	策土主体	生土・古墳	後南期墓	1		文159	
271	福井大塚2号墳	船社市福井	古墳	前方後円墳	22	横穴式石室(石室外)	古墳・後	6世紀後半	1		御象嵌装刀1	文160
272	福井大塚11号墳	船社市福井	古墳	円墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	1		文160	
273	福井大塚12号墳	船社市福井	古墳	前方後円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	2		文160	方形墓には横穴式石室
274	中山山古墳	船社市福井	古墳	方墳		第1主体(暨穴式石室・木棺)	古墳・中	5世紀後半・TK23~TK47	1		文156	
275	千手2号墳	船社市西阿波	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀前半	1		文161	
276	隨庵古墳	船社市西阿波	古墳	前方後円墳	40	横穴式石室・(暨穴式石室・帆立貝形)	古墳・中	6世紀前半	2	3	文154・ 154・ 162	
277	隨庵古墳	船社市西阿波	古墳	前方後円墳	40	粘土床(木棺)	古墳・中	5世紀後半	1		文154・ 154・ 162	
278	久米2号墳	船社市久米	古墳	方墳	14	箱式石棺	古墳・中	5世紀	1		文154・ 155	
279	西山44号墳(福井の古墳)	船社市総社	古墳	前方後円墳	20	横穴式石室	古墳・中	5世紀	1		文154・ 155・ 163	
280	西山12号墳	船社市西山	古墳	円墳	21	東トレンチ	古墳・中	5世紀前半	1		文81	伝刀出土
281	西山25号墳	船社市西山	古墳	方墳	20	埴丘	古墳・中	5世紀前半	1		文156	
282	西山26号墳	船社市西山	古墳	方墳		煙草施設(木棺)	古墳・中	5世紀前半	1		文156	用地外古墳の進出 「部分か」
283	西山26号墳	船社市総社	古墳	方墳	20	煙草施設(木棺)	古墳・中	5世紀前半	1		文156	用地外古墳の進出 「部分か」

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種	器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	劍	サヤ	鉢
284	緑山4号墳	総社市上林	古墳	円墳	24	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	1	1	銅は石突1のみ	文164
285	緑山6号墳	総社市上林	古墳	円墳	15.6	楕円式石室	古墳・後	6世紀中葉～7世紀初頭、TK10～	2		銀装大刀I	文164
286	緑山7号墳	総社市上林	古墳	円墳	16	楕円式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	1		銀装装具方彌刀I	文165
287	江崎古墳	総社市上林	古墳	前方後円墳	45	楕円式石室	古墳・後	6世紀後葉～7世紀初頭、TK209	5		金銅装大刀I	文164・ 154・ 155・ 176・ 291
288	こうもり原古墳	総社市上林	古墳	前方後円墳	100	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～	4		单尾彫頭大刀I	文177
289	江崎箱式棺	総社市上林	古墳			箱式石棺	古墳・前	～中	1			文177
290	法蓮40号墳	総社市下林	古墳	円墳	11	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半、TK23	1			文154・ 155・ 165
291	法蓮広・堂山1号	総社市下林	古墳	方墳	16	第二主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀中頃	1			文179
292	法蓮広・堂山3号	総社市下林	古墳	方墳	10	第三主体部（木棺）	古墳・中		1			文179
293	法蓮古墳群（L-29）	総社市下林	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・前	～中	1			文164
294	雪上山古墳群（N-5）	総社市赤浜	古墳	円墳	12	箱式石棺	古墳・前	～中	1			文164
295	旧三原村地区A	総社市三原	古墳		11	箱式石棺	古墳・前	～中	1			文164
296	旧三原村地区A-11	総社市三原	古墳			箱式石棺	古墳・前	～中	1			文164
297	佐々木美須道跡	総社市木津	集落			房塀遺跡より下層	古墳・後	6世紀中葉	1			文166
298	佐々木美須道跡	総社市木津	集落			泡吹屋	古墳・後		1			文166
299	妙子山3号墳	総社市木田	古墳	前方後円墳	38	楕円式石室	古墳・前	～中	1			文14・ 154
300	狩野3号墳	総社市山田	古墳	円墳	8.6	第一主体部（木棺）	古墳・中	5世紀前半	1	1		文178
301	金子石塔塚古墳	総社市東	古墳	円墳	26	楕円式石室	古墳・後	6世紀末。TK209	1		單尾彫頭大刀I	文154・ 154
302	有室1号墳	総社市新本	古墳	方墳	8	青土中	古墳・中		1			文167
303	鹿度北1号墳	総社市久代	古墳	円墳	9	楕円式石室	古墳・前	～末	1			雨手により主体部不明
304	立石北1号墳	総社市久代	古墳	前方後円墳	26	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半	2			文154・ 155
305	立石北5号墳	総社市久代	古墳	円墳	7	箱式石棺	古墳・中	世紀後葉	1			文169
306	又木原古墳群	総社市久代	古墳	円墳	7	楕円式石室	古墳・後	6世紀後葉。TK209	1			文169
307	吉瀬古墳群	総社市久代	古墳	円墳	10	楕円式石室	古墳・後	6世紀後葉半。TK43	1		銅鏡具?1のみ	文169
308	黒川3号墳	総社市久代	古墳	八角形?	8.5	楕円式石室	古墳・後	6世紀後葉半	1			文170
309	牛糞1号墳	総社市久代	古墳	円墳	22	第1主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀前半	1			文171・ 172
310	牛糞1号墳	総社市久代	古墳	円墳	22	第2主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀前半	2	2	1	文171・ 172
311	宮山墳墓群	総社市三輪	墳墓	前方後円形	38	楕円式石室	後生・終末	～古墳・前	1	1		文14・ 154・ 173
312	三輪山6号墳（三輪山古墳）	総社市三輪	古墳	円墳	15	楕円式横口式石室	古墳・後	6世紀前半。MT15	3		單尾彫頭大刀I	文14・ 154・ 155・ 174
313	殿山9号墳	総社市三輪	古墳	方墳	14	第1主体部（箱式石棺）	古墳・前	前期中葉	1			文175
314	殿山10号墳	総社市三輪	古墳	方墳	15	第1主体部（箱式石棺）	古墳・前	前期中葉	1			文175
315	殿山11号墳	総社市三輪	古墳	方墳	15	第1主体部（箱式石棺）	古墳・前	前期中葉	1	1		文175
316	殿山12号墳	総社市三輪	古墳	方墳	13	主體部?（木棺）	古墳・前	前期前葉	1			文175
317	持持20号墳	総社市西郡	古墳	円墳	26	楕円式石室	古墳・後	6世紀中葉。TK10	4			主體部遺失か
318	宿寺山古墳	総社市宿	古墳	前方後円墳	116	後円部石室（楕円式石室）	古墳・中	5世紀後半。TK208	1以上	1以上	刀剣10數点出土	銅は、前方部石室の右側は不明（電子写真11-12-13号地）
319	宿寺山古墳	総社市宿	古墳	前方後円墳	116	前方部石室（楕円式石室）	古墳・中	5世紀後半。TK208	1以上	1以上	刀剣多数出土	
320	魔王山古墳群	総社市宿	古墳	方墳?	16	箱式石棺	古墳・中		3	1		文181・ 182・ 183・ 300
321	前山北3号墳	総社市宿	古墳	方墳	13	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半	1	2		文181・ 182
322	辻ノ畠（蓋兵衛塚）	総社市宿	古墳			楕円式石室	古墳・後		1	1		基壇塚は東側保証の辻ノ畠所在古墳と同一ヶ
323	铸物谷筋2号墳	総社市済音三	墳墓	方形	90	N石室	後生・後	後期後葉	1			文184
324	妙漢寺8号墳	総社市済音三	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・中		1			文81 伝刀出土

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺物	時期		器種 刀・劍・やり 鏡	器種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期割合				
325	鈴物原古墳1号 塙	新潟市西音三 因	古墳	不明		第1主体(縄式 石棺)	古墳・中	5世紀後半	刀 1 劍 1 やり 1		文185	
326	北山古墳群	新潟市西音三 因	古墳				古墳		1		文186	
327	北山古墳群	新潟市西音三 因	古墳				古墳		1		文186	
328	吉田古墳	新潟市西音三 吉川	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文187 188 188	伝刀出土
329	ソゴエ古墳	新潟市西音三 佐佐	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文187 188	伝剣出土
330	赤羽根4号墳	高栗市高栗町 阿部	古墳			5号石棺	古墳・中 ~後		1		文188	
331	赤羽根6号墳	高栗市高栗町 阿部	古墳	不明		第1主体部(縄 式石棺)	古墳・中	5世紀後半~6世 紀	2		文189 190	
332	公1号墳	高栗市川上町 坂家	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後		1		文187 191	
333	小鹿田横穴墓	新潟市千草屋 新見	横穴墓				古墳・後		1		文192	伝刀出土
334	横14号墓	新潟市上市	墳墓	方形	10	第1主体(縄式 石棺)	後期末葉 末		1		文193	
335	横見1号墳	新潟市上市	古墳	方墳	8	横穴式石室	古墳・後 6世紀後半~7世 紀前半	2			文193	
336	青道跡	新潟市千草谷	古墳	円墳	8	周溝	古墳・後 6世紀前半	1			文194	
337	南門下3号墳 (桃木古墳)	新潟市新見	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文192	伝刀・須磨器出土
338	坦1号墳	新潟市新見	古墳			横穴式石室	古墳・後		2		文195	
339	石蟹上古墳	新潟市石蟹	古墳			箱式石棺	古墳		1		文192	墓地跡地中に縄式 石棺破片
340	広3号墳	新潟市大佐	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		2		文196 197	
341	脇古墳	新潟市大佐小 坂部	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文192	伝刀出土
342	広古西古墳	新潟市大佐小 坂部	古墳	円墳			古墳・後		1		文192	伝刀出土
343	円通寺3号墳	新潟市大佐永 澤	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後 6世紀末~7世紀 前半	1			文198	
344	円通寺2号墳	新潟市大佐永 澤	古墳			横穴式石室	古墳・後		3		方頭大刀1	2196 197
345	塚の元古墳	新潟市大佐永 澤	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文137 192	
346	神の臺古墳 (王子原)	新潟市大佐永 澤	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文192	伝刀出土
347	漆原3号墳	新潟市大佐田 沼部	古墳	円墳			古墳・後		1		文192	
348	塚のま (劉のミサキ)	新潟市大佐田 沼部	古墳	?			古墳		1		文192	伝剣出土
349	三市2号墳 (中段)	新潟市神郷町 村	古墳	円墳			古墳・後		4		文199	
350	泊三塚古墳	新潟市神郷町 村	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後 6世紀末~7世紀 前半	1			文193	
351	三井古墳	新潟市神郷町 村	古墳	?		横穴式石室?	古墳・後		1		金銅装主頭大刀1	文199
352	山根7号墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	不明		第1主体(縄式 石棺)	古墳・中	5世紀代	1		文200	
353	山根12号墓	新潟市西野町 上沖代	墳墓			箱式石棺	古墳・前	前期前半	1		文200	
354	山根原1号墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後 6世紀後半	2			文200	
355	山根原3号墳	新潟市西野町 上沖代	古墳			石室裏下の住居 址上層	古墳・後 6世紀後半	1			文200	
356	道上古墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	円墳	8.5	横穴式石室	古墳・後 6世紀後半~7世 紀初頭	7 2			銀象嵌装大刀2	文201 201
357	野田1号墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	円墳	12.8	竪穴式石室	古墳・後 6世紀中葉	2	1		直角装刀1	文202
358	山根原古墳 (松本原古墳)	新潟市西野町 上沖代	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文192	伝刀出土
359	ひこご塚古墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	前方後円墳	30	箱式石棺?	古墳・中	5世紀末	1		文3 192	伝刀出土
360	大字古墳	新潟市西野町 上沖代	古墳	円墳			古墳・後		1		文192	伝刀出土
361	西江古墳	新潟市西野町 上沖代	集落			包合層	古墳・後 6~7世紀	1			文203	
362	光坊寺2号墳 矢田	新潟市西野町 矢田	古墳	円墳	9	主室扉(木板被 蓋)	古墳・前	初期中期	1		文193	
363	奥1号墳	新潟市西野町 矢田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文192	伝刀出土
364	横田東1号墳	新潟市西野町 矢田	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後 6世紀後半~7世 紀初頭	3			文201	
365	横田東2号墳	新潟市西野町 矢田	古墳	円墳	10	竪穴式石室	古墳・後 6世紀後半	1			銀装大刀1	文201
366	横田1号墳	新潟市西野町 矢田	古墳	円墳	10	主室扉(木板被 蓋)	古墳・前	4世紀後半~5世 紀代	1		文201	
367	小松畠古墳	新潟市西野町 矢田	古墳	前方後円墳	15.8	箱式石棺?	古墳・後		1		文192	伝刀出土
368	日本6号墳 (青崎古墳)	新潟市西野町 大野原	古墳				古墳		1		文192	伝刀出土
369	鶴丸山古墳	新潟市西野町 大野原	古墳	円墳(露出 し付き)	6.6	竪穴式石室	古墳・前	初期後葉	2 5		文14 16 214 16	
370	新潟市山神橋 古墳	新潟市新庄	古墳	円墳	41.5	竪穴式石室	古墳・前	初期後葉	10			文204
371	御園	新潟市新庄	古墳	円墳		竪穴式石室	古墳・後		1		文2	
372	上屋敷古墳	新潟市新庄	古墳	円墳		竪穴式石室	古墳・後		1		金銅装大刀?	文204 205
373	シカの山古墳群	新潟市新庄	古墳			竪穴式石室?	古墳		1		伝刀出土	文14 16 214 16 205

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		種類	器種備考	文獻番号	備考	
							時期	時期細分	刀	劍	ササリ	鉢	
374	小丸山古墳	瀬戸内市牛窓町長浜	古墳	円墳	16	箱式石棺	古墳		1				文1・ 204
375	葦原古墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	円墳	9	楕円式石室	古墳・後		1				文1・ 204
376	吉原古墳	瀬戸内市牛窓町鹿児	古墳	円墳	22	楕円式石室	古墳		1				文1・ 204
377	桜谷1号墳	瀬戸内市牛窓町鹿児	古墳	円墳	23	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭			1		文206
378	二母山古墳	瀬戸内市牛窓町鹿児	古墳	前方後円墳	55	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭 TK43～ TK209	1				倭鏡大刀1〔水晶製 三輪玉のみ出土〕 文206
379	黒島1号墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	前方後円墳	81	後円頂東椭式石 室	古墳・中	5世紀前半、 TK73～TK216	2				文206
380	立石古墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1				文204 伝刀出土
381	找地16号墳	瀬戸内市邑久町上芝原	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・中	5世紀後半、 TK208	2	3	1		銀装主頭頭大刀1 文207・ 208
382	西郷免古墳	瀬戸内市邑久町山田庄	古墳	円墳	22	木棺直葬	古墳・後	6世紀中葉 TK10			1		文208
383	高木山古墳群八木村支群1号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	方墳	11	箱式石棺	古墳		1				文208 伝刀出土
384	高木山古墳群五尾羽根山群2号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	円墳			古墳		1				文208 伝刀出土
385	高木山古墳群羽根山支群H12号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	円墳	15		古墳		1				文208 伝刀出土
386	花光寺古墳	瀬戸内市長船町府部	古墳	前方後円墳	86	小石室	古墳・前	前期後葉	4	4	4		美濃鏡大刀1 32・ 14・ 209・ 210
387	金鏡塚古墳	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	前方後円墳	35	楕円系横口式石 室?	古墳・後	6世紀前半、 MT15	1		1		留後主頭桂葉謂頭大 刀1 32・ 210・ 211・ 293
388	牛文臼山古墳	瀬戸内市長船町牛文	古墳	前方後円墳	88	楕円式石室	古墳・中	5世紀末	4				32・ 14・ 210・ 212
389	葵山古墳	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	前方後円墳	82	楕円式石室	古墳・中	5世紀末	1	1	2		32・ 14・ 209・ 212
390	名跡不明	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	円墳		楕円式石室	古墳・後		1				文2
391	八郎3号墳	赤磐市口日	古墳	円墳	11	楕円式石室	古墳・後	6世紀中葉	2				文213
392	平井古墳	赤磐市口日	古墳	円墳	15	楕円式石室	古墳・後		1				文214
393	石塚1号墳	赤磐市口日	古墳	円墳	15	箱式石棺	古墳		1				文214 伝刀出土
394	吉田4号墳	赤磐市口日保	古墳	方墳	24	箱式石棺	古墳		2				文215
395	吉田6号墳	赤磐市口日保	古墳	前方後円墳	52	木棺直葬	古墳・前	前期後半	1				文215
396	正岡2号墳	赤磐市正岡	古墳	円墳	20	第1主体(木棺 木棺直葬)	古墳・中	5世紀末、TK47	1	2	1		文216
397	正岡4号墳	赤磐市正岡	古墳	円墳	13	箱式石棺	古墳						文216
398	正岡6号墳	赤磐市正岡	古墳	円墳			古墳			2			文214・ 217
399	朱千古古墳	赤磐市柿崎	古墳	前方後円墳	80	長持形石棺	古墳・中	5世紀末、TK20 ～TK47			1		文14
400	さくら山2号墳	赤磐市山陽	古墳	不明		内心主体(木棺 ?)	古墳・前						文214
401	便木山道路	赤磐市山陽	墳墓			第26号土坑墓	発生・終						文218
402	四辻1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	18	内心主体(木棺 直葬)	古墳・中		1				文219
403	四辻2号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	9	埴輪埋乱土	古墳・中		1				文219
404	四辻5号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	15	臼主体(削竹 木棺)	古墳・中		1				文219
405	四辻6号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	13	表土	古墳・中		1				文219
406	四辻7号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	154	第1主体(箱形 木棺)除外	古墳・中		1				文219
407	用木1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	31	筒状主体(削竹 形木棺)	古墳・前	前期後葉	1	3			文220
408	用木2号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	22	第1主体	古墳・前		1				文220
409	用木3号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	22	第1主体	古墳・前	前期後葉	1				文220
410	用木4号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	22	第1主体	古墳・前	前期後葉	1				文220
411	用木5号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	15	第1主体	古墳・前		1				文220
412	用木7号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	15.8	中心主体	古墳・前	～中	1				文220
413	用木8号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	22	中心主体(木棺 直葬)	古墳・中		1				文220
414	用木11号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	13	中心主体(粘土 ?)	古墳・中		1				文220
415	用木12号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	16	中心主体	古墳・前		1				文220
416	岩田1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	17	第4主体	古墳・後		1				文221
417	岩田6号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳		楕円式石室	古墳・後	6世紀中葉、 TK106～	1				銀象嵌装大刀1 222
418	岩田14号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	20	楕円式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀前半、TK43～ TK217	8	4			単龍彌頭大刀2・ 双龍彌頭大刀1 222・ 223
419	岩田15号墳	赤磐市御前	古墳	円墳			古墳・後		1				文217
420	赤磐2号墳	赤磐市富	古墳	大丸長方形	23	第1主体部(整 穴式石室)	古墳・後	6世紀後半、 紀前葉	1				文224
421	赤磐2号墳	赤磐市富	古墳	大丸長方形	23	第1主体部(整 穴式石室)	古墳・後	6世紀後半	3				刀は銅1のみ七 文224
422	笠置1号墳	赤磐市笠置	古墳	方墳	14	箱式石棺	古墳		1				文225 伝刀出土
423	中の佐古1号墳	赤磐市佐古	古墳			楕円式石室	古墳・後		1				文225 伝刀出土

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	地形	規模	出土遺物	時期		器種	器種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期細分				
424	原古墳	赤磐市東村部	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		1		文225 伝刀出土	
425	城山古墳	赤磐市東村部	古墳	円墳			古墳		1		文2- 217	
426	前内古墳4号墳	赤磐市可貞下	古墳	方墳	11	主体部	古墳・中	5世紀後半	1		文226	
427	前内古墳群	赤磐市可貞下	古墳			箱式石棺墓?	古墳・後	6世紀前半	1		文226	
428	小丸山古墳	赤磐市市上	古墳	前方後円墳	33	横穴式石室	古墳・後		3		文227	
429	陣本路2号墳	赤磐市市上	古墳	円墳	8	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉～後半 TK10・TK43	1		文228	
430	平野古墳	赤磐市石	古墳	方墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 前半	1		御象巣波圓刀大刀	1 文229
431	名物不明	赤磐市合古	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		2		文2	
432	清瀬塚古墳	真庭市多口	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		1		文287- 230	
433	空山古墳	真庭市下呂瀬	古墳	円墳	11.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀中頃	1		文194	
434	丸山1号墳	真庭市下呂瀬	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文187- 230	
435	桃山1号墳	真庭市下呂瀬	古墳			横穴式石室?	古墳・後	6世紀末～7世紀 前半	1		文231	
436	君上寺(長政)古墳	真庭市上水田	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文230	
437	船中古墳	真庭市上水田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 初頭	1		文187- 230	
438	国重古墳	真庭市上水田	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後		1		文2- 187	
439	山之城1号墳	真庭市名	古墳	円墳	14	箱式石棺	古墳・中	5世紀末 TK47	2	1	文232	
440	山之城8号墳	真庭市名	古墳			豊穴式石室	古墳・終	7世紀	1		文232	
441	土石2号墳	真庭市上中津井	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 後半	2		金銅鏡頭椎大刀 銀鏡頭方刀大刀	文233
442	大木1号墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	22	横穴式石室	古墳・終	7世紀後葉	1		金銅鏡双龍頭圓刀大刀	文234
443	十林古墳	真庭市上中津井	古墳			横穴式石室	古墳・後		2		文235	
444	定西塚古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	16	横穴式石室	古墳・終	7世紀中葉～末	2		铁製方頭大刀1 鐵製方頭大刀1	文236
445	定東塚古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	25	横穴式石室	古墳・終	7世紀前葉～中 葉	4	5	銀鏡主頭?刀1	文236
446	定北古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	25	横穴式石室	古墳・終	7世紀中葉	2		全銅鏡大刀1	文237
447	大雁古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳?		横穴式石室	古墳・後 ～終	6世紀末以降	1		金銅鏡双龍?圓頭大 刀1	文236 圓頭面は不明だが 双龍鏡頭2刀の可能性高い。(文236)
448	赤茂1号墳	真庭市上水田	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭	1		文238	
449	大木1号墳	真庭市营地	古墳	円墳	9	圓底	古墳・中	5世紀後半 TK206		1	文239	
450	大木1号墳	真庭市营地	古墳	円墳	9	埋葬施設(縫形 木棺)	古墳・中	5世紀後半 TK206	2		文239	
451	大木3号墳	真庭市营地	古墳	円墳	11	表土	古墳・中	5世紀後半	1		文239	
452	中川神社裏古墳	真庭市吉呂呂 尾中	古墳	円墳	15		古墳		1		文240 伝刀出土	
453	牛山古墳	真庭市勝山	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1		文240 伝刀出土	
454	牛山古墳	真庭市吉呂呂 尾中	古墳	円墳			古墳・後		1	1	文240 伝刀・棒	
455	牛山古墳(牛 毛1号墳)	真庭市名	古墳	前方後円墳	21	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉 TK10	1	1	刀は鋼1のみ	文3- 241
456	名古東未	真庭市名	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文242 伝刀出土	
457	御船4号墳	真庭市西河内	古墳	円墳	9	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 初頭	1		文243	
458	原屋遺跡	真庭市西河内	集落			No.16住居址	古墳・終	7世紀末?	1		文244 刀は新しい時期の ものか	
459	名古東未	真庭市名	古墳				古墳・後		1		文2	
460	戸岱古墳	真庭市見	古墳	不明		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭	2		文260	
461	名古東未	真庭市東原	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文242 伝刀出土	
462	元1号墳	真庭市内	古墳	円墳	7	圓底	古墳・中	5世紀後半	1		文245	
463	穴谷古墳	真庭市内	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後		1		文246	
464	大木古墳	真庭市吉呂呂	古墳				古墳・後		1		文240 伝刀出土	
465	桶井古墳	真庭市見明戸	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文240- 247	
466	五田1号墳	真庭市本庄	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文240- 247	
467	塔幡寺1号墳	真庭市社	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		1	2	文2- 240- 247	
468	荒田遺跡	真庭市社	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		東博記録で鉄劍3と あるが鉄刀片か	文2- 240- 247
469	大下4号墳	真庭市草加原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文240- 246	
470	小音18号墳	真庭市久世	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文240- 248	
471	若宮古墳	真庭市久世	古墳				古墳		1		文240- 248	
472	羽屋5号墳	真庭市久世	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1		文240- 248	
473	高尾丸山12号墳	真庭市高尾	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		4		双龍頭圓刀大刀	文2- 66
474	多田4号墳	真庭市多田	古墳	円墳	8	横穴式石室	古墳・後	6世紀後葉～7世 紀初頭	2		文240- 248	
475	蛇ノ尾3号墳	真庭市金屋	古墳	円墳	14	木棺直葬	古墳・後	6世紀後葉	2		文240- 248	
476	木谷6号墳	真庭市木目	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀中葉 TK209古・ TK217新	1		文250	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種	器種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期細分				
477	木谷11号墳	真庭市木谷	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209古	5	刀は銘のみ2含む	文250	
478	中原2号墳	真庭市中原	古墳	方墳	9.6	主体部（箱式石棺）墓坑内	古墳・中		1		文250	
479	中原3号墳	真庭市中原	古墳	円墳	16.1	主体部（箱式石棺）	古墳・中		1		文250	
480	中原4号墳	真庭市中原	古墳	方墳	10.8	主室部（箱式石棺）	古墳・中		1		文250	
481	中原9号墳	真庭市中原	古墳	方墳	10	主室部（箱式石棺）	古墳・中		1		文250	
482	中原24号墳	真庭市中原	古墳	方墳	17.5	第1主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀後半、TK208	1		文250	
483	中原25号墳	真庭市中原	古墳	円墳	13.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK209	2	直角製柄1	文250	
484	中原28号墳	真庭市中原	古墳	方墳	8	主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀後半、TK208	1		文250	
485	中原35号墳	真庭市中原	古墳	円墳	6~8	壁面・中	古墳・中		1		文250	
486	中原36号墳	真庭市中原	古墳	方墳	9.5	主体部（箱式石棺）	古墳・中		2	直角製柄1	文250	
487	中原39号墳	真庭市中原	古墳	方墳	6	主体部（箱式石棺）	古墳・中		1	直角製柄1	文250	
488	奥古墳	真庭市空原	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉～中葉	4	銀象嵌淡大刀1	文251	
489	三越2号墳	真庭市三越	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文240、248	
490	美作古墳	真庭市美作	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文252	
491	保ノ古墳	真庭市保	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1	崩瓦のみ1	文253	
492	桜木の古墳	真庭市桜山	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		文254	伝刀出土
493	石道山A-1号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	15	箱式石棺	古墳		1		文254	伝刀出土
494	石道山C-5号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	10		古墳		1		文254	伝刀出土
495	平洋1号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	20	前方後円（帆立貝形）	古墳		1		文254	伝刀出土
496	四つ塚1号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	27	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2	1	直角製柄1	文254、297
497	四つ塚13号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	20	中央主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	3		文254	
498	四つ塚14号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	20	南主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2		文254	
499	四つ塚5号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	25		古墳・後		1		文254	伝刀出土
500	水原1号墳	真庭市音山西	古墳	円墳	7	横穴式石室	古墳・後	6世紀後葉、7世紀前葉～終末	3		文255	
501	大船古墳	真庭市音山西	古墳	円墳			古墳・後		1		文246、255	伝刀出土
502	仲舟古墳	真庭市音山西	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文240	伝大刀出土
503	ひじり塚	美作市宗形	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文256	伝刀出土
504	今岡10号墳	美作市今岡	古墳	方墳	10	主室部（竹刀形木棺）	古墳・中		1	3	文257	
505	穴六号古墳	美作市今岡	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10～MT85	3	銀鍔彫鏡大刀1	文257	
506	前の口2号墳	美作市今岡	古墳	円墳			古墳		1		文258	伝大刀出土
507	今井古墳群	美作市今岡	墳墓			土坑墓3	古墳・中		1		文257	
508	桂井2号墳	美作市今岡	古墳	円墳	13		古墳		1		文258	伝刀出土
509	平井2号墳	美作市今岡	古墳	円墳			古墳		1		文258	伝刀出土
510	川戸1号墳	美作市川戸	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀後葉、TK217	1		文259	伝刀7出土
511	川戸2号墳	美作市川戸	古墳	方墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭、TK209～TK217	5		文259	
512	赤手10号墳	美作市赤手	古墳	円墳	15		古墳		1		文258	伝刀出土
513	大原町川上出土	美作市川上	古墳			箱式石棺	古墳・中		1		文260	遺物整理工事中に出土
514	大原町内出土	美作市大原町内	古墳				古墳		9		文258	旧太原町内出土を一段
515	四つ古墳	美作市今岡	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後		1		文261	伝刀出土
516	御所古墳	美作市今岡	古墳	円墳	8		古墳		1		文261	伝刀出土
517	長原古墳	美作市今岡	古墳	円墳	9		古墳		1		文261	伝刀？出土
518	北山野神古墳	美作市北山	古墳	円墳	11	第1主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1		文262	
519	北山1号墳	美作市北山	古墳	円墳	19.2	第1主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前葉～中葉	2		文263	
520	北山1号墳	美作市北山	古墳	円墳	19.2	第2主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前葉～中葉	1		文263	
521	北山2号墳	美作市北山	古墳	円墳	13	主室部（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉	1		文263	
522	御所屋塚A-3号墳	美作市中尾	古墳	円墳	11.1	主室部（箱形木棺）	古墳・中	5世紀末	1		文264	
523	御所屋塚B-2号墳	美作市中尾	古墳	方墳	8.3	主室部（木棺直葬）	古墳・後	6世紀後葉	1		文264	
524	近上池2号墳	美作市赤手	古墳	円墳	11		古墳		1		文261	伝刀出土
525	山古墳	美作市赤手	古墳	円墳	13.6		古墳		1		文261	伝刀出土
526	橋寺山古墳	美作市赤手	古墳	前方後方	52	斜穴式石室	古墳・前	前期中葉	2	1	文14-262	
527	大原5号墳	美作市今岡	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	7世紀前葉	1		文265	
528	渡寺古墳	美作市今岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		2		文262	
529	外渡山古墳	美作市海田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	7世紀前葉	1		文262	
530	火の蓋古墳	美作市赤手	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文266	伝刀出土

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	地形	規模	出土遺構	時期		器種	器種備考	文獻 番号	備考
							時期	時期細分				
531	中学表1号墳	美作市福本町	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文256。 266	
532	加賀谷4号墳	瀬戸市東光町 見立新田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	伝刀出土
533	向山1号墳	瀬戸市鶴方町 小坂東	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・中	5世紀	1		文177	
534	高辻1号墳	瀬戸市鶴方町 北	古墳	円墳			古墳		1		文147	伝刀出土
535	厚寺古墳	瀬戸市鶴方町 猪崎上	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	7世紀前半～中期 後半	2		文267	
536	宮の脇古墳	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 前半	2		御象巻鏡大刀1・ 金銅鏡大刀1	文268	
537	片山塚1号墳	瀬戸市鶴方町 益坂	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147	
538	上名古吉	瀬戸市鶴方町 本庄	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		1		文147・ 269	伝刀出土
539	下名2号墳	古墳	円墳				古墳	後	1		文147・ 270	伝刀出土
540	城山山頂跡	瀬戸市鶴方町 本庄	墳墓			埋葬施設(木棺)	弥生・終 末	後期末葉	1		文107	
541	箕輪ヶ岡塚古墳	古墳	円墳			箱式石棺	古墳		1		文147	伝刀出土
542	真山止下山原塚	瀬戸市鶴方町 六条町中 古墳	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文147・ 269	伝刀鍔真出土
543	タンゴ山古墳	古墳	円墳	6	箱式石棺	古墳			1		文147	伝刀鍔出土
544	若木上吉	和氣郡和氣町 若木	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後		1		金銅鏡大刀1・柄頭 鏡	文2・ 217
545	膳山古墳	古墳	円墳			横穴式石室	古墳・後		1		文217	伝刀出土
546	金子池1号墳	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後			1		文217	伝刀出土
547	新吉古墳	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後			1		文217	伝刀出土
548	對山4号墳	古墳	円墳			横穴式石室	古墳・後		1		文2・ 217	
549	小塙の古墳	古塚	万塚	8		埴丘外南塚	古墳・終 末	7世紀前葉	1		文272	
550	大吉古墳	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後		3			文2・ 273	
551	王子1号墳	古墳	円墳			横穴式石室	古墳・後		1		文217	伝刀出土
552	天王山古墳	古墳	円墳				古墳		1		文217	伝刀出土
553	川田6号墳	小田原郡御厨町 西川田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文274	伝刀出土
554	西岡谷2号墳	小田原郡御厨町 東川田	古墳	万塚	20		古墳		1		文274	伝刀出土
555	向山古墳	小田原郡御厨町 妻川田	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後		1		文147・ 274	伝刀出土
556	若林3号墳	小田原郡御厨町 失坂	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文274	伝刀出土
557	中山5号墳	小田原郡御厨町 第三成	古墳	円墳			古墳		1		文274	伝大刀出土
558	安医寺谷3号墳	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後			1		文274	伝刀出土
559	中音古墳	古墳	円墳			横穴式石室	古墳・後		1		文240	伝刀出土
560	札鳴道跡	若田原郡野野町 雷山谷	古墳?				古墳	後	1		文275	遺物工事によりか つて遺物出土、古 墳が存在か
561	沼ノ谷1号墳	若田原郡野野町 高富谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀 前半、TK209～ TK207	1	銅のみ	文275	
562	久保原7号墳	若田原郡野野町 久保原	古墳	円墳	10.2	豊穴式石室	古墳・後	9世紀前半～中 葉、MT15～TK10	1		文276	
563	久保原津跡	若田原郡野野町 久保原	集落			豊穴住居30	古墳・終 末	7世紀前半	1		文276	
564	土塁の段古墳	若田原郡野野町 中音	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		文2	
565	御能見1号墳	若田原郡野野町 寝屋谷	古墳	円墳	12.5	箱式石棺	古墳		1		文277	伝刀出土
566	上土原古墳	若田原郡野野町 土原	古墳	円墳	10		古墳		1		文277	伝刀出土
567	土原天王山古墳	若田原郡野野町 天王山	古墳	前方後円墳	27	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、 TK43	2		文277	
568	竹山1号墳	若田原郡野野町 竹山	古墳	円墳	14.8	中央部(軸土壠) 割竹形木棺	古墳・中		1		文277・ 278	
569	八幡山2号墳	若田原郡野野町 竹山	古墳	円墳	21		古墳		1		文277	伝刀出土
570	土原妙見古墳	若田原郡野野町 土原	古墳	前方後円墳	25	A主体(軸土壠 木棺)	古墳・前	前期後葉	2		文277・ 279	他に銅鏡片2 枚あり
571	法明寺古墳	若田原郡野野町 香々美	古墳	円墳	11.8	横穴式石室	古墳・後		1		文277	
572	岡山4号墳	若田原郡野野町 香々美	古墳	円墳			古墳		1		文277	伝刀出土
573	石井谷1号墳	若田原郡野野町 山	古墳	円墳			古墳	後	1		文277	伝刀出土
574	加市1号墳	若田原郡野野町 河田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		東博記録で銅鏡5点 あるが銀刀片か	277
575	皆徳2号墳	若田原郡野野町 河田	古墳	円墳			古墳		1		文277	伝刀出土
576	東花穴1号墳	若田原郡野野町 沙	古墳	万塚	14.5	第一主体部(木 棺直葬)	古墳・前	前期前葉	1		文277	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種			器種備考	文獻番号	備考
							時期	時期別細分	刀	劍	ササギ			
577	東花穴2号墳	笠置郡御野町 沖	古墳	方墳	6.3	第一主体部	古墳・前	前期前葉	1				文277	
578	東花穴4号墳	笠置郡御野町 沖	古墳	方墳	15.2	第一主体部（轄 形木棺）	古墳・前	前期中葉	1				文277	
579	東花穴5号墳	笠置郡御野町 沖	古墳	方墳	7.5	主木棺（木棺遺 跡）	古墳・前	前期前葉	1				文277	
580	南条山古墳	笠置郡御野町 南条	古墳	前方後円墳	43	髠穴式石室？	古墳・前	前期前葉	1				文16- 277	
581	宗姓2号墳	笠置郡御野町 宗姓	古墳	円墳	22		古墳・前		1				文277	伝刀出土
582	大塚古墳	笠置郡御野町 宗姓	古墳	円墳	38	組合式石棺	古墳・前	～中	1				文277	伝刀出土
583	成田2号墳（猿塚古墳）	笠置郡御野町 古川	古墳	円墳	7.7		古墳		2				文277	
584	糸田古墳	笠置郡御野町 糸田	古墳			横穴式石室	古墳・後		2				文277	
585	小池谷1号墳	笠置郡御野町 栗上	古墳	円墳	7	主体部（木棺）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	1				文280	
586	小池谷2号墳	笠置郡御野町 栗上	古墳	円墳	9	第1主体部（木 棺）	古墳・後	6世紀前半、MT15	1				文280	
587	坂田墳墓群	笠置郡御野町 坂田	墳墓			土坑墓53	古墳・中			1			文281	
588	指ノ平1号墳	笠置郡御野町 指月中	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭、TK43- 44	1				文282	
589	指ノ平5号墳	笠置郡御野町 指月中	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世 紀初頭、TK43- 44	1				文282	
590	勝手工業団地内 10号墳	笠置郡御野町 大平台	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世 紀	1				文283	
591	名跡不明	笠置郡御野町 岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	前半	1				文2	
592	名跡不明	笠置郡御野町 岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文2	
593	名跡不明	笠置郡御野町 坂屋	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後		1	1			文2	
594	広園1号墳	笠置郡奈義町 広園	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK43	2				文284	
595	名跡不明	笠置郡奈義町 広園	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				金銅鏡大刀I	開墾時に金銅鏡 大刀が出土
596	壹岐塚古墳	笠置郡奈義町 島原	古墳	方墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世 紀中葉	1				文2- 256	
597	轟古墳	笠置郡奈義町 轟原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
598	壹岐塚古墳	笠置郡奈義町 轟原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文285	伝刀出土
599	名称未定	笠置郡奈義町 轟原	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
600	泊田火の蓋古墳	笠置郡奈義町 泊田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
601	經4号墳	笠置郡奈義町 経原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90- 209	伝刀出土
602	名跡不明	笠置郡奈義町 経原	古墳	円墳	23	横穴式石室	古墳・後		1				文2	召出山古墳群のい ずれか
603	ダイタ2号墳	笠置郡奈義町 火打穴原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
604	保の古墳群	笠置郡奈義町 火打穴原	古墳	円墳		1号墳埴覆土塙 墓	古墳・後	6世紀末～7世 紀	1				文287	保の古墳群の塙 丘外土塙墓
605	是久古墳	笠置郡奈義町 是久	古墳	円墳			古墳・後		1				文90	伝刀出土
606	國生神社4号墳	笠置郡奈義町 国生	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・後	6世紀？	1				文288	
607	名跡未定	笠置郡奈義町 国生	古墳	円墳			古墳・後		1				文90	伝刀出土
608	安井古墳	笠置郡奈義町 安井	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後		1				文288	伝刀出土
609	さんざ古墳	笠置郡奈義町 扇佐	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文288	
610	火の蓋古墳	笠置郡奈義町 火の蓋	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	
611	名称未定	笠置郡奈義町 火の蓋	古墳				古墳		1				文90	伝刀出土
612	丸山古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後		1				文2- 286	伝刀出土
613	西岡古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
614	大庭五郎古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文90	伝刀出土
615	月の輪古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳	60	中央土柱（粘土 棒、羽竹形木棺）	古墳・中	5世紀初	3	13	1	唐角製器具？1	文288	
616	月の輪古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳	60	南北土柱（粘土 棒、羽竹形木棺）	古墳・中	5世紀初	4	3			文288	
617	月の輪古墳	笠置郡奈義町 扇原	古墳	円墳	60	埴跡部	古墳・中	5世紀初	1				文288	
618	下市大塚古墳	笠置郡備中國 下市町曾野	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文289	伝刀出土
619	大山1号墳	笠置郡備中國 大山町曾野	古墳	円墳	15		古墳・後		1				文289	伝刀出土
620	伝岡山県（美作 地方出土）	吉備郡曾野	古墳				古墳・後		1				甜象嵌波彌椎大刀I	文290

表4 岡山県内出土の各種刀剣類

## (1) 素頭彫刀

番号	通跡名	所在地	器種(報告名略・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	王墓西古墳	倉敷市	金銅首主頭様頭彫頭22	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文14・73	金銅製
2	押馬西1号墳	津山市	素頭彫大刀5	主体部(縦形木棺)	古墳・中	5世紀前半	文113	
3	▲山2号墳	津山市	素頭彫大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀中頃	文105	
4	山手3号墳	井原市	素頭彫大刀	横穴式石室	古墳・前	文151		
5	花光寺山古墳	瀬戸内市	素頭彫大刀22	小石室	古墳・前	前期後葉	文2・14・209・210	
6	我城16号墳	瀬戸内市	刀10・茎部11(銀装主頭様頭彫頭大刀)	木棺蓋葬	古墳・中	5世紀後半	文207・208	鉄地銀張
7	金剛塚古墳	瀬戸内市	頭彫頭(銀装主頭様頭彫頭大刀)	横穴系楕口式石室?	古墳・後	6世紀前半	文2・210・211・293	鉄地銀張

## (2) 蛇行剣

番号	通跡名	所在地	器種(報告名略・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	集成番号	備考
1	備武池底古墳	津山市	蛇行剣	不明	吉墳		文131・135	土器工事中に発見

## (3) 鹿角裝

番号	通跡名	所在地	器種(報告名略・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	八幡大後2号墳	岡山市	鉄刀(櫛目素頭彫大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前	文14・52・53・54	振り鎌に鹿角装(文54)
2	勝呂古墳	倉敷市	鉄刀1	横穴式石室	古墳・中	5世紀後半	文106	重角形柄頭
3	勝呂古墳	倉敷市	鉄刀2	横穴式石室	古墳・中	5世紀後半	文106	鹿角形柄頭
4	天狗山古墳(1)	倉敷市	鉄刀1	横穴式石室	古墳・中	5世紀後葉	文2・14・84・85・89・296	鹿角形柄頭(道文張あり)
5	天狗山古墳(2)	倉敷市	鉄刀3	横穴式石室	古墳・中	5世紀後葉	文2・14・84・85・89・296	斜柄鍔鹿角装
6	森山2号墳(1)	津山市	短刀	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉	文105	鹿角装柄頭
7	○山1号墳(2)	津山市	短刀	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉	文105	鹿角装柄頭
8	中原1号墳(1)	津山市	短刀E	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文108	鹿角装柄頭
9	中原1号墳(2)	津山市	短刀A	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文108	鹿角装柄頭
10	のくみ3号墳	津山市	小刀16	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文119	鹿角装柄頭
11	長谷山北古墳	瀬戸内市	鉄刀13	第1室(木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半	文125	鹿角装柄頭
12	野川敷1号墳	新見市	大刀13	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文202	刃~茎部中程に鹿角装の痕跡あり
13	中原25号墳	真庭市	刀25	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文250	鹿角装柄頭
14	中原26号墳	真庭市	鉄劍1	主体部(縦形木棺)	古墳・中	文250	斜柄鍔鹿角装	
15	中原30号墳	真庭市	鉄劍9	主体部(縦形木棺)	古墳・中	文250	斜柄鍔鹿角装	
16	四ノ原1号墳	真庭市	勝角素頭大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文254・297	鹿角形柄頭(道文張あり)
17	津田遺跡	岡山市	勝B8	河道1 北岸	後期後葉~末葉	文33	鹿角の刻柄のみ	
18	月の輪古墳	美咲町	劍1	中央主体(粘土標、削竹形木棺)	古墳・中	5世紀初	文288	斜柄鍔鹿角装

## (4) 象嵌装大刀

番号	通跡名	所在地	器種(報告名略・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	庵王塚古墳	岡山市	大刀34、刀柄標37・40	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文5	鉄、銅灰に銀象嵌
2	西山2号墳	岡山市	刀102・1頭標7504~506	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文24	銅灰に銀象嵌
3	平瀬2号墳	岡山市	大刀1・2	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前葉	文37	銅灰に銀象嵌
4	森山1号墳	津山市	大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前葉	文106	銅、銅柄に銀象嵌
5	柳谷古墳	津山市	彌椎大刀柄頭30、鞘尾金具31	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀初頭	文128	彌椎柄頭、銅灰に銀象嵌
6	万葉山古墳	津山市	直刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前半	文14・138・296	銅象嵌
7	稚山大2号墳	紹和市	大刀	横穴式石室室外	古墳・後	6世紀後葉	文160	銅象嵌
8	紹和17号墳	紹和市	大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉	文157	方頭柄頭、銅に銀象嵌
9	道上古墳(1)	新見市	大刀50・貴金具58	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文201・301	銅、柄頭に銀象嵌
10	道上古墳(2)	新見市	大刀51	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文201	銅、間に銀象嵌
11	岩野8号墳	赤磐市	劍1、鞘金具2	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文221・222	銅に銀象嵌
12	平瀬古墳	赤磐市	柄頭M1・柄頭M2・刀M3	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀前半	文229	柄灰に銀象嵌
13	庵谷古墳	真庭市	大刀32	横穴式石室	古墳・終葉	7世紀前葉~中葉	文251	銅に銀象嵌
14	川P2号墳	美作市	鉄4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀前半	文259	銅に銀象嵌
15	宮の脇古墳	淡路市	大刀1	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀第1葉	文268	銅、間に銀象嵌
16	伝向山県(美作地方出土)	赤磐市	頭椎柄頭	不明	古墳・後	文290	頭椎柄頭に銀象嵌	

## (5) 単龍・單鳳頭彫刀

番号	通跡名	所在地	器種(報告名略・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	薪大塚古墳	倉敷市	單鳳頭彫大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文2・14・83	
2	薪大塚古墳	倉敷市	單鳳頭彫大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文2・14・83	
3	薪大塚古墳	倉敷市	單鳳頭彫大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文2・14・83	
4	こうもり塚古墳	紹和市	頭椎大刀1(單鳳頭彫大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前半	文14・154・155・176・291	
5	若田14号墳	赤磐市	頭椎1・刀2(單鳳頭彫大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前半	文221・223	
6	若田14号墳	赤磐市	頭椎2(單鳳頭彫大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前半	文221・223	

## (6) 双龍環頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	天神原1号墳	津山市	双龍環頭大刀39-a・39-b	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文116	
2	坦内1号墳	新見市	双龍環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後		文195	
3	大曾1号墳	新見市	双龍環頭大刀	横穴式石室	古墳・終末	7世紀後葉	文234	
4	大曾古墳	真庭市	大刀片1-4、闘金(金銅製双龍?) （双龍環頭大刀）	横穴式石室	古墳・後	6世紀末以降	文236	環頭部は不明だが双龍環頭の可能性高い。(文236)
5	宮廣丸山12号墳	真庭市	双龍環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後		文2・66	

## (7) 三葉環頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	津尾郡那村神力山出土	岡山市	三葉環頭大刀	不明	古墳・後		文2・66	

## (8) 円頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	王墓山赤井南3号墳	倉敷市	柄頭(金銅製円頭?大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文73	
2	平岩古墳	赤磐市	柄頭M1・鶴尻M2・M3(銀製表装柄頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	文229	
3	穴がぬ古墳	美作市	銀製円頭大刀M1	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文257	

## (9) 方頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	大鬼島遺跡	笠岡市	刀鉄具(柄頭)1-④(方頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	平安	文14・149・150	
2	疊山17号墳	赤穂市	大刀・銀象嵌表装方頭大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	文157	
3	円通2号墳	新見市	刀I	横穴式石室	古墳・後		文196・197	
4	定西塚古墳(1)	真庭市	鉄製方頭大刀I	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉～末	文236	
5	定西塚古墳(2)	真庭市	足金10.9、鶴尻全貝10、黄金具柄 の全貝11～13(柄頭方頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉～末	文236	

## (10) 圓頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	龍王塚古墳	岡山市	大刀35.、刀柄頭38・39(金銅製表装 圓頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文5	
2	青治5号墳	岡山市	足金1.1・黃金具2～4・鶴尻孔金 貝5(金銅製圓頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文23	
3	上瀬野郡財田出土	岡山市	主頭銀K	不明	古墳・後		文61	
4	琴海1号墳	倉敷市	柄頭66.、銀通孔金具1.1、金具67. 柄頭大刀I	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	文77	
5	三坂古墳	新見市	金銅製表装圓頭大刀I	横穴式石室?	古墳・後		文199	
6	土井2号墳	真庭市	刀I(銀製主頭? 7?)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀後半	文233・236	柄頭不明だが主頭の可能性あり(文236)
7	定要庵古墳	真庭市	大刀I・足金1.1、黃金具5～13. 銅20.、銅1.、鶴尻金具24(金銅製 圓頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉～中葉	文236	柄頭不明だが主頭の可能性あり(文236)
8	外波道古墳	美作市	主頭銀I・切羽2・羽羽絞金具3. 柄元金具4・六窓銅5・鶴6(金銅 製圓頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉	文262	

## (11) 頭椎大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	二常大古墳	津山市	足金4.4、鶴尻金具62(金銅製頭椎 大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	文100・101	柄頭は出土していないが頭の特徴 から頭椎大刀と推定(文101)
2	柳原古墳	津山市	頭椎大刀柄頭30.、鶴尻金具31(銀 製表装頭椎大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭	文128	
3	土2号墳	真庭市	金銅製頭椎大刀II	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀後半	文233	
4	伝岡山県(美作方 出土)	赤磐市	頭椎柄頭	不明	古墳・後		文290	

## (12) 摺り環頭大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	八幡大塚2号墳	岡山市	铁刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前葉	文14・52・53・54	
2	金子石瓶塚古墳	赤磐市	太刀一把頭飾I/4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文54・154	
3	三輪山6号墳 (勝山3号墳)	赤磐市	御製品3	蟹穴系横口式石室	古墳・後	6世紀前半	文14・154・155・ 174	
4	岩田14号墳	赤磐市	刀I	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文221・223	

## (13) その他の装飾付大刀

番号	通跡名	所在地	器種 (報告名略・番号)	出土通鑑	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	上瀬野郡財田出土	岡山市	遺物大刀柄頭	不明	古墳・後		文2・44・62	類別不明の歴史? 頭椎大刀柄頭

表5 文献一覧

番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名	番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名
文1	岡山県教育委員会	2003	改訂 岡山県道地図(第6分冊 岡山地区)	文51	謙木義昌	1968	備前高島道跡について(「サヌカイト」新刊号)
文2	本村春章	1981	古墳時代の基礎研究稿一資料篇(1)~「東京国立博物館記録」第16号	文52	小林貴重・野崎貴博・田中利美	1997	岡山市八幡大塚2号墳の再検討(「古代吉備」第19集)
文3	近藤泰部編	1991	前方後円墳集成、中国・四国編	文53	岡山県立博物館	2006	吉備の渡来文化~通り来た人々と文化~
文4	岡山県教育委員会	1991	岡山県埋蔵文化財報告書21	文54	高松博文	2006	「廢り鋼劍大刀」古墳時代後期の政治的動向(「西川市勝羅古墳遺跡・郷ノ満遺跡」、古田道跡・唐無堂遺跡・川上遺跡・中津川遺跡・山陽岡山埋蔵文化財発掘調査報告18)
文5	岡山県教育委員会	1984	「難波古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告58	文55	岡山県教育委員会	2004	「難波古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告64
文6	岡山県教育委員会	1968	「城ヶ原古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告66	文56	岡山県教育委員会	2016	岡山市埋蔵文化財センター年報』15
文7	岡山県教育委員会	2014	「高庭(弓場)・南庭道跡」	文57	岡山県教育委員会	2009	「奈良古墳群」(「さる城跡」)
文8	岡山市教育委員会	2019	岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第11号	文58	岡山県教育委員会	2008	「難波古墳」(「難波古墳」)
文9	岡山県教育委員会	1998	「すぐり山道跡」	文59	岡山県教育委員会	2006	「奈良古墳」(「一宮山墳群」)
文10	岡山市教育委員会	1999	「長谷古墳」	文60	岡山県教育委員会	1973	岡山県埋蔵文化財報告3
文11	小郷利幸ほか	1990	「岡山市足守地域の堆積史的研究(1)」「古代吉備」第12集	文61	神林津洋	1939	「金銅鍔大刀と金銅柄炳鏡」(考古学雑誌)第29巻4号
文12	小郷利幸ほか	1994	「岡山市足守地域の堆積史的研究(2)」「古代吉備」第16集	文62	新谷武夫	1977	「鐵状柄炳鏡研究序説」「古事記第一~慶祝松寿君和先生六十歳記念論文集」
文13	西川宏	1964	「岡山県吉備郡佐古室山古墳群(第1次調査)」(日本考古学年報)12	文63	御手洗教育委員会	1976	「若井山古墳群」
文14	岡山県史編纂委員会	1968	『岡山県史』第18巻 考古資料	文64	岡山県教育委員会	1993	「みそのお道跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告87
文15	岡山県教育委員会	2000	『造山第2号古墳付千足吉吉出土遺物』	文65	建部町	1995	『建部町史』通史編
文16	梅原信治	1938	近畿地方古墳墓の調査三	文66	淡川耕作・梅原信治	1923	「奈江國久居郡志水村の古墳 竹符 日本發見金製耳飾」(京都帝國大學考古學研究會第8集)
文17	岡山県教育委員会	2015	「千足吉古墳I~第4次発掘調査報告書」	文67	岡山県教育委員会	1993	『岡山県埋蔵文化財報告』23
文18	岡山県教育委員会	1999	『加茂古墳道跡・足守原古墳古跡・立石道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138	文68	農業土木史編纂委員会	1985	『農場町史』
文19	岡山県教育委員会	1995	『足守川・高島A・通路』足守川・高島A・通路・足守川・矢留南向山古墳	文69	鶴見町史編纂委員会	1985	『鶴見町史』
文20	岡山県教育委員会	1998	『御津古墳群』(前古墳・後古墳・後方古墳跡・黒雲・寒山道跡・南雲天神山道跡)岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89	文70	倉敷市史研究会	1996	『新修倉敷市史』第一卷 考古
文21	岡山市教育委員会	2010	『吉備津杉尾山道跡・吉備津奥田道跡』	文71	岡山県教育委員会	1993	『矢留古墳群A・矢留古墳跡B・矢留大坂道跡・矢留奥田道跡・矢留或越道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88
文22	岡山県史編纂委員会	1991	『岡山県史』第2巻 原始・古代 I	文72	近藤義郎編	1992	『縄築你生・埴丘墓の研究』
文23	岡山県教育委員会	1956	『田益古墳道跡・青谷5号墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告112	文73	鶴見忠三・間賀舜之	1974	『王墓山古墳群』(考古学研究叢書集報)第10号
文24	岡山県教育委員会	1996	『田益古墳道跡・西山西古墳群』	文74	鶴見忠三・間賀舜之	1988	『鳥山道跡・西光坊道跡・沢口道跡・浦口道跡・唐津池北古墳』
文25	上野祐	2014	『岡山市西山3号出土土器群の調査状況復元』『文化財調査報告』第6号	文75	教歴遺藏文化財センター	1998	『河戸7号墳』(倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第7集)
文26	岡山市教育委員会	2020	『津高田跡道跡群~古墳・生産道跡~』	文76	鶴見忠三・間賀舜之	1979	『金浜古墳』(倉敷考古学研究集報)第14号
文27	近藤義郎編	1967	『岡山市七つ枝古墳群』	文77	岡山県教育委員会	1980	『曾原・早瀬1号墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告36
文28	森義雄・春成秀樹	1967	『埴輪の起源』(考古学研究)第13巻第3号	文78	多賀城遺跡文化財センター	2011	『正江・高須・山田・高須・山田・高須』(倉敷市遺跡文化財発掘調査報告第14集)
文29	岡山大学考古学研究室	2020	『津貢古墳』	文79	杉山和通	2009	『二ニチア斜面に開ける一窓室』(韓國山埋蔵文化財調査研究会)第15号(財)『岡山県埋蔵文化財調査研究会』
文30	岡山市史編纂委員会	1962	『岡山市史』古代編	文80	岡山県教育委員会	2022	『南山城跡・南山明治吉古墳・南山明治道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12
文31	佐藤義郎	1961	『岡山市太麻里古墳』(日本考古学年報)7	文81	岡山県教育委員会	2003	『正江・高須2号墳』(岡山県道地図(第5分冊 倉敷地区))
文32	近藤義郎	1968	『平瀬・島根の宿(おつか)』と称する前方後円墳について(『岡山県道地図』)第10集	文82	倉敷市教育委員会	2015	『倉敷市道跡群』(真備・船橋地区)
文33	岡山県教育委員会	2003	『津島古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告173	文83	備前町教育委員会	1984	『新田大坂古墳』
文34	岡山県教育委員会	2006	『津島古墳群2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告174	文84	鶴見・山田編	1979	『新田町史』
文35	岡山市教育委員会	2011	『津島古墳』(船岡・南神社古墳)道跡	文85	真備町教育委員会	1996	『真備町の文化財』
文36	岡山県教育委員会	2007	『神宮寺古墳群・網干瀬山古墳』	文86	岡山大学考古学研究室	2010	『二万大坂古墳』
文37	岡山県教育委員会	1993	『平瀬古墳群・常陸西古墳・白壁古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12	文87	高畠賛太	1990	『古墳副葬鉄鋌の性格』(考古学研究)第45巻第1号
文38	岡山県教育委員会	1990	『岡山縣道跡群』	文88	岡山大学考古学研究室	2009	『真備古墳・調查概報』
文39	岡山県教育委員会	1999	『原尾島古跡』(藤原水原3丁目地区)岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12	文89	岡山市立考古学研究室	2014	『天狗山古墳』
文40	岡山県教育委員会	1994	『平瀬川・津島古墳道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88	文90	岡山市立考古学研究室	2003	『改訂 岡山県道地図(第7分冊 津山地区)』
文41	岡山県教育委員会	1995	『平瀬川・津島古墳道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告123	文91	津山市教育委員会	1986	『寺田木場』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第22集)
文42	岡山県教育委員会	2018	『岡山市埋蔵文化財センター年報』17	文92	津山市教育委員会	1983	『津山古墳群』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第13集)
文43	近藤義郎編	1999	『岡山市湯瀬茶臼山古墳』	文93	津山市立考古学研究室	1998	『津山市弥生の里』第5号
文44	謙木義昌	1964	『岡山の古墳』砲文庫4	文94	津山市史編さん委員会	1972	『津山市史』第一春原始・古代
文45	岡山県教育委員会	1996	『高下道跡・浅川古墳道跡』(「吉備古墳・根岸古墳・岡山県埋蔵文化財発掘調査報告123」)	文95	津山市教育委員会	1975	『津山市文化財年報1』
文46	岡山県教育委員会	1997	『寺古山古墳・日吉山城出丸跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告18	文96	津山市教育委員会	2000	『由良丸山古墳・日吉丸山古墳』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告6集)
文47	岡山県教育委員会	1983	『天神古墳・常陸道跡・星屋敷古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告53	文97	津山市教育委員会	1997	『有本道跡・舟入橋跡・上浦戸戸道跡』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第5集)
文48	西谷真治・謙木義昌	1959	『金糞山古墳』(考古学研究報告第1冊)	文98	津山市教育委員会	1994	『大間古墳跡・大間道跡』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第5集)
文49	岡山県教育委員会	2019	『金糞山古墳・前川跡』(考古学研究報告第1冊)	文99	津山市教育委員会	1994	『中国紀元自動車車両建設に伴う発掘調査』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告)
文50	岡山県教育委員会	1978	『岡山市文化財保護年報(昭和40年度~昭和52年度)』	文100	岡山県教育委員会	1973	『岡山県埋蔵文化財発掘調査』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告)

書名	執筆者・編集機関	刊行年	文 獻 名	書名	執筆者・編集機関	刊行年	文 獻 名
文101 壱島博政	2016	『岡山県北部における古墳時代から古代への転換』(『東灘山考古学研究会論文集第2号』)	文151 岡原市史編纂委員会	2009	『井原市史1』自然風土・考古・古代・中世・近世遺史編		
文102 岡山県教育委員会	1977	『下道山古墳跡発掘調査報告』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告17	文152 岡原市教育委員会	2003	『東大谷1号墳』井原市埋蔵文化財発掘調査報告1		
文103 村上恭通	1999	『銅製武器副葬品の成立とその背景―三輪・三国時代と前後円墳成層墓を対象として―』(『先史学・考古学論叢』白木原先生名古屋記念館呈説文集) 鶴見考古会	文153 芳井町教育委員会	1982	『芳井の文化財』第1集		
文104 宇佐區雅	2011	『西山古墳』(講座日本の考古学8 古墳時代(上))青木一郎	文154 脇社市史編纂委員会	1987	『脇社市史』考古資料編		
文105 岡山県教育委員会	2003	『脇舟古墳跡 奈山古墳跡・桑山古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告26	文155 脇社市史編纂さんし委員会	1998	『脇社市史』通史編		
文106 岡山県教育委員会	2002	『桑山古墳群 横谷古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告25	文156 岡山県教育委員会	1997	『西田古墳群・金里古墳群・奥・谷古墳群・中山古墳群・西山古墳群・西山古墳群・船越古墳・北溝牛古墳・保木古墳・西山古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12		
文107 岡山県教育委員会	2022	『城殿山古墳・和田谷道跡 マキヤサ道跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告256	文157 脇社市教育委員会	1984	『緑山17号墳・すばら池古墳・山津山古墳・清水丸古墳』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告1)		
文108 追跡西山古墳	1952	『佐佐木古墳群の研究』第1冊	文158 脇社市教育委員会	1993	『すばら池古墳群』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告13) (平成元年度)		
文109 津市市教育委員会	1992	『門の古墳群』津市埋蔵文化財発掘調査報告第46集	文159 脇社市教育委員会	1997	『すばら池南古墳群』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告14) (平成元年度)		
カキ谷古墳群1号墳	1987	『カキ谷古墳群1号墳』	文160 脇社市教育委員会	1994	『脇社市埋蔵文化財調査年4』		
文110 号墳西山古墳文化財発掘調査報告			文161 脇社市教育委員会	1999	『奥坂古墳群』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告15)		
文111 今井井・源氏・河内通	1968	『美作津市浴六号古墳調査報告』(『古代合備』)第6集	文162 脇社市教育委員会	1965	『神原古墳』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告1)		
文112 津市市教育委員会	1962	『津市古文化財調査報告3』	文163 脇社市教育委員会	1972	『脇社市西山古墳群』(脇社市埋蔵文化財調査報告1)		
文113 岡山県教育委員会	1973	『中国範野自動車道建設に伴う発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告3	文164 佐藤義郎・北條万隆	1987	『緑山古墳群』		
文114 津市市教育委員会	2003	『桜本塚古墳群』津市埋蔵文化財発掘調査報告第73集	文165 脇社市教育委員会	1987	『法蓮40号墳』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告4)		
文115 津市中央の里文化センター	1999	『年報津市生まれの里』第2号	文166 脇社市教育委員会	1999	『法蓮40号墳』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告4)		
文116 行田義久・保田義治	1988	『鳥山市大神原1号墳』とくに金鏡後醍醐天皇大刀と共に(『古墳遺跡について』) (『古代吉備』)第11集	文167 脇山県教育委員会	1995	『宝木妻跡跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86		
文117 津市市教育委員会	1994	『井口東山古墳』津市埋蔵文化財発掘調査報告第2集	文168 脇社市教育委員会	1995	『脇社市埋蔵文化財調査年4』		
文118 津市市教育委員会	1992	『近矢古墳群』津市埋蔵文化財発掘調査報告第41集	文169 脇社市教育委員会	1991	『藤原北山古墳群』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告11)		
文119 津市市教育委員会	2001	『(傍古墳群)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第70集	文170 脇社市教育委員会	1996	『水鳥橋古墳』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告9)		
文120 津市市教育委員会	2007	『日上(傍古墳群)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第78集	文171 脇社市教育委員会	1996	『脇社市埋蔵文化財調査年6』		
文121 津市市教育委員会	1997	『日上(天王山古墳)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第80集	文172 脇社市教育委員会	2011	『牛宿古墳群』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告26)		
文122 今井義	1970	『日上(欽古墳群)』津市の文化財』津市市教育委員会	文173 佐藤寅介	2000	『(傍古墳群)』(16件傍代式銅器文化の様相) (『埋蔵戸内永久の古墳』) 下		
文123 津市市教育委員会	1981	『(上古と吉備)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第9集	文174 西川宏	1963	『井中三輪山8号墳』(『古代吉備』)第5集		
文124 津市市教育委員会	1994	『河辺古墳跡』津市埋蔵文化財発掘調査報告第54集	文175 津山市教育委員会	1982	『山古墳跡』(脇山古墳群) 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告47		
文125 津市市教育委員会	1998	『長萩山古北古墳群』津市埋蔵文化財発掘調査報告第45集	文176 津山市教育委員会	1979	『井中こうもり塚古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告5		
文126 津市市教育委員会	1996	『長萩山11号墳』津市埋蔵文化財発掘調査報告第57集	文177 関暨忠彦	1968	『岡山縣の入骨6出土した小古墳六例』(『食考古古研究報』) 第9号		
文127 津市市教育委員会	1993	『(大畠清津)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第47集	文178 脇社市教育委員会	2018	『(谷谷道跡)』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告28)		
文128 津市市教育委員会	1988	『柳谷古墳』津市埋蔵文化財発掘調査報告第24集	文179 脇社市教育委員会	2010	『(法蓮古墳跡)』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告21)		
文129 津市市教育委員会	1992	『(貫束東通)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第43集	文180 佐藤20号古墳	2005	『(法蓮古墳跡)』(脇社市埋蔵文化財発掘調査報告20)		
文130 津市市教育委員会	1989	『(兼山古墳群)』津市埋蔵文化財発掘調査報告第27集	文181 山手村史料刊行委員会	2003	『(手村古墳)』史料編		
文131 久米山史編纂委員会	1984	『久米町史』上巻	文182 山手村史料刊行委員会	2004	『(手村古墳)』本編		
文132 久米山史編纂委員会	1979	『(兼山古墳群)』(『兼山古墳群』)	文183 井田信雄	2002	『宿寺山古墳の研究(1)』(『瀧戸戸内海の考古学』) 下		
文133 久米山史編纂委員会	1979	『(久米町)』	文184 小野一郎・間瀬忠志	1977	『(岡山県備後風土記講義2号出土の土器)』(『食考古古研究報』) 第13号		
文134 久米山史編纂委員会	1973	『久米町の文化財』	文185 脇社市教育委員会	2016	『(脇社市埋蔵文化財調査年25)』		
文135 久米山史編纂委員会	1980	『(郡山古墳群)』古墳・埴輪墓	文186 脇社市教育委員会	1980	『(清音古墳)』		
文136 林健次郎・津田秀実	2000	『美作の首塚・埴谷丘塚調査報告』	文187 脇社市教育委員会	2003	『(岡山県備後風土記講義2号出土の土器)』(『食考古古研究報』) 第13号		
文137 岡山県教育委員会	1974	『(岡山県埋蔵文化財報告)』4	文188 脇社市教育委員会	1979	『(高梁市)』		
文138 加茂川古墳文化財保護委員会	1973	『(万燈山古墳)』	文189 高梁市教育委員会	1981	『(赤羽根古墳群)』高梁市埋蔵文化財発掘調査報告!		
文139 岡山県教育委員会	1996	『室尾石古谷口古塚ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告133	文190 岡山県教育委員会	1981	『(赤羽根古墳群)』高梁市埋蔵文化財発掘調査報告!		
文140 岡山市史編纂委員会	1991	『(北町)』	文191 岡山県教育委員会	1981	『(岡山県埋蔵文化財報告)』11		
文141 岡山市史編纂委員会	2000	『(西村古墳群)』(『岡山市埋蔵文化財発掘調査報告1』)	文192 岡山県教育委員会	2003	『(上町)』(『岡山市史』) 通史編		
文142 岡山県史跡緊急保護委員会	1998	『(出城灰出・2号塚)』	文193 岡山県教育委員会	1977	『(改訂)岡山県備後地区』(第3分冊 高梁地区)		
文143 玉野市史編纂委員会	1970	『(玉野市史)』	文194 岡山県教育委員会	1976	『(中国範野自動車道建設に伴う発掘調査)』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告11		
文144 永山岬三郎	1930	『(岡山県通史)』	文195 井田博・三宅博士	1989	『(新見市立石室在所の古墳から出土した双鏡鍔頭刀)』(『食考古古研究報』) 第1集		
文145 開闢忠彦	1973	『(並岡市立弓場山古墳)』(『食考古古研究集録』)第8号	文196 新見市史編纂委員会	1990	『(新見市史)』史料編		
文146 岡山市史編纂委員会	1983	『(並岡市)』第1巻	文197 新見市史編纂委員会	1999	『(新見市史)』通史編		
文147 岡山県教育委員会	2000	『(改訂)岡山県備後地区』(第4分冊 并芝地区)	文198 大佐町教育委員会	1978	『(内宮寺古墳)』		
文148 謙木義典・開闢忠彦	1965	『(長福寺古谷古墳群)』	文199 岡山県教育委員会	1978	『(高梁市)』(『岡山県埋蔵文化財報告』) 8		
文149 岡山市史編纂委員会	2010	『(大崩の古谷と州)』	文200 岡山県教育委員会	1977	『(中国範野自動車道建設に伴う発掘調査)』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告22		
文150 壱島博政	2014	『(方頭大刀の生産と古代国家)』(『考古学雑誌』)第98巻 第3号					

書名	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名	書名	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名
文201 間山県教育委員会 1976	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査13〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23	文253 近畿西部編	1999 [美作・源ヶ吉古墳]				
文202 岡山県教育委員会 1977	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査11〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告21	文254 近畿東部編	1954 [岡山平原...その考古学的調査第一回] 岡山大学医学部第三附属病院教室人跡考古研究室研究会編著第2冊				
文203 岡山県教育委員会 1977	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査10〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告20	文255 間山県教育委員会 1998	水別古墳群・水別遺跡 [岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23]				
文204 牛窓町教育委員会 2002	〔牛窓町古墳図〕	文256 間山県教育委員会 2003	[改訂] 岡山県道跡地図 (第6分冊 蒜頭地区)				
文205 長浜町教育委員会 1977	〔長浜村誌 編纂〕	文257 間山県教育委員会 2008	中津川跡・穴の道跡・穴の古墳・今津口遺跡・今津川古墳跡・高須路跡・岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23				
文206 牛窓町文庫編纂委員会 1997	〔牛窓町史〕資料編Ⅱ 考古・古代・中世・近世	文258 大原町文庫編纂委員会 2005	[大原町史] 資料編 (上) 考古				
文207 近藤義郎 1969	〔備前邑邑城町找谷山号跡〕『古代古墳』第6集	文259 大原町文庫編纂委員会 1995	[川口古墳群発掘調査報告書]				
文208 久松義郎文庫編纂委員会 2006	〔久松町史〕考古編	文260 間山県教育委員会 1987	[桑原遺跡ほか] 佐伯貝塚ほか・美土路遺跡ほか [岡山県埋蔵文化財発掘調査報告64]				
文209 梅原末治 1923	〔近畿地方古墳群の調査〕二	文261 美作町教育委員会 2004	[美作町古跡地図]				
文210 長浜町文庫編纂委員会 1998	〔長浜町史〕資料編 (上)	文262 美作町文庫編纂委員会 2006	[美作町史] 資料編Ⅰ				
文211 平井勝・宇垣匡雅 1996	〔岡山県長浜町龜原所所在の前方後円墳〕『古代古墳』第12集	文263 間山県教育委員会 1973	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査2〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告4				
文212 梅原末治 1957	〔岡山県の古墳調査記録〕(二)『瀬戸内海研究』9・10号	文264 間山県教育委員会 2016	大河内遺跡・瀬戸跡・小谷道跡・小池谷古墳・小竹田跡・高須路跡・穴の道跡・穴の古墳群・鶴原遺跡・瀬戸跡・笠置古墳群 [岡山県埋蔵文化財発掘調査報告24]				
文213 岡山県教育委員会 2008	〔8万古墳群〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告218	文265 美作町教育委員会 2002	大塚五号墳 [美作町埋蔵文化財調査報告1集]				
文214 山陽町教育委員会 1973	〔山陽町の原始・古代〕	文266 美作町文庫編纂委員会 1996	[美作町史]				
文215 岡山県教育委員会 1972	〔岡山県の古墳〕	文267 間山県教育委員会 1999	道面遺跡・保原古墳 [岡山県埋蔵文化財発掘調査報告14]				
文216 山陽町教育委員会 1988	〔古事記・古4号墳〕	文268 間山県教育委員会 1983	山陽町白鳥道跡建設に伴う発掘調査2 [岡山県埋蔵文化財発掘調査報告2]				
文217 岡山県教育委員会 2003	〔改訂〕岡山県道跡地図 (第9分冊 東備地区)	文269 美作町文庫編纂委員会 1990	[美作町史]				
文218 山陽町教育委員会 1971	〔便木山遺跡発掘調査報告〕『岡山県古墳新出土市街地開発事業用に内埋蔵文化財発掘調査報告(山川)』(2)	文270 岩方町教育委員会 1988	[岩方町の埋蔵文化財]				
文219 山陽町教育委員会 1973	〔西岡山遺跡発掘調査報告〕『岡山県古墳新出土市街地開発事業用に内埋蔵文化財発掘調査報告(3)』	文271 壱岐島 2010 [鉄製武器の流通と初期国家形成] 研究報告					
文220 山陽町教育委員会 1978	〔丹生古墳群〕『岡山県山陽新庄市街地開発事業用に内埋蔵文化財発掘調査報告(1)』	文272 岡山県教育委員会 2011 [一本木道跡・小深の谷古墳・字星道跡・宇屋古墳・田畠通路] 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告229					
文221 山陽町教育委員会 1979	〔若田古墳群〕『岡山県山陽新庄市街地開発事業用に内埋蔵文化財発掘調査報告(6)』	文273 和気町 1968 [和気の歴史]					
文222 有賀祐史 2002	〔岡山県における新石器について--赤磐市若田古墳出土鉄石板銘文の保存管理について--〕古石古墳第31集	文274 古市町文庫編纂委員会 1982 [古市町史] 史料編					
文223 大谷晃二 2014	〔古市古墳と、春日古墳と〕『古市古墳群・山陽古墳群・奈良古墳群・春日古墳群』	文275 富村史編纂委員会 1989 [富村史]					
文224 岡山県教育委員会 1998	〔松尾古墳群・春日古墳群・馬屋道跡ほか〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告99	文276 岩山市教育委員会 2004 [久田通路・久田古墳群] 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告184					
文225 岩手町教育委員会 1984	〔赤坂町跡〕	文277 駿野町文庫編纂委員会 2000 [駿野町史] 考古資料編					
文226 岡山県教育委員会 1976	〔前内・泊原跡・前内・赤古墳群・佐古道跡〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告174	文278 駿野町教育委員会 1984 [竹田古墳群]					
文227 鶴山町文庫編纂委員会 1991	〔鶴山町史〕遺史編 上巻	文279 土居徹 1966 [美作銀山町土居妙見山古墳]『古代古墳』第6集					
文228 鶴山町教育委員会 2010	〔猪子跡・猪子跡・山陽山埋蔵文化財発掘調査報告225〕	文280 鶴之町教育委員会 2010 [小治原道跡・小谷古墳群] 鶴之町文化財調査報告10					
文229 岡山県教育委員会 2006	〔先光古墳・光光古墳・立溝古墳・立溝道跡・平岩古墳〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告199	文281 鶴山町教育委員会 2006 [河原足跡・坂下通路・平岩古墳] 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告19					
文230 北原町文庫編纂委員会 1992	〔北原町史〕過史編上	文282 鶴山町教育委員会 1996 [西大尻古墳群・椎ノ古墳群・栗子中土墓・鬼尾山道跡・芦原古墳・夷平古墳] 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告111					
文231 岡山県教育委員会 1976	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12	文283 鳥取市教育委員会 1976 [鶴山中央工場跡地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査相付]					
文232 北原町教育委員会 1987	〔山之城古墳群〕北原町埋蔵文化財発掘調査報告6	文284 鶴之町教育委員会 1984 [岡・城が筑古墳発掘調査報告書]					
文233 岡山県教育委員会 1978	〔土井2号古墳〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告29	文285 久米田町史編纂委員会 1983 [久米南町誌]					
文234 北原町教育委員会 1998	〔大谷一号墳〕北原町埋蔵文化財発掘調査報告7	文286 本庄市史編纂委員会 2010 [中央町誌] 地区歴編					
文235 岡山県教育委員会 1977	〔岡山県埋蔵文化財報告7〕	文287 中央山の原の平・埴溝道跡・古墳古墳 1992 [環の古墳群]					
文236 岡山大学考古学研究室 2001	〔定東塚・西塚古墳〕	文288 近畿東部編 1968 [月の輪古墳]					
文237 岡山大学考古学研究室 1995	〔定北古墳〕	文289 対馬町教育委員会 1972 [対馬町史]					
文238 北原町教育委員会 1986	〔伏宗道跡・赤地区〕北原町埋蔵文化財発掘調査報告4	文290 対馬市史編纂委員会 1987 [古墳時代の象徴]『考古学叢書』第72巻第1号					
文239 岡山県教育委員会 1996	〔岡山県埋蔵文化財報告書〕	文291 大木原道跡・大木原古墳・稻田山城跡・大村山城跡 1987 [古墳時代の土器]『考古学叢書』第49号					
文240 岡山県教育委員会 2003	〔改訂〕岡山県道跡地図 (第29番) 真庭地区	文292 ライアン・ジョセフ 2010 [古墳時代の土器--いわゆる7形鉢の生産と流通の二相--古墳時代の土器]『日本考古学』第49号					
文241 堺合町教育委員会 1989	〔神毛1号準調査報告書〕ムスヒ山高塚調査報告書	文293 全宝大 2017 [金工品から見る鉄製武器の変遷]『考古学叢書』第88巻第2号					
文242 堺合町教育委員会 1998	〔落合町埋蔵文化財分布地図〕	文294 留島島主 2004 [留島島主]					
文243 堺合町教育委員会 1998	〔西河内上道跡〕	文295 ライアン・ジョセフ 2020 [鉄製武器からみた奈良古墳]『奈良古墳』					
文244 岡山県教育委員会 1977	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査8〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告14	文296 留島島主 2020 [新修津市史 史料編「考古」]					
文245 岡山県教育委員会 1998	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査9〕	文297 実永雅道 1941 [日本上代の武器]					
文246 岡山県教育委員会 1975	〔中国歴史自動車道建設に伴う発掘調査5〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告8	文298 吉政寺・中原さん塚 岐阜県史編纂委員会 2020 [中央町誌] 資料編					
文247 鹿原町史 1953	〔鹿原町史〕前編	文299 京国立博物館 2013 [東京国立博物館所蔵・舟角刀目切刀鉄頭刀身]					
文248 久留町教育委員会 1989	〔久留町埋蔵文化財分布地図〕	文300 宇治坂区編 2022 [宿吉古墳の研究(2)] 岡山県立博物館研究報告「第42号」					
文249 久留町文庫編纂委員会 1975	〔久留町史〕	文301 留島島古代吉備文財センター 2008 [所報吉備] 44					
文250 岡山県教育委員会 1995	〔岡山県道跡・城山通路跡・下柳和田通路・下柳原田道跡・木古内通路〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93	文302 宇治坂区編 2021 [櫛草堆塚・墓] 岡山大学文明創成学研究所・岡山大学考古学研究室					
文251 岡山県教育委員会 1998	〔自生古墳群・上野古墳・野辺山通路・名山通路〕岡山県埋蔵文化財発掘調査報告91	文303 古代歴史文化協議会 2022 [刀劍・武器から読み解く古代社会~]					
文252 美甘村文庫編纂委員会 1974	〔村誌美甘〕上巻	文304 新納泉 1992 [巨大埴輪から巨石堆へ]『新進古代の日本 第4巻・中国・四国・角川書店					

## 岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について

四田 寛人

## はじめに

本稿の目的は、これまで岡山県内の遺跡で出土した古墳時代人骨を集成して基礎的な情報を整理することである。また、筆者前稿<sup>(1)</sup>にて、津市桑山3号墳の幼児埋葬の検討を行った際、人骨の出土遺跡や埋葬施設について、資料の詳細を提示することができなかつたため、本稿をもってデータを示す。加えて、年少者が埋葬されたと考えられる箱式石棺について、若干の検討を行っていきたい。

## 1 岡山県内出土古墳時代人骨の集成

岡山県内で出土した古墳時代人骨のうち、表1に形質人類学的な検討により性別・年齢が知られているもの、表2は検討が行われていないものを集成した。

記載事項としては、遺跡名、所在地、時期、墳形と規模、埋葬施設の種別、埋葬位置、遺構名称、遺構規模、副葬品、人骨番号、性別、年齢、人骨に関する特記事項、埋葬形態、出典文献を記載した。これらの内、所在地は2023年時の市町村名である。時期及び墳形と規模については、基本的に各報告文献に従っている。埋葬位置は清家章の分類<sup>(2)</sup>に従い、墳丘の中央部に設けられた最も中心的な埋葬を主要埋葬施設（表中「主」）、墳丘の主要平坦面に位置するその他の埋葬施設を副次的埋葬施設

（表中「副」）、墳丘斜面や裾部、周溝の内外に設けられる埋葬施設を周辺埋葬施設（表中「周」）とする。被葬者の年齢については松下孝幸による区分<sup>(3)</sup>に従い、乳児（1歳未満）、幼児（1～5歳）、小児（6～15歳）、成年（16～20歳）、壮年（21～39歳）、老年（40～59歳）、老年（60歳以上）とし、性別・年齢の判定については基本的に各報告に基づいている。

今回の集成では131遺跡186体の出土を確認し、そのうち性別・年齢が検討された人骨は70遺跡115体、不明なものは62遺跡71体であった。時期は古墳時代前期が17遺跡28体、中期が46遺跡61体、後期が25遺跡53体、時期不明が43遺跡51体である。性別や年齢に関する検討が行われた人骨については、男性56体（小児1、成年4、壮年26、老年17、老年7、不明1）、女性41体（小児1、成年1、壮年20、老年10、老年7、不明2）、性別不明18体（幼児1、小児5、成年以上1、壮年1、老年1、老年2、不明7）である。

人骨を出土する埋葬施設については、箱式石棺92例、竪穴式石室13例、木棺墓1例、組合式石棺1例、木棺粘土棺2例、横穴式石室17例、横穴墓1例、不明7例であり、箱式石棺を埋葬施設とするものが全体の68%を占める。これは箱式石棺の構造による密封性によるものと思われる。

表1 性別・年齢が明らかとなっている人骨出土例

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模(cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
岩井山4号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方12m	箱式石棺	?	第1号棺	幅3.6m			女性	老年後半	50～60歳	單独埋葬	1
岩井山6号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方11m	箱式石棺	主	第1主室	154×36	直刀・箇・板状鉄器		女性	壮年		單独埋葬	1
岩井山8号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方10m	箱式石棺	主	第1主室	154×36			男性	壮年		單独埋葬	1
宗形神社古墳	岡山市北区大作	前期～中期	円14m	箱式石棺	主		190×50	方形板刃先1・直 斧1・刀1・2・鎌1・ 勾玉2・管玉5・小 玉3・4	1号人骨	男性	壮年後半	西頭位 軽敷、片付	同棺複数埋葬	2
長坂1号墳	岡山市北区下足守	前中期～中期	方7m	箱式石棺	主		155×32	鉄劍1		女性	壮年	軽敷	同棺複数埋葬	3
長坂3号墳	岡山市北区下足守	前期	方10m	箱式石棺	主	A埋葬	(106)×30			女性	老年	2系並立	單独埋葬	3
				箱式石棺	主	B埋葬	(78)×28			不明	不明		單独埋葬	

道跡名	所在地	時期	礎	埋葬施設	埋葬位置	道標名	道標規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文 獻	
南坂16号墳	岡山市北区下足守	前期～中期	円筒 17m	箱式石棺	副	主体部1	166×40			女性	成年		単独埋葬	4	
南坂27号墳	岡山市北区下足守	前期～中期	方9m		主		170×42	鉄劍2		男性	小兒	10代前半 か	単独埋葬	4	
堂山2号墳	岡山市北区平山	古墳中期	方12m	堅穴式石室	主		不明	兩・刀子・鏡・鍔・ 鏡・小玉・珠洋		男性	老年		不明	5	
瓶盛山東1号墳	岡山市北区芳賀	前期	方9m	箱式石棺	主		180×40			女性	老年	50代	単独埋葬	6	
浅川2号墳	岡山市東区浅川	前期末～中期初期	円7m	箱式石棺	主		184×43	鉄劍1	1号 人骨 2号 人骨	男性 女性	老年 老年	兄弟分(酒 家論文)	同棺複数埋葬	7	
浅川3号墳	岡山市東区浅川	前期末～中期初期	不明	箱式石棺	主		170×40	銅鏡1・筒形銅器1・ 鉄劍1		男性	壯年 前半		単独埋葬	7	
篠塚山6号墳	岡山市東区篠塚 江尻	中期	方20m	箱式石棺	主		162×30			女性	壯年		赤色顔料、 全身骨残存	8	
矢部53号墳	倉敷市矢部	前期	不明	箱式石棺	主	シスト1	160×30			男性	壯年		単独埋葬	9	
酒6号墳	津市市酒	中期	方14m	箱式石棺	副		177×38			東枕 西枕	男性 男性	壯年 後半 後半 老年	西枕→東枕 父子もしく は兄弟	同棺複数埋葬	10
下造山南古墳	津市市堺社	中期	方20m	箱式石棺	主	第2主体部	190×45	石製結蹄車3	1号 2号	男性 女性	壯年 壯年	注記同時に 埋葬か	同棺複数埋葬	11	
久米三成4号墳	津市市中北宇三成	中期	方25m	箱式石棺	主	第1主体部	190×45	銅鏡・弦斧・鉄劍・ メノウ製勾玉	1号 2号	男性 女性	壯年～ 老年 壯年	キヨウダイ 田中(1999)	同棺複数埋葬	12 - 13	
桑山南5号墳	津市市平福	後期	円9m	堅穴式石室	主		210×65	鉄劍4、刀子1		男性	壯年		頭蓋骨、大 脳骨	単独埋葬	14
桑山3号墳	津市市平福	後期	円9m	箱式石棺	主		97×30	圓角筒短刀2・鉄 劍19・玉50		不明	幼児		2～4歳の 幼児	単独埋葬	15
佐古古墳	笠岡市佐古	不明	不明	箱式石棺	?		155×30			女性	老年		単独埋葬	16	
茂平八幡境内 1号石棺	笠岡市茂平	不明	不明	箱式石棺	?		161×29			男性	成年		単独埋葬	16	
茂平八幡境内 2号石棺	笠岡市茂平	不明	不明	箱式石棺	?		152×40			男性	老年		単独埋葬	16	
弓場山古墳	笠岡市弓場	前期	円10m	箱式石棺	主		185×39	剪刀2・弦斧・鏡・ 方形板刃先		男性	成人		単独埋葬	16	
弓崎山5号墳	井原市下出部町	前期～中期	不明	箱式石棺	主		180×35	刀子1・鉄劍1		男性	不明		単独埋葬	16	
弓崎山6号墳 (岩崎山4号墳)	井原市下出部町	前期～中期	円5m	堅穴式石室	主		260×60	刀子1・鉄劍1		男性 女性	老年 老年	半ば 廻転した状 態で追跡	同棺複数埋葬	16	
石塔山古墳	井原市大河町	前期～中期	円10m	堅穴式石室	主		355×95	鉄劍1・ガラス小 玉19		男性	壯年		単独埋葬	18	
江崎石棺	船社市上林	前期	円5m	箱式石棺	主		172×42	鏡・方形板刃先2・ 刀子3	1号 2号	男性 女性	老年 老年		同棺複数埋葬	16	
江崎古墳	船社市上林	後期	方円 45m	堅穴式石室	主		228×125 (家形石棺)	鏡盒10・刀子・ 鏡珠・鉄劍1・金 鏡2・ガラス製小 玉110(右棺内出 土)		男性 女性	壯年 壯年	家形石棺内 出土	同棺複数埋葬	19	
般山9号墳	船社市三輪	前期	方14m	箱式石棺	副	第2主体部	180×44	劍・鍔・鉄劍		男性	壯年		単独埋葬	20	
般山11号墳	船社市三輪	前期	方15m	箱式石棺	副	第3主体部	168×44	管玉2		不明	不明		単独埋葬	20	
般山21号墳	船社市三輪	前期	方11m	箱式石棺	主	第1主体部	192×48			1号 2号	女性 女性	壯年～ 老年	同棺複数埋葬	20	
三輪山6号墳	船社市三輪	後期	円15m	堅穴式石室	-			副鏡2・管玉11・ 鏡盒5・切子玉3・ 小玉4・大刀3・ 刀子6・鉄劍100 以上・劍4・鏡1・ 鏡1・青銅3・辯金 具2・鏡盒18・ 鏡4・鏡2・鍔1・ 刀子3・斧2・堅2・ 刀子1		女性	成年 以上		-	21	

## 岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について

道跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文獻
長野 8 号墳	総社市久代	中期前半	方 12m	箱式石棺	主		(120) × 36			男性	壮年 前半		単独埋葬	22
長野 10 号墳	総社市久代	中期前半	円 10m	箱式石棺	主	第 1 主体	172 × 40	滑石軸勾玉 15・管 玉 4・小玉 8・白玉 140		女性	壮年 後半	発掘する第 2 主体は土 器相墓(幼 児相手)	単独埋葬	22
久米 2 号墳	総社市久米	中期	方 14m	箱式石棺	主		160 × 40	铁刀 1・铁針 2	第 1 号	男性	壮年	3 体 5 個器、 人骨の残存 状態は良好 と推測され るが、性別 不明	同棺複数埋 葬	19 - 23
前山 1 号墳	総社市宿	中期前半	方 12m	箱式石棺	主		184 × 33	-		男性	壮年	30 代以降	単独埋葬	24
前山 2 号墳	総社市宿	中期前半	方 7.5m	箱式石棺	主		170 × 40	刀子 1		男性	若年者	歯のみ出土	単独埋葬	
龍王 11 号墳	総社市宿	中期中型 -後半	不明	山頂に 3 番 の始大石棺 が並列	?	(130) × 45	横板板張留甲 (出土狀況不明)	人骨 A 人骨 B	人骨 A	男性	壮年	A・B は 11 -13 号分の、 それから出土	単独埋葬?	25
龍王 12 号墳									人骨 B	女性	熟年	それから出土	単独埋葬?	
龍王 13 号墳													単独埋葬?	
赤羽根古墳群	高梁市落合	不明	不明	箱式石棺	?	6 号主体部	185 × 43			男性	壮年	面部水跡	単独埋葬	
赤羽根古墳群	高梁市落合	不明	不明	箱式石棺	?	7 号主体部	165 × 42		男性	壮年	同時埋葬・ 頭部水跡 6-7 号主体部 は同一箇所 丘か、ミト コンドリニア DNA を共 有。丹波の 血縁を有す る。(清家は むかせ)	同棺複数埋葬	26	
									女性	壮年	面部水跡、 面部疊合 成る	面部水跡	単独埋葬	
上の山 6 号墳	備前市新庄	前期?	墳丘 不明	箱式石棺	?	157 × 39		1 号人骨 (北側位) 2 号人骨 (南側位)	女性	壮年 前半	同時埋葬。 頭部水跡	同棺複数埋葬	27	
									女性	壮年 後半	(消家 2010)			
我城山 7 号墳	瀬戸内市邑久町 上笠加	不明	円 5m	小室穴式石 室	主		180 × 50	上飾器	女性	成人 以上	報告では 2 号墳	同棺複数埋葬	28	
安々丸古墳	赤磐市牛有	不明	円 8m	箱式石棺	主		179 × 43		女性	老年		単独埋葬	29	
中島 1 号墳	赤磐市中島	前期	方 18m	小室穴式石 室	主		不詳	铁劍・玉類	1 号人骨 男性 2 号人骨 女性	壮年 前半	小室穴式石 室・土基墓 など 15 基の 埋葬施設	同棺複数埋葬	30	
中原 3 号墳	真庭市久世	中期	円 16 m	箱式石棺	主		178 × 44	铁劍・铁刀	女性	老年		単独埋葬		
中原 7 号墳	真庭市久世	中期	円 11m	箱式石棺	主?	第 2 主体部	218 × 42		女性	老年	頭蓋骨のみ	単独埋葬		
中原 8 号墳	真庭市久世	中期	円 15m	箱式石棺	主	第 2 主体部	198 × 43		女性	老年 後半-老年 前半		単独埋葬		
中原 12 号墳	真庭市久世	中期	円 16m	箱式石棺	主	173 × 43		1 号 2 号	男性	壮年	埋葬類 1 号 → 2 号	同棺複数埋葬	31	
									女性	壮年 後半		単独埋葬		
中原 15 号墳	真庭市久世	中期	方 12m	箱式石棺	主		213 × 62		女性	老年 後半-老年 前半		単独埋葬		
中原 24 号墳	真庭市久世	中期	方 17m	箱式石棺	主	第 1 主体部	246 × 64	铁刀・刀子・竖錐 37	男性	壮年 後半-老年 前半		単独埋葬		

道跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	道構名	道構規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文 獻
定西塚古墳	鳥取市上中津井	後期	方16 × 14m	横穴式石室	-	石室全長 10.7 m	耳環1、玉類2、方頭大刀1、青銅鏡 刀・農具、鐵劍97、 馬頭金具12、骨1、 政具3、刀子5以上、 鉄斧、斧状骨角製 品2、円形穿孔製 品2、鉈形骨角製 品3	男性?	牡羊	石室内に 人骨集積	-	32		
								不明	牡羊					
								不明	老年					
								不明	老年					
								不明	老年					
								不明	小兒					
								No.1	男性	老年				
宇月原古墳	淡路市郷町字宇月原	中期	不明	箱式石棺	?	-	155 × 40	施・鍵・劍形品	No.2	不明	不明	同様複数葬	16	
下岡山1号墳	小田郡久留町中	中期	不明	箱式石棺	?	-	160 × 54	堅櫛	男性	老年	単独埋葬	16		
下岡山2号墳	小田郡久留町中	中期	不明	箱式石棺	?	-	172 × 35		不明	不明	頭蓋骨のみ			
中ノ谷横穴墓	鳥庭郡新庄村	飛鳥	横穴墓	-	-	横穴墓 全長7 m	铁刀1、铁鎌1、刀子1	1号 人骨	女性	老年	12歳程度	-	33	
								2号 人骨	女性	牡羊				
								3号 人骨	不明	小兒				
								1号	不明	成人 以上				
竹田5号墳	若田郡越野町竹田	前期	方17m	箱式石棺	主	中央南棺	193 × 44		2号	女性	牡羊	同時埋葬	34	
					主	中央北棺	193 × 43	鎧形器(土器枕)、 铁鎌・小刀・刀子	3号	不明	小兒			
				箱式石棺	副	東棺	185 × 38	施	4号	男性	老年			
					副	西棺	163 × 40		5号	不明	不明	同様複数葬		
				箱式石棺	副	南棺			6号	不明	不明			
又ヶ塚1号墳	若田郡越野町馬場	中期	方13m		箱式石棺	主	第2主体部	172 × 35		男	成人 以上	単独埋葬	35	
藤山古墳	勝田郡鶴来町小矢田	中期前半	円12m	箱式石棺	主		186 × 44 (4-13不 明)	施1・不明鎧器1、 刀子1・方形板刃 先1	男	老年 後半			36	
石井古墳群 1号墳	岡山市高松?	不明	不明	箱式石棺	不明			不明	男	牡羊	出土遺跡 詳細不明	不明	23	
通潤北山古墳	不明	不明	不明	不明	不明			不明	136A	女性	牡羊	出土遺跡 詳細不明	23	
北山古墳	上道郡上道町?	不明	不明	不明	不明			不明	136	女性	牡羊		23	
									136B	男性	牡羊	出土遺跡 詳細不明	不明	23
真鷹古墳	吉備郡真鷹町?	不明	不明	箱式石棺	不明			不明	女性	牡羊				
通潤古墳	玉野市浅?	不明	不明	不明	不明			不明	138A	女性	牡羊	出土遺跡 詳細不明	不明	23
久米古墳	範杜市阿曾?	不明	不明	不明	不明			不明	138B	女性	牡羊		23	
福井古墳	永野郡鳥取上?	不明	不明	不明	不明			不明	139A	女性	牡羊	1920年発掘 出土遺跡 詳細不明	-	23
西脇部古墳群 第3号?	赤穂郡赤坂町?	後期	不明	横穴式石室	-	不明	兵刀2	128A	女性	老年				
								129A	女性	老年				
								129B	男性	老年				
								130A	男性	老年				
								130B	女性	牡羊				
								131	男性	牡羊				
								132	女性	牡羊				
								133	女性	牡羊				
								134	男性	牡羊				

道跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	道構名	道構規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文献
西脇部古墳群 第3号?	赤磐市赤坂町?	後期	不明	横穴式石室	-	不明	鉄刀 2		135	男性	壮年	1920年发掘 出土道跡 詳記不明	-	23
和気古墳	和気郡和気町?	不明	不明	不明	不明	不明	不明	第1号	男性	老年	出土道跡 詳記不明	不明	不明	23

表2 性別・年齢が不明な人骨出土例

道跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	道構名	道構規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文献
鹿崎天神山1号墳	岡山市北区津寺	前期	方10m	木棺	副	第2主体	200×42	綠色凝灰岩製管玉 1		不明	不明	歯のみ	半抜歯葬	37
直池内3号墳	岡山市北区津寺	後期	円18m	横穴式石室	-		全長9m	鐵刀 1、鍬頭 1、耳環 3、不明鉄製品 1		不明	不明	7体分の人骨出土	-	37
後池内古墳	岡山市北区津寺	中期	円10m	箱式石棺	主		180×40	鐵劍 1、刀子 3、鍬頭 6		不明	不明	歯のみ	半抜歯葬	37
祇園古墳	岡山市北区御津伊田	不明	不明	不明	??			不明		不明	不明		不明	38
名株未定	岡山市北区玉柏	不明	不明	堅穴式石室?	??			不明		不明	不明		不明	地
阿保田神社境内	岡山市東区瀬戸町万富	不明	不明	箱式石棺	??			貝器残片 1		不明	不明	1940年出土	不明	39
勝負砂古墳	倉敷市真備町下二万	古墳中期	帆立壳 形42 m	堅穴式石室	主		360×120	鏡 1、刀子 2、鍬頭 2、長持約100、盾 鏡 1、刀子 1、兩面 合瓦形骨角製品 2、 鐵頭 5、鐵鍬 3、 鐵劍 2、刀子 6、鍬 頭 6、鐵 1、銅 火薬具 3以上、骨 1、鏡 1、杏葉、鍬、 雪舟、滑石刷毛玉、 178、コハク玉、鏡 石 5		不明	不明		半抜歯葬	40
牛幕山向山17号 墳	倉敷市矢部	後期	不明	横穴式石室	-	-	-	金扣、鍬頭、組芯器、 上端器		不明	不明	-	-	地
薩里古墳	津山市鳥生原	古墳	不明	箱式石棺	??		155×40	滑石製勾玉 3、刀 子片 2	A人骨	不明	不明	成人以上		
酒3号墳	津山市酒	不明	箱式石棺	??				不明	B人骨	不明	不明	成人以上	同様複数埋葬	41
酒4号墳	津山市酒	不明	箱式石棺	??				不明	C人骨	不明	不明	成人以上		
酒5号墳	津山市酒	不明	方9m	箱式石棺	主		158×45	鍬刀		不明	不明		不明	
酒7号墳	津山市酒	不明	箱式石棺	主			167×42			不明	不明		不明	10
酒14号墳	津山市酒	不明	箱式石棺	主			162×36			不明	不明		不明	
酒7章神社裏2号 墳	津山市酒	不明	箱式石棺	主			145×30			不明	不明	頭蓋骨のみ	半抜歯葬	42
男の前1号墳	津山市酒本	前期	方円 65m	組合式石棺	主			銅鏡 1、銅鏡 23、 鍬斧 2、鍬頭 2、勾 玉 5、ガラス小玉 10、 堅焰板等鏡 甲 1		不明	不明	頭蓋骨	不明	43
押入兼田1号墳	津山市押入	中期	方11m	箱式石棺	主	第1主体	173×38	純松羽根勾玉 13、 純松羽根小玉 27		不明	不明	大顎骨のみ 枕石の奥小口にあるこ とから同様複数埋葬か	同様複数埋葬	44
河面丸山2号墳	津山市河面	後期	円13m	横穴式石室	-	陶棺	不明	刀子、鍬頭		不明	不明	陶棺内に2 体の人骨	-	45

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	通横名	通横長幅(cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
寒尾石生谷口古墳	津市加茂町青柳	古墳	円14m	横穴式石室	-		石室全長8.5m	頭部、鉄刀1、鉄劍9、刀子10、馬具、耳環9、玉類125		不明	壮年?	奥壁付近に龜甲	-	46
小高尾1号墳	津市田端	不明	円7m	箱式石棺	-	不明				不明	不明		单孔葬	地
川崎光学岡1号墳	津市川崎	後期	円7m	横穴式石室	-	不明				不明	不明		-	地
新丸山古墳	津市川崎	不明	不明	箱式石棺	-			四獸鏡		不明	不明		箱式石棺2基?	39
足川口5号墳	津市宮部下	不明	不明	箱式石棺	?	不明				不明	不明		单孔葬	地
大沢1号墳	津市久米川南	後期	円5m	横穴式石室	-		石室全長2.4m			不明	不明		-	47
登原9号墳	津市くめ	後期	円8m	横穴式石室	-	不明				不明	不明		-	地
日上城山1号墳	津市日上	前期	方20m	箱式石棺	副	第2埋葬主体	177×44	施1		不明	不明	頭蓋骨、大顎骨	单孔葬	48
宮の森古墳	井原市芳賀町下鳴	不明	不明	箱式石棺	?		160×50			不明	不明	頭蓋骨、大顎骨	单孔葬	49
龜古道古墳 (城山古墳)	井原市西原町原	不明	不明	箱式石棺	?		不明			不明	不明	昭和34年 発見	单孔葬	50
山崎1号墳	井原市東原町原	不明	不明	箱式石棺	?	不明				不明	不明	頭蓋骨、赤色顔料	单孔葬	50
木田古墳	井原市大江町	後期	円10m	横穴式石室	-		石室全長3.1m	武器?		不明	不明		-	50
鶴谷古墳	井原市大江町	後期	不明	横穴式石室	-		石室全長4.3m	武器?		不明	不明		-	50
佐野山古墳	邑社市井尾野	中期	方25m	箱式石棺	主		272×43	銅玉軸管126、滑石小玉多個、鑑2、刀子1、鉄劍2、馬具2、刀子1、施2(相外に良方板等縦短甲)		不明	不明	頭蓋骨、大顎骨ほか2体が対置	同様複数埋葬	19
若水山5号墳 (若水山古墳)	邑社市原	不明	不明	箱式石棺	主		不明	管状・ガラス玉		女性	不明	女性が新妻、女性の み赤色顔料	同様複数埋葬	地
横田東2号墳	新見市菅西町矢田	後期	円10m	横穴式石室	主		232×60	鉄刀1、刀装具(鐵黃)		不明	不明	頭蓋骨片	单孔葬	51
惣田奥4号墳	備前市佐山	後期	円6m?	横穴式石室	-	陶棺	石室全長3.6m					陶棺内、火葬骨	-	32
船山古墳	瀬戸内市長船町長船	後期	方4m 60m	箱式石棺	副		不明	刀子1		不明	不明	施円弧埴輪 付云、全身骨	单孔葬	53
横山2号墳	瀬戸内市牛窓町鹿島	不明	不明	箱式石棺	?	-	194×48			不明	不明		-	地
虫明長崎古墳	瀬戸内市邑久町虫明	中期	不明	箱式石棺	?	第1号箱式石棺	不明	鉄劍3・骨器24		不明	不明	頭蓋骨、大顎骨	单孔葬	54
障尾6号墳	赤磐市斗牛	不明	円6m	箱式石棺	主		174×44		No.1	不明	不明		同様複数埋葬	28
横井1号墳	赤磐市牛津里	不明	方14m	箱式石棺	?	墓1主体	180×39	鉄刀		不明	不明		-	55
森古墳	赤磐市牛津里		円10m	箱式石棺	主?		不明	陶鏡		不明	不明		-	55
吉原4号墳	赤磐市上仁保	前~中期	方22m	箱式石棺	?		不明	鉄劍		不明	不明		单孔葬	56
野山2号墳	赤磐市山陽沼地二丁目	中期	円14m	箱式石棺	?		不明	ガラス小玉?		不明	不明		-	56
岩内4号墳	真庭市草加部	後期	円12m	横穴式石室	-		不明	頭蓋骨		不明	不明		-	地
宮山2号墳	真庭市森山下	前~中期	方13m	横穴式石室?	?		不明			不明	不明		-	地
宮山3号墳	真庭市森山下	前~中期	円6m	箱式石棺	?		不明			不明	不明	頭蓋骨が残存	不明	地
石路山A-1号墳	真庭市森山西部	不明	円15m	箱式石棺	?		不明	鉄刀?		不明	不明	赤色顔料	不明	地
定北古墳	真庭市上中津井	後期	方25 ×21m	横穴式石室	-	3号陶棺	178×44	銅鏡蓋(陶棺内)		不明	不明	頭蓋骨で 遺体を包む	单孔葬	57
						本棺	180×44			不明	不明	陶骨	单孔葬	

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	通横名	通横規模 (cm)	副葬品	人骨 番号	性別	年齢 区分	その他	埋葬形態	文献
定東塚古墳	真庭市上中津井	古墳後期	方25 × 18m	横穴式石室	-	石室長 116cm	企足鏡 2・全身 40・耳環 3・指環 2・ ガラス片 20・鐵 刀 3・土鉢 1・鏡 4・ 刀根 12・筒状金具 1・兩面金具 5・ 瓦当鏡 2・全身 瓦当香葉 2・心葉 瓦当 7・軒 5・込 全身 5・鏡 2・鐵 合 1・鏡先 2・刀 7・矛状鏡 2・鐵 鏡 2・石室棺出土	不明	不明	1月のみ	-	32		
橋原寺古墳 (寺山1号墳)	美作市橋原下	前期	方26 32m	横穴式石室	主	380 × 97	鏡 1・51 ± 1・土 鉢 3・鐵斧 2・刀 り 1・鐵錐 1・鐵鍬 1・鐵斧 2	不明	不明			單曲彌帶	58	
鏡古墳	美作市橋原下	中期?	方 9m	箱式石棺	?	170 × 44			不明	不明			不明	58
名称未定	浅口市金光町占見	不明	不明	箱式石棺			刀劍				2 体が重き 合って埋葬	同様複数埋葬	39	
宮枝8号墳 (大塚)	若狭郡綾町田宗	中期?	円 28m	箱式石棺	主	163 × 50	鏡・玉・刀	不明	不明	墓室 6 (1853) 年 に瓦解		不明	59	
半原1号墳 (半原8号墳)	若狭郡綾町下原	後期	円 16m	箱式石棺	?	180 × 60	鐵斧 1・鏡 1・管玉 2	不明	不明				59	
上畠2号墳	若狭郡綾町和田	不明	不明	箱式石棺	?		不明		不明	不明			不明	59
				木棺粘土被	主	中央棺 565 × 55	珠文鏡 1・玉類 18・ 路刀 3・鐵劍 13・ 鐵鏡 50・銅鏡 K3・ 刀甲 1・柄 1・刀子 4・工具 12	不明	不明	圓蓋骨片 齒數本		單曲彌帶		
月の輪古墳	久米郡吳町飯岡	前期	円 60m	木棺粘土被	副	南棺 310 × 48	内円文鏡 1・玉 類 41・小玉 1359・ 石鏡 1・鐵刀 4・鐵 劍 3・刀甲 1・鐵鏡 1・聖鑑 8・針狀 製品 22・鐵鍬 1	不明	不明	圓蓋骨片		單曲彌帶	60	
合葬古墳	久米郡吳町飯岡	不明	不明	箱式石棺	?				不明	不明	男女 2 体の 人骨出土	不明	地	
合葬古墳	久米郡吳町飯岡	不明	不明	箱式石棺	?				不明	不明		不明	地	
古古墳	吉備中条町下加茂	不明	不明	横穴式石室	?				不明	不明		不明	地	

遺跡文献一覧 1. 「岩井山古墳群」銚津市教育委員会 1976 3. 「宗形古墳群」岡山県教育委員会 1999 4. 「南坂古墳群 (15 号墳能 5 基)」岡山県教育委員会 2009 5. 西川宏 1964 「岡山縣吉備郡佐吉田山古墳群 (第一次調査)」『日本考古学年報』12 6. 清家章・清山隆蔵 「飯塚東山 1 号墳 - 墳丘測量調査・石棺发掘調査報告 -」岡山大学大学院社会文化科学研究所考古学研究室 2022 7. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」93 岡山県教育委員会編「瀬戸町史」瀬戸町 1985 9. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」92 岡山県教育委員会 1993 10. 今井地はか 1968 「美作津市第六号調査報告」『古代吉備』第 6 集 古代古備研究会 11. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」17 岡山県教育委員会 1977 12. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」12 岡山県教育委員会 13. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」13 岡山県教育委員会 1998 8. 「瀬戸町史編纂委員会編「瀬戸町史」瀬戸町 1985 9. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」92 岡山県教育委員会 1993 10. 今井地はか 1968 「美作津市第六号調査報告」『古代吉備』第 6 集 古代古備研究会 11. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」17 岡山県教育委員会 1977 12. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」12 岡山県教育委員会 13. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」13 岡山県教育委員会 2022 15. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」15 岡山縣教育委員会 2023 16. 開間忠彦 1968 「岡山縣下の人骨を出した 5 番古墳六号」『倉敷考古学』4 倉敷考古學會 1977 17. 「岡山縣走出式古墳古鏡」『倉敷考古集』8 倉敷考古學會 18. 井原市史編纂委員会「井原市史」井原市 2005 19. 神社市史編纂委員会「神社市史」考古資料編』神社市 1987 20. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」18 岡山県教育委員会 1982 21. 「岡山縣走出式古墳古鏡」『古代吉備』第 5 集 古代吉備研究会 1962 22. 「長砂古墳」総社市埋藏文化財発掘調査報告 5 総社市教育委員会 1987 23. 用中二鶴「一ノ谷山出土古墳時代人頭骨」『考古学と開拓史』螺木義昌先生古希記念論文集 鰐木義昌先生古希記念論文集行 1988 24. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」15 岡山県教育委員会 1997 25. 「龍王山古墳 (前)」「山手村史」資料編 山手村 2003 26. 岡山縣教育委員会編「赤羽根古墳群」高梁市埋藏文化財発掘調査報告書 1 高梁市埋藏文化財委員会 1981 27. 「備前市埋藏文化財調査年報」1 備前市埋藏文化財調査報告 4 備前市埋藏文化財委員会 1988 28. 中島寿雄・笠原義郎 1952 「岡山縣内海道沿岸 3 号古墳」『瀬戸内海道研究』第 3 号 29. 近藤義郎 1953 「近藤赤松部西山所在の二、三の古墳について」『瀬戸内海道研究』第 4・5 合併号 濱戸内海道研究会 30. 山陽町史編纂委員会「山陽町史」山陽町 1986 31. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」93 岡山縣教育委員会 1999 32. 新納泉・光本順次郎「定東塚・西塚古墳」北房町教育委員会 2001 33. 「中ノ谷横穴墓」『新庄町埋藏文化財発掘調査報告』93 新庄町教育委員会 2002 34. 「竹田埴墓群」竹田道路発掘調査報告書第 1 集 35. 「鏡野町教育委員会 1984 35. 「鏡野町史」考古資料編』鏡野町 2000 36. 「岡山縣埋藏文化財報告」13 岡山縣教育委員会 1983 37. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」8 岡山縣教育委員会 1994 38. 銚津町史編纂委員会編「銚津町史」銚津町 1988 39. 本村豪章 1981 「古墳時代の基礎研究篇 - 資料篇 -」1 東京国立博物館前紀要 第 16 号 東京国立博物館 40. 岡山大学考古学研究会編 2009 「勝負砂古墳調査報告」学生社 41. 渡辺峻治 1958 「美作鶴川前石棺調査報告」『古代吉備』第 2 集 「古代吉備」編集部 42. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」8 岡山縣教育委員会 1975 43. 倉林源次郎・近藤義郎「美作の首長墳 - 墳丘測量調査報告 -」美作地域における前方後円墳形の構造的研究 1 吉備人出版 2000 44. 津山市教育委員会「伊人兼土道跡」津山市埋藏文化財発掘調査報告第 67 集 2000 45. 津山市史編纂委員会「津山市史」津山市 1972 46. 「岡山縣埋藏文化財発掘調査報告」133 岡山縣教育委員会 1998 47. 「銚津古墳群 II」久米郡史編纂委員会「久米郡史」久米郡 1998 48. 「上山臥石古墳」津山市埋藏文化財発掘調査報告第 63 集 津山市教育委員会 1998 49. 芳井町教育委員会編「芳井町文化財」第 7 集 芳井町教育委員会 1994 50. 井原市史編纂委員会「井原市史 I」井原市 2005 51. 「岡山縣埋藏文化史編纂委員会編「山陽町史」山陽町 1986 52. 開間忠彦・豊岡直子「懇意貞子『懇意貞子 4 号』」『倉敷古墳館集報』北房町教育委員会 2006 55. 赤坂町教育委員会「赤坂町史」赤坂町 1984 56. 山陽町史編纂委員会編「山陽町史」山陽町 1986 57. 新納泉・尾上元履「定北古墳」北房町教育委員会 1995 58. 「美作町史」資料編 1 美作市 2006 59. 「鏡野町史」考古資料編』鏡野町 2000 60. 「月の輪古墳」月の輪古墳刊行会 1960 「地」としているものは、古代吉備文化財センター編「改訂岡山縣道路地図」岡山県教育委員会 2003 及びおかやま全県統合型 GIS の「埋藏文化財 (道路)」(<http://www.gis.pref.okayama.jp/~Pref-Portal/?mid=15>) に基づく。

## 2 古墳時代の子ども墓について

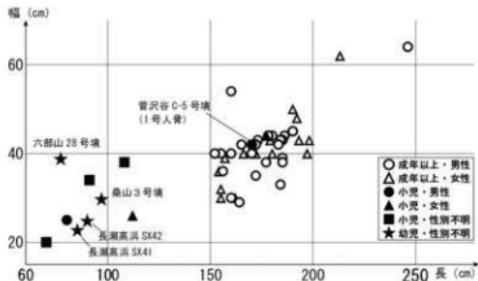
本節では、箱式石棺の規模から推定される子どもの埋葬とその埋葬位置について検討する。第1図に岡山県内における古墳時代の箱式石棺出土人骨のうち、初葬者の性別・年齢と箱式石棺の内法を示した。ただし幼児・小児が初葬者である埋葬は、岡山県内では3例が認められるのみであるため、比較のために鳥取県（菅沢谷C-5号墳）・島根県（六部山28号墳・長瀬高浜遺跡）の事例を加えている<sup>(4)</sup>。

箱式石棺の内法は、成年以上とそれ以下で明確に分かれており、被葬者の身体に合わせて石棺の規模が決定されることを示す。ここでは、内法が120cm以下で再葬墓と考えられないものを幼児～小児前半の埋葬と考え、一括して「子ども墓」と呼びたい。総社市佐野山古墳や真庭市中原24号墳など、身体より大きい内法2mを超える箱式石棺も存在するが、こうした箱式石棺には短甲や装飾品など多量の副葬品を有するものが多いことが指摘できるため、身体を超える規模の埋葬施設は一定以上の地位にあった被葬者のみが使用できたものと考えられる。

表3に岡山県内の内法120cm以下の箱式石棺の一覧を示した。本表は暫定的な集成であり、今後事例が増加する可能性がある。年少者の埋葬と思われる石棺は31例があり、弥生末～古墳時代前期が10例、中期が9例、後期が12例である。

弥生末～古墳時代前期の例では、鎌物師谷1号墳D主体部や七つ塹5号墳第2主体部、久米三成4号墳第3～5主体部など大規模な古墳の副次的・周辺埋葬施設として子ども墓が設けられる例が目立つ。山根屋古墳群など小規模ないし無墳丘と思われる事例においても、成人の埋葬と思われる箱式石棺に隣接するなど、埋葬空間における主体的な位置にある例は認められない。また土器以外の副葬品をもたないことが指摘できる。

中期の事例では、墳丘の主要埋葬施設であるものや玉類を中心とした副葬品を有するものが出現する。5世紀中頃～後半に位置づけられる中原古墳群では、子どもの埋葬が10m未満の円墳・方墳の主要埋葬施設となるほか、中原19・29号墳例では玉類をはじめとする副葬品を有



第1図 箱式石棺の内法と初葬者の性別・年齢

する。また中原古墳群の成人と考えられる埋葬（28号墳など）には刀剣や鉄鎌などが伴う一方で、子ども墓には武器類が副葬されない点にも注意しておきたい。

後期では、2～4歳の幼児が主要埋葬施設に埋葬された桑山3号墳がある。桑山3号墳の箱式石棺は、墳丘築造途中の整地段階に構築されており、幼児の埋葬が古墳築造の契機となったことが判明している。石棺内の副葬品は鹿角装短刀2、鉄鎌2束19本、玉類50以上があり、成人の埋葬と遜色なく、玉類では上回っている。時期は土器枕である須恵器杯蓋・杯身からT K 10型式段階、6世紀中葉である。また墳丘外には周辺埋葬として同時期の子ども墓と思われる箱式石棺と土器棺墓が隣接して築かれている。この箱式石棺は土器枕1点のみが副葬されていた。桑山古墳群での状況は、①子どもの埋葬が一つの古墳とその周辺に集められた可能性がある、②埋葬や副葬品の差異から、子どものなかでも明確な階層差が生じている、③上位階層にある子どもが鉄鎌など実戦的な武器を有している、といった点が注目される。隣接する桑山古墳群でも、墳丘を持たない子ども墓と思われる箱式石棺が周辺埋葬施設として存在する。これらは桑山3号墳の周辺埋葬施設と同様に、土器以外の副葬品は認められない。

横田東古墳群は丘陵上に所在する2基の古墳とその間に14基の小墳墓群からなる。このうち小型箱式石棺は小墳墓群の2基（4号墓、15号墓）で認められる。小墳墓群には箱式石棺のほか、土坑墓・石蓋土坑墓・横穴

表3 幼児～小児前半の埋葬と考えられる箱式石棺の例

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬位置	通構名	石棺内法(cm)	副葬品	その他	文献	
七つ塚5号墳	岡山市北区瀬が瀬	前期	方方 25m	周?	第2主体部	120×40		側石に古銅輝石安山岩使用	1	
久米三成4号墳	津山市中北下		方方 35m	周	第3主体部	63×27	枕石		2	
				周	第4主体部	66×24				
				周	第5主体部	63×18	枕石			
桑山南古墳群	津山市平福	後期	-	周	箱式石棺墓1	104×28	須恵器杯身2		3	
				周	箱式石棺墓2	114×37	須恵器杯蓋・杯身	土器枕		
桑山3号墳	津山市平福	後期	円9.5m	主		97×30 19・玉50	鹿角装短刀2・鉄鏹	2~4歳の幼児骨出土	4	
				周	箱式石棺墓1	110×45	土器枕	土器枕(須恵器片)、土器棺蓋が隣接		
鈎物師谷1号墳	船守市清音三四	弥生末	方?	礎	D主体部	65×25	鉢形土器	箱式石棺状の石組み	5	
山根屋3号墓	新見市哲西町上神代	前期	不明	副?		38×16		1~2号墓に隣接	6	
山根屋4号墓	新見市哲西町上神代	前期	不明	副?		76×24		2号墓に隣接、枕石		
山根屋6号墳	新見市哲西町上神代	前期	方6m	周	第2主体部	80×18				
山根屋14号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	主?		100×28	鉄鏹1・刀子1(柏外)			
山根屋15号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		96×30	須恵器高杯1	1号墳に隣接		
山根屋19号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		104×48				
山根屋20号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		68×36		2号墳周溝内		
山根屋22号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		60×28		2号墳周溝に隣接		
光明寺1号墳	新見市哲西町矢田	前期	円14m	礎	第3主体部	120×34			7	
横田東4号墓	新見市哲西町矢田	後期	不明	周		105×30		2号墳に隣接	8	
横田東15号墓	新見市哲西町矢田	後期	不明	周		80×40		2号墳に隣接		
野山第5号墳	赤磐市山陽2丁目	中期	円10m	副	第2号棺	81×29 小玉1	滑石製勾玉1・ガラス 小玉1		9	
前内池7号墳	赤磐市真下	中期	方10m	周	石棺1	87×33		枕石	10	
宮の前道路C3墓	真庭市一色	前期	方13m	周	シスト3	60×15		埴丘外理葬	11	
中原5号墳	真庭市久世	中期	方9m	主		113×22			12	
中原16号墳	真庭市久世	中期	円6m	主		109×35				
中原19号墳	真庭市久世	中期	方11m	周	第2主体部	58×33	堅拂4・純玉製勾玉1・ 蛇紋岩製管玉7・刀子 2・鉄鏹	周溝内		
中原29号墳	真庭市久世	中期	円6m	主		102×32	蛇紋岩製勾玉2・蛇紋 岩製管玉9	枕石		
山之城2号墳	真庭市五名	中期	円10m	副	第2主体部	80×14			13	
				副	第3主体部	85×18				
下湯原B遺跡	真庭市下湯原	後期～飛鳥	不明	副?	石棺墓2	50×30		石棺墓1に隣接	13	
荒神風呂古墳	真庭市西河内	中期	円13m	周	2号箱式石棺	88×15		板石敷き	14	

1. 近畿南部・高井健司編「七つ塚古墳群発掘調査報告」2. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」30 岡山県教育委員会 1979 3. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」255 岡山県教育委員会 4. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」322 岡山県教育委員会 2023 5. 春寿秀爾は「備中吉音村鈎物師谷1号墳調査報告」「古代吉備」第6集 1969 6. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」22 岡山県教育委員会 1977 7. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」15 岡山県教育委員会 1977 8. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」23 岡山県教育委員会 1978 9. 山陽町教育委員会「岩吉古墳群」岡山県営山陽新住宅街地開発事業用地埋蔵文化財発掘調査報告 10. 山陽町教育委員会 1976 10. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」174 岡山県教育委員会 2003 11. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」12 岡山県教育委員会 1976 12. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」93 岡山県教育委員会 1995 13. 北府町教育委員会「山之城古墳群」北府町埋蔵文化財発掘調査報告 6 1987 14. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」166 岡山県教育委員会 2002 15. 「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」76 岡山県教育委員会 1990

状石蓋土坑墓があり、土坑墓2基(14・16号墓)を除く14基は床面の内法は120cm以下である。これらは子どもの埋葬と考えたい。人骨が出土していないため再葬墓の可能性が残るが、横穴状石蓋土坑墓の7・10号墓をみると、副葬品である須恵器杯身・杯蓋と鉄鏹などの金属

器は床面の両端にそれぞれ置かれている。これは被葬者の頭部と脚部付近に供えられたものと考えられるので、埋葬時に腐朽・骨化はしていなかったと思われる。

横田東古墳群の小墳墓群は、位置から多くは2号墳に伴うものと思われる。特に7~9・11号墓は周溝の方向

から2号墳の周辺埋葬とみてよい。2号墳の埋葬施設は堅穴式石室で、内部に人骨、鉄刀1、鉄鎌12（平板式1、長頭鎌11）、刀子1、須恵器が出土している。周辺の小墳墓群は2号墳とはば時間差なく埋葬が行われており、横穴式石蓋土坑墓である7・10号墓の墓室内から鉄鎌が複数出土しているほか、石蓋土坑墓である5号墳からガラス小玉6点が出土している。いずれも子ども墓と考えられるため、桑山3号墳の事例と同様に子どもに実戦的な武器が伴うこと、副葬品の有無から子ども間にも階層差が存在する状況が見て取れる。

### 3まとめ

本稿では岡山県内の古墳時代人骨の出土遺跡について集成を行ったほか、古墳時代の子ども墓について若干の検討を試みた。

人骨出土遺跡の集成では、岡山県内131遺跡186体分の人骨出土例を確認した。このうち性別・年齢が検討されたものは115例であった。

子ども墓については、古墳時代全体で認められることが分かった。弥生時代後期には、胎児・乳児を埋葬した土器棺墓については墓域が区別されることが指摘されているが<sup>(5)</sup>、土坑墓群（津市山勝負塙遺跡など）の事例でも分かるように、子どもの埋葬の位置は成人と区別されていない。一方で、古墳時代前期には子どもは古墳の主要平坦面に単独では埋葬されず、周辺埋葬ないし成人の埋葬に伴う形でしか認められない。また土器を除く副葬品を持たず、成人と子どもは明確に区別されていることが分かる。5世紀中葉～後半はこうした区別に変化がみられ、子ども墓が中心埋葬となる古墳や玉類をはじめとした副葬品をもつ例が出現する。また6世紀中葉以降、鉄鎌を中心とする実戦的な武器の副葬や、玉類などの副葬品を多量にもつ事例がみられるようになる。

古墳時代中期後半～後期における子どもの地位の変化は、子ども墓への武器類の副葬からみても集団の軍事編成とそれに伴う父系化と関連していると思われる。本論で例として挙げた桑山古墳群や横田東古墳群では、成人の埋葬に大刀・多量の鉄鎌・馬具などが副葬されており、軍事的な性格を強く示している。軍事編成の中で地位を確立した男性有力者（家長）の近親者であることが子どもの地位を高めたのであれば、それは集団の父系化と直

系卑属への地位継承を示すといえよう。

今後の課題として、本論では小型の箱式石棺のある遺跡を中心に検討したため、今後は土坑墓なども含めて事例を集成することが求められる。また人骨出土事例から認識できる子どもの埋葬は、成人（とくに女性）の埋葬へ追葬される事例が多くみられるのであり、単独の埋葬施設をもつ子どもは、全体の中でもごく一部であったと思われる。こうしたバイアスには注意する必要がある。

集団における子どもや未年齢者の地位は、その社会の性格をよく反映すると思われる。本論では岡山県内ののみの検討に留まったため、より広範な地域・時代を通した分析を行っていきたい。

### 註

- 四田寛人2023「桑山3号墳箱式石棺の幼児埋葬について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』262 岡山県教育委員会
- 清家章「古墳時代の埋葬原理と親族構造」大阪大学出版会 2010
- 松下孝幸1996「土井ヶ浜遺跡第14次調査出土の中世・弥生人骨」『土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書』山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集 豊北町教育委員会
- これら詳しいについては、註（1）文献で示している。
- 亀山行雄「土器棺墓について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』98 岡山県教育委員会 1994

### 人骨に関する参考文献

- 田中良之「古墳時代親族構造の研究」柏書房 1995  
 清家章「古墳時代の埋葬原理と親族構造」大阪大学出版会 2010  
 清家章・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登2021「岡山県内古墳出土人骨のミトコンドリアDNA分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』229号 国立歴史民俗博物館  
 清家章・篠田謙一・神澤秀明・安達登・角田恒雄2023「ゲノム解析による岡山県久米三成4号墳被葬者の親族関係」『日本考古学学会第89回総会研究発表要旨』日本考古学協会

## 総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）

藤井 雅大・金田 善敬

## 1 はじめに

こうもり塚古墳は総社市上林の丘陵尾根先端部に立地する6世紀第3四半期に築造された全長約96mの前方後円墳である。墳丘の構築方法は尾根を切断し、その上に盛土を施すが、北側については墳丘の簡略化を確認した。これは後に整備される古代山陽道が東西に通る南側からの眺望を意識して築造されたことを表す。墳丘内に造られた横穴式石室は全長19.9mを測り、県下最大の石室で、中国地方でも最大級の石室規模となる。石室内は攪乱を受けているが、副葬品として單鳳環頭大刀柄頭をはじめ、武器、馬具、須恵器、土師器等が出土し、棺は石棺と柏棺が納められていた。

岡山県古代吉備文化財センターでは、令和4年度に総合調査報告書（以下報告書と呼ぶ）を刊行した<sup>(1)</sup>。報告書では、昭和42年の岡山大学・岡山理科大学による調査<sup>(2)</sup>、昭和53年度の岡山県教育委員会による調査<sup>(3)</sup>、令和3・4年度の当センターで実施した墳丘の発掘調査成果を総括した。このうち、過去の調査の再整理にあたっては、実測図は存在するものの所在が確認できなかった遺物について原図をそのままトレースして掲載した。このたび報告書の脱稿後に、それら遺物の一部について所在が判明し、あわせて未報告の金属製品も確認したことから、本稿では報告書で掲載できなかった遺物について追加報告する。

## 2 既報告の金属製品

本節では、報告書で実測図のみ確認した遺物について実物が見つかったので再度報告する。報告書と内容が異なる部分については、本稿の記述を優先する。なお、遺物番号については報告書と同じ番号を使用している。

馬具（第1図）（報告書 pp.92-94）

M5は心葉形十字文透鏡板である。4片（A～D）に分かれしており、報告書ではDの所在が不明であった<sup>(4)</sup>。Dは、厚さが約0.3cmの扁平な鉄片である。Aの左側からBの上部に繋がる部分の下地であると考えられる。し

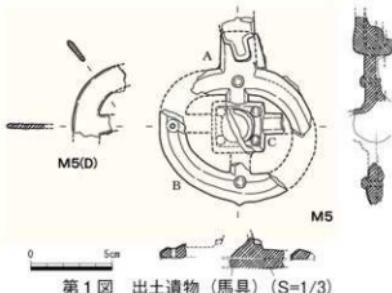
かしX線透過写真に鉄留めを示す孔の痕跡は認められなかっただ。孔が穿たれていなかったのか、鉄錆のため写真に描出されなかっただのか、両方を考えておきたい。

農工具ほか（第2図）（報告書 pp.100-101）

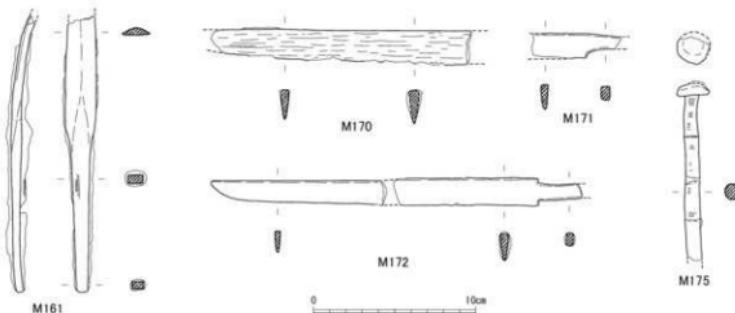
M161は鉗である。切っ先が欠損した刃部の先端付近は錫側に湾曲している。関は報告書では実測図より直角両面であると報告したが、実物のX線透過写真を撮影した結果、関の形状は直角関ではなく、撫角関であることがわかった。茎には木質の痕跡がわずかに残る。

M170～M172は刀子である。M170は切っ先や茎が欠損する。佩裏側と棟側に木質が付着し、佩表側にも木質痕跡があることから、鞘に収められて副葬されたと考えられる。M171は関付近が残存する。M172は切っ先側と関側に分かれ、報告書では関側のみを報告した。切っ先はフクラ切っ先で、関は均等両面である。目釘穴はX線透過写真でも確認できず、茎尻は欠損している。

M175は鉄釘である。報告書では実測図から方形の頭部としたが、実見した資料では頭部は円形を呈していた。また軸部の表面には木質が残存しており、上半部・下半部とともに横方向の木目が認められる。報告書では、頭部が方形とし、類例に奈良県平城宮出土の鉄釘をあげたが、報告書の記述は取り消すことにする。しかし、報告書で記述したとおり、今回の再整理で確認した釘の本数や形態を根拠に木棺の存在を証明するのは難しいと考える。ただし、石室内が攪乱を受けている状況を考慮すると、木棺の存在を完全に否定するものではない。



第1図 出土遺物（馬具）(S=1/3)



第2図 出土遺物（農工具ほか）(S=1/3)

### 3 新規報告の金属製品

本節では、報告書作成時では確認できなかった資料について報告する。遺物番号については報告書の続き番号を割り振っている。

#### 鉄鎌（第3図）

M203～M225は鉄鎌である。長頭鎌の総破片数は報告書の整理で301点、今回の整理で62点があり、図面のみが残されている12点を合わせると375点が確認されている。長頭鎌片で基闘が残存している点数を数えると長頭鎌の総点数は、少なくとも105本以上は副葬されていたことがわかった。平根鎌は新たにM222を確認し、報告書で確認した12点を合わせ、少なくとも13点が出土している。また「総社市史」<sup>(5)</sup>において鉄鎌の可能性が指摘されている「エンピツのキャップ形の鉄器」を新たに3点確認した。報告書では20点を実見しており、「総社市史」で記載がある23本すべてを確認できた。

M203～M221は長頭鎌である。M203～M210は柳葉形の鉄鎌である。鎌身部はM206を除き片切刃造であるが、稜が不明瞭なものも含まれる。M206は断面形から両丸造と考えられるが、鋸彫れが起こっていることが確認でき、元は片切刃造の断面形であった可能性もある。

M222は平根鎌である。現状は2片に分れており、茎尻は遺存していない。残存長は刃部側が約5.5cm、関部側が3.9cmである。茎の鎌身は柳葉形であり、頭部は丸

く緩やかに曲がる。関は棘関である。

M223～M225は「総社市史」において鉄鎌の可能性が指摘されている「エンピツのキャップ形の鉄器」である。基部の袋部は両側から閉じており、3点とも閉じ合わせ部分を観察できる。先端付近の断面は、M224は隅丸方形で、M223・M225は先端は方形を意識しているようである。概ね袋部の閉じ合わせが観察できる部分は断面が円形であり、それより先端に近づくにつれて方形に変化している。

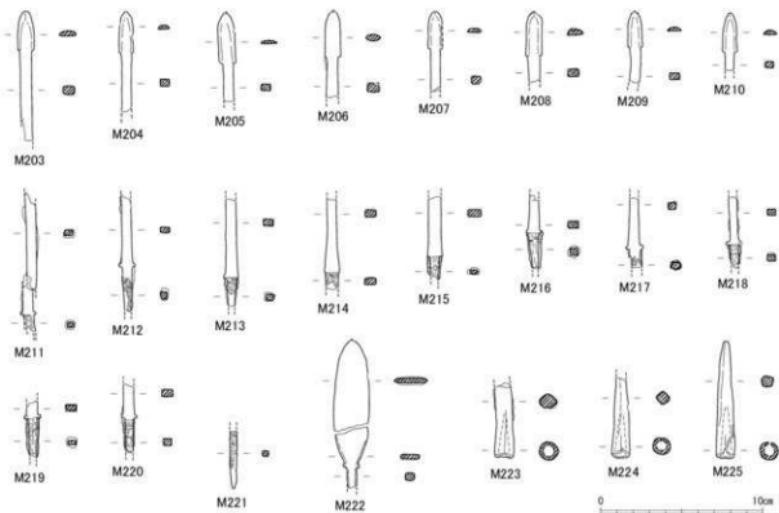
#### 弓金具（第4図）

M226～M228は弓金具である。報告書では3点を確認し、今回新たに3点を実見した。「総社市史」では5点が確認されているが、1点増え、計6点となった。

M226は芯金のみの遺存で、頭部の片側も失われている。残存長は3.5cm。頭部を除いた長さが2.4cm。厚みは5mmで、断面は頭部と軸部とともに方形で扁平な形状である。M227は全長3.5cmを測る完形で、断面は頭部・軸部とともに円形を呈する。頭部を除いた中央部の長さは2.1cmで、木質が残存する。M228は両端の頭部が欠損し、2.3cmが遺存する。軸部の長さは2cmで、表面にはわずかに木片が付着している。断面は円形である。

#### 農工具ほか（第5図）

M229～M235は刀子である。M229は切っ先に近い部分のみが約4.3cm残存している。M230も切っ先側のみが2片に分れて遺存している。2片を合わせた残存長

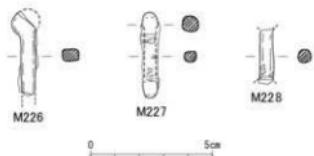


第3図 出土遺物（鉄鎌）(S=1/3)

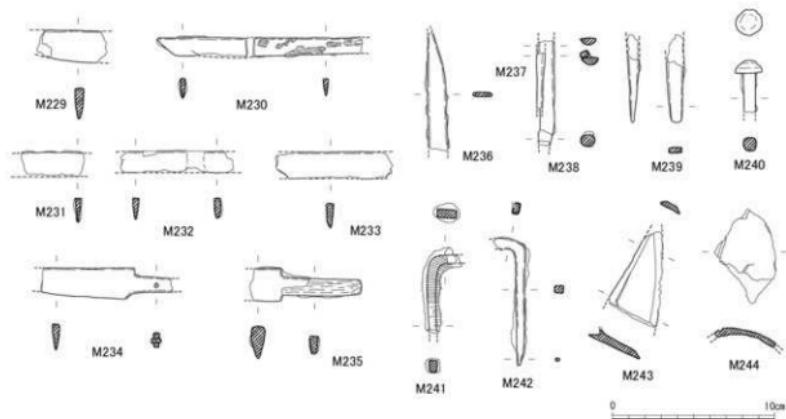
は約12.4cmである。切っ先はカマス切先である。刀身の表面には木質が付着している。M231は刃部の3.9cmが残存しているのみであり、刃部の欠損は著しい。刃部の幅は1.7cmである。M232も刃部のみの残存で残存長は6.9cmである。刃部は欠損している部分が多く、刃幅は1.4cmを測る。M233も刃部のみで7.2cmが残存する。M234は残存長8.2cmで、切っ先と茎尻が欠損する。最大幅は刃部が1.9cm、茎部が1cmである。関は両面で、茎部には目釘が1つ残っている。M235は6.9cmが現存しており、刃部の大部分は失われている。関は両面で、茎部には木質が残る。目釘孔は肉眼・X線写真の双方で観察を行ったが確認できなかった。

M236～M239は用途不明の鉄製品である。M236は残存長7.2cm、幅が1.3cmで細長い形状を呈する。幅は先端に近づくにつれて片側が幅を減じ、細くなる。厚み約4mmで扁平である。M237は棒状を呈する。両端は欠損しており、残存長は3.4cmである。形状から鉄鎌の茎の可能性も考えられるが、表面には木質や糸巻きなどは遺存していない。M238も両端が欠損している棒状で、残存長6.4cm、幅1.2cmである。断面形は半円形だが、下端部は円形になる。M239は楔形で、残存長5.4cm、残存

最大幅は1.1cmを測る。厚みは両側から徐々に減じて、先端が薄くなる。この形状から楔や鎌である可能性が考えられる。M240は、釘の頭部である。下半部は失われており、3.2cmのみが残存する。円形の頭部の周囲が4方向に張り出している。M241は鎌で、一部のみが遺存している。断面は長方形を呈し、扁平である。表面には木質の痕跡が残る。M242も鎌である。長さは7.9cmで、断面形は長方形を呈する。M243はU字形鋸先である。端部のみの遺存で、刃の欠損は著しい。腐食の状態から鋸造の可能性が考えられ、中近世以降の遺物であるかもしれない。M244は不明鉄器である。丸く湾曲した板状の形状を呈するが、元は半球形をしていたと推定される。腐食の状態から鋸造製品であると考えられる。



第4図 出土遺物（弓金具）(S=1/2)



第5図 出土遺物（農工具ほか）(S=1/3)

## 4 こうもり塚古墳の金属製品の総点数

本報告では、報告書で実見できなかった横穴式石室出土の遺物について報告した。それにより、鉄鎌や弓金具などは点数が大きく増加した。そこで現在までに遺物または実測において確認できた金属製品の点数を表1にまとめた。破片で出土した遺物に関しては、鉄鎌や刀子は関が確認できる点数、釘は頭部が残る点数といったように確実に別個体であるものを計測した。古墳時代の葬送儀礼に伴わない可能性が高いと考えられる遺物に関しては備考に記している。

## 註

- (1) 金田善敬編2023「史跡こうもり塚古墳「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴う保存活用総合調査」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告266 岡山県教育委員会
- (2) 近藤義郎1987「こうもり塚古墳」「総社市史」考古資料編 総社市史編さん委員会
- (3) 萩原克人1979「備中こうもり塚古墳」「吉備路風土記の丘」環境整備に伴う調査-岡山県埋蔵文化財発掘調査報告35 岡山県教育委員会  
萩原克人・近藤義郎・鎌木義昌1986「こうもり塚古墳」「岡山県史」第18巻 考古資料 岡山県史編纂委員会
- (4) A～Cに関しては註1文献を参照いただきたい。
- (5) 註2文献 以下「総社市史」はこの文献を示す。

表1 こうもり塚古墳横穴式石室出土金属製品点数

品目	点数	備考
馬具		
鏡板(脛)	心葉形十字文透鏡板1点	
引手	1点	
鞍	鞍4点	
障泥	障泥金具3点	
その他		
辻金具	2点	
鋸具	1点	
飾り金具	15点	
不明	2点	
武具		
刀	装飾付大刀 単翼環頭大刀1点	
刀	2点以上	
鎌		
長頭	105点以上	
内 片刃形	5点	
柳葉形	52点	
平根	13点	
内 長三角形	3点	
柳葉形	10点	
キャップ形	23点	
弓金具	6点	
農工具		
鋤	1点	
鑿	3点以上	
鍬	2点	
鎌	2点	
刀子	5点以上(頭の数)	
釘	4点以上(頭部の数)	
U字形鋸先	1点	中世か
鉄洋	鍛冶洋 1点(245g)	
装身具	耳環 4点	
鏡	寛永通宝 5点	江戸時代
用道不明鉄器	14点	古墳以降も含む

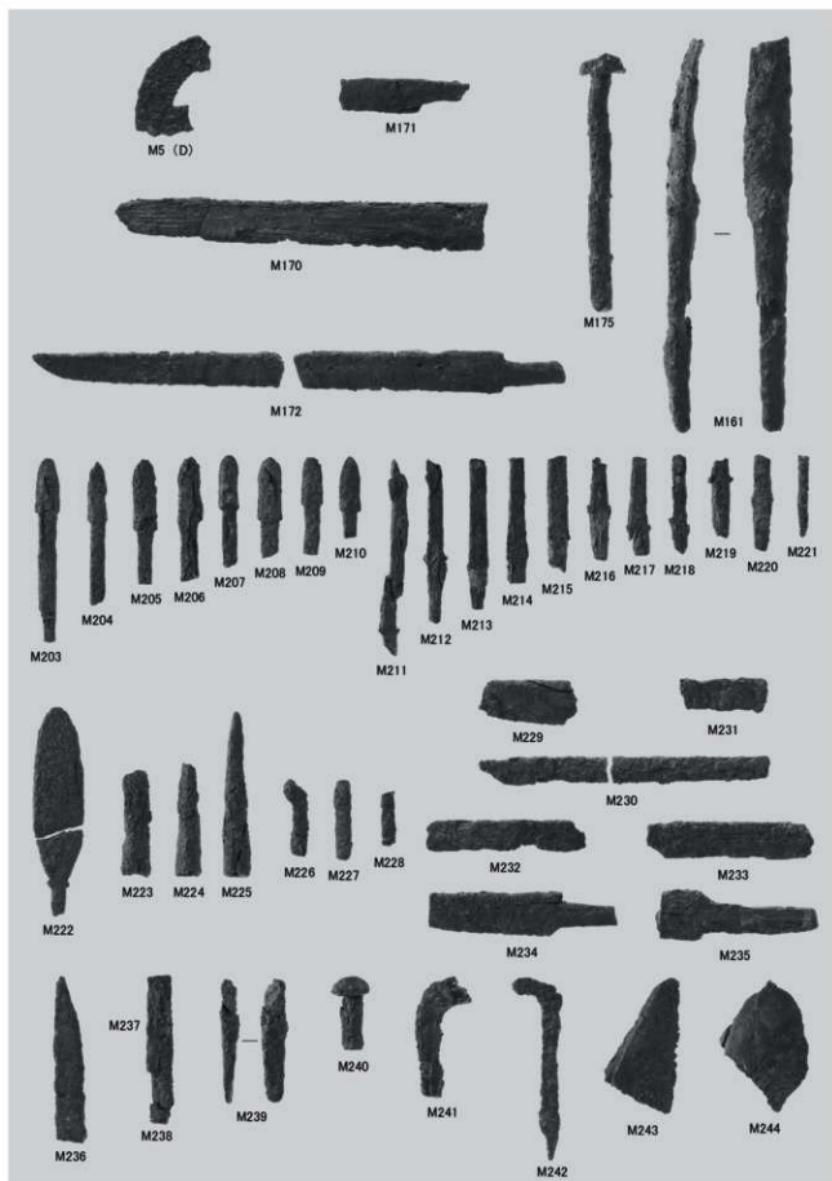
表2 金属製品観察表

掲載番号	出土地区	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	分類	材質	残存状況	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ						
M5	玄室	鏡板	(116)	(93)	25	88.9		鉄		鉄地金銅張。4片	テ 304・テ 394
M161	玄室	鏡	(170)	19	5	48.5		鉄		木質残存	市史図 180-5
M170	玄室	刀子	(160)	21	8	41.9		鉄		木質残存	テ 399
M171	玄室	刀子	(55)	15	7	11.2		鉄		木質残存	テ 405
M172	玄室	刀子	(224)	18	8	41.9		鉄		木質残存	市史図 180-6
M175	玄室	釘	(110)	9	10	27.5		鉄		木質残存	テ 396
M203	鏡	(79)	11	6	8.3	長頭柳葉	鉄				
M204	鏡	(65)	8	5	5.0	長頭柳葉	鉄				
M205	鏡	(54)	11	5	3.6	長頭柳葉	鉄				
M206	鏡	(54)	11	6	5.9	長頭柳葉	鉄				
M207	鏡	(49)	9	6	4.4	長頭柳葉	鉄				
M208	鏡	(44)	10	5	4.7	長頭柳葉	鉄				
M209	鏡	(43)	9	5	3.7	長頭柳葉	鉄				
M210	鏡	(36)	9	4	2.2	長頭柳葉	鉄				
M211	鏡	(85)	10	6	8.3	長頭	鉄		樹皮残存		
M212	鏡	(71)	11	8	5.8	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M213	鏡	(65)	9	7	6.4	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M214	鏡	(55)	10	11	6.5	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M215	鏡	(51)	9	4	5.8	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M216	鏡	(45)	11	8	4.3	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M217	鏡	(43)	10	7	4.7	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M218	鏡	(43)	8	6	3.5	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M219	鏡	(35)	10	4	3.4	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M220	鏡	(41)	9	8	4.2	長頭	鉄		木質・樹皮残存		
M221	鏡	(35)	5	4	1.3	鉄			糸巻残存		
M222	鏡	(94)	22	6	15.3	平根柳葉	鉄				
M223	鏡	(46)	13	12	10.5	キャップ形	鉄				
M224	鏡	(49)	11	10	13.2	キャップ形	鉄				
M225	鏡	72	12	12	10.5	キャップ形	鉄	完形			
M226	弓金具	(35)	6	5	3.4		鉄				
M227	弓金具	35	8	8	3.4		鉄	完形	木質残存		
M228	弓金具	(23)	7	6	1.8		鉄		木質残存		
M229	刀子	(43)	20	7	12.1		鉄				
M230	玄室?	刀子	(124)	13	5	14.5		鉄		木質残存	テ 366
M231		刀子	(39)	17	6	7.0		鉄			
M232		刀子	(69)	14	5	11.1		鉄			
M233	玄室	刀子	(72)	16	5	14.5		鉄			2区
M234	玄室	刀子	(82)	19	5	20.0		鉄		目釘残存	テ 301
M235		刀子	(69)	21	8	19.7		鉄		木質残存	
M236		不明鉄器	(72)	13	4	6.4		鉄			
M237		不明鉄器	(34)	6	4	13.9		鉄		M238と説着	
M238		不明鉄器	(64)	12	9	13.9		鉄		M237と説着	
M239		不明鉄器	(54)	11	8	7.8		鉄			
M240		釘	(32)	8	9	8.0		鉄			
M241		鏡	(53)	11	13	15.0		鉄		木質残存	
M242		鏡	79	9	6	9.5		鉄			
M243		頭先	(59)	33	8	16.3		鉄			
M244		不明鉄器	(58)	(38)	4	15.3		鉄			

1 「数値」は残存値である。

2 「重量」は、クリーニング後、含浸処理後の数値である。

3 「備考」の項目で、「市史」は「総社市史」、その他、記号・番号（テ〇〇など）は対象遺物の注記を示す。



こうもり塚古墳出土遺物（金属製品）

## 倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査

澤 山 孝 之

### はじめに

今回報告するのは、一般県道高松下庄線道路改築工事に伴い、岡山県倉敷地方振興局（当時）の依頼を受け、岡山県教育委員会が昭和57年度に発掘調査を実施した倉敷市矢部に所在する矢部南向遺跡（第1図）の発掘調査の成果である。発掘調査は昭和58年1月19日～2月18日に岡山県教育庁文化課（当時）職員 岡田博・中野雅美が担当して、実施した。調査面積は120m<sup>2</sup>である。岡山市北区高松と倉敷市下庄とを結ぶ一般県道高松下庄線の改築工事は、交通混雑の緩和及び交通安全の確保などを目的として計画され、現在は主要地方道箕島高松線の区間の一部となっている。調査の結果、本遺跡は弥生時代～中世の集落跡であることが明らかとなった<sup>(1)</sup>。

### 1 調査対象地の概要

今回報告する矢部南向遺跡は、倉敷市の東端に当たり、岡山市北区加茂と接している。地勢的には、西方の日差山山塊、東方の吉備中山山塊に挟まれた足守川左岸の沖積平野に位置し、当地は自然堤防と後背湿地で形成された同川の氾濫原であったと推定され、多くの集落がこの自然堤防（微高地）上に営まれたと考えられる<sup>(2)</sup>。

発掘調査は先述した道路改築工事に伴うボックス建設部分について記録保存を目的として実施した。調査対象地は、現在の県道73号（主要地方道）箕島高松線の矢部橋の北東端に位置し（第2図、網掛け部）、現在もその周辺は、発掘当時とあまり変わらない田園風景が広がっている。本遺跡の西方約10mには、足守川河川改修工事に伴い発掘調査を実施した足守川矢部南向遺跡<sup>(3)</sup>が位置しており、その成果から、現在ではこの周辺の地表下には、弥生時代後期～古墳時代前期の極めて高い遺構密度をもつ集落遺跡の存在が窺知されている。

### 2 発掘調査の成果

#### （1） 竪穴住居

竪穴住居1（第4・5図、写真1、図版1）

調査時はSH02と称していた。なお、図面・資料などの散逸のため、詳細は不明である。記録写真から、平面形は隅丸方形であり、残存状況は調査区境のため遺構の2隅を欠損している。また、床面では中央穴、その壁際には土坑（ポケット）や壁体溝が確認でき、コの字状を呈する高床部も有する。主柱穴は2本検出している。出土遺物は、土器器の甕1～14、高杯15～21、鉢22～24や小型丸底壺25、小型器台26・27、製塙土器28などが認められる。時期は古墳時代前期初頭と推定される。



写真1 竪穴住居1



第1図 遺跡位置図 (1/1,500,000)

## 竪穴住居2（第3・6図、図版1）

調査区東側に位置する。調査時はSH01と称していた。なお、図面・資料などの散逸のため、詳細は不明である。調査記録から平面形は方形であり、残存状況は調査区境のため遺構の2隅を欠損している。規模は1辺約5m、床面積は約25m<sup>2</sup>と推定される。ただし、床面構造は判然とせず、この遺構を竪穴住居と評価することは難しい。

出土遺物は、須恵器の杯蓋29~35、杯身36~38、高台杯身39~42、高杯43~46、壺蓋47、壺48~49、甕50、横瓶51、鉢52や土師器の甕53~54、杯身55、高台杯身56、皿57~59などが認められる。なお、杯蓋29~30、壺蓋47は杯身の可能性がある。時期は7世紀後半~8世紀初頭の範囲と推定される。

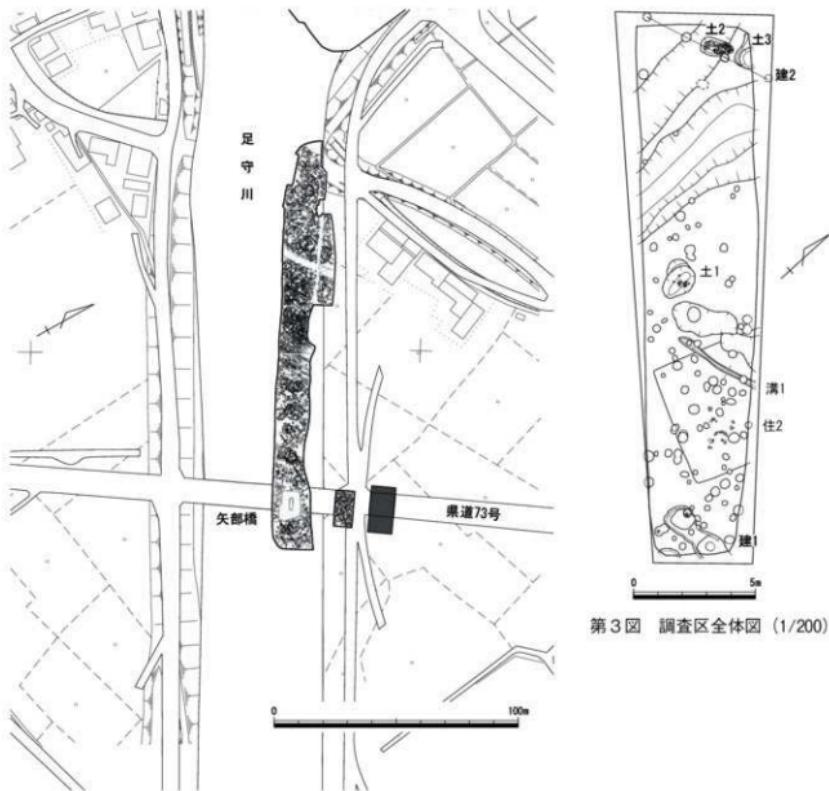
## （2）掘立柱建物

## 掘立柱建物1（第3・7図）

調査区南東端に位置する。建物規模は判然としないが、柱穴は1辺約90cm、深さ約20cmを測る2基を検出しており、掘り方は方形である。柱間寸法は約180cmである。出土遺物は確認できなかった。時期は調査時の所見により、8世紀代と推定される。

## 掘立柱建物2（第3・8図）

調査区北西端に位置する。建物規模は判然としないが、柱穴は直径約40cm、深さ約30cmを測る4基を検出しており、掘り方は円形である。柱間寸法は約180~201cmである。出土遺物は確認できなかった。時期は調査時の所見により、中世と推定される。



第2図 調査区位置図（1/2,000）

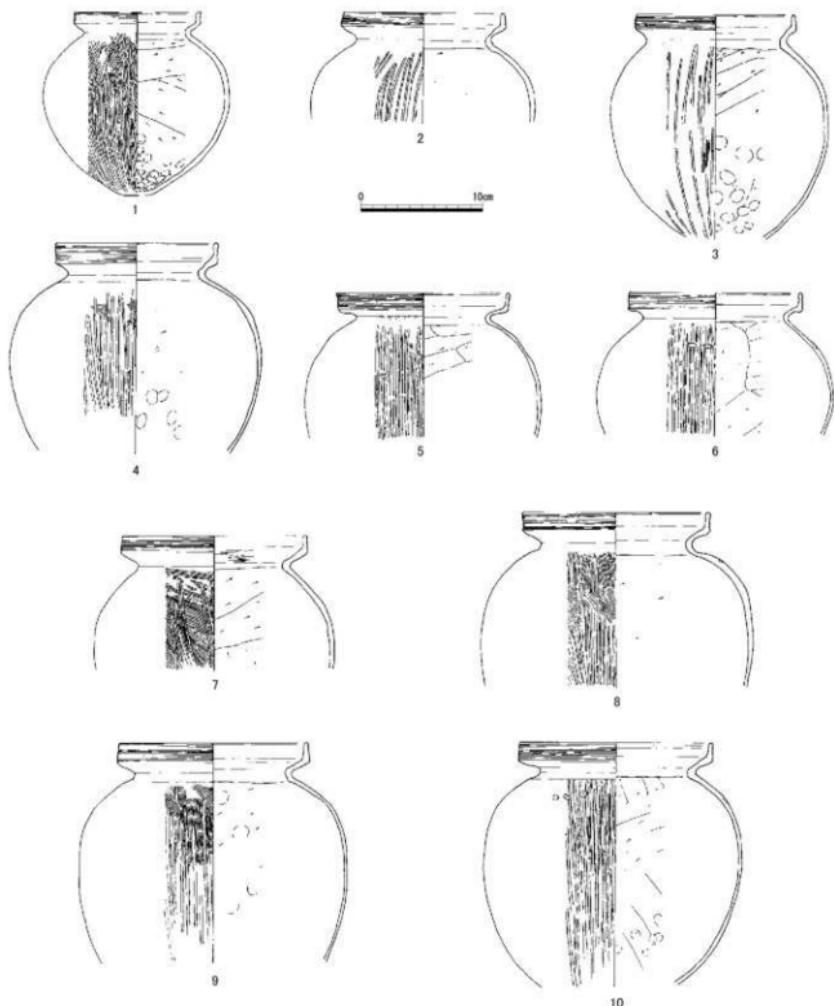
第3図 調査区全体図（1/200）

## (3) 土坑

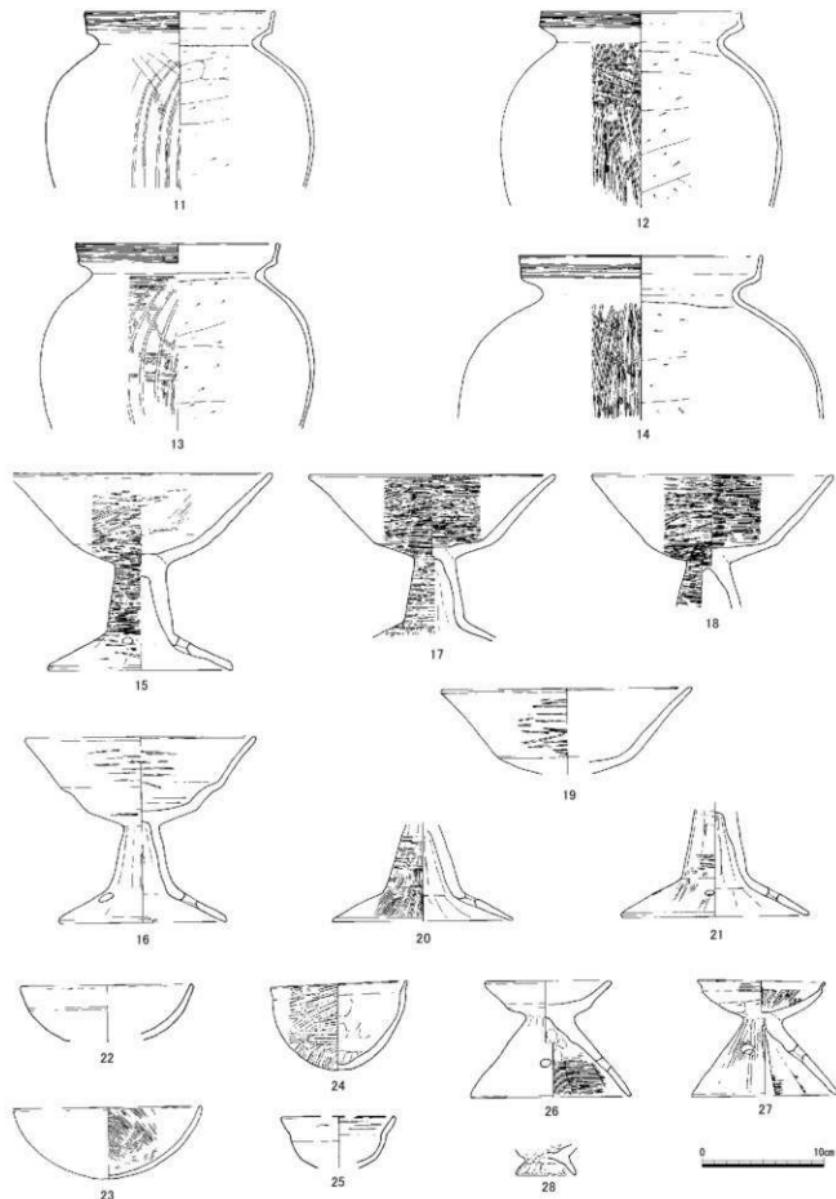
## 土坑1（第3・9図、図版1）

調査区中央付近に位置する。調査時はSK03と称して  
いた。平面形は橢円形、断面形は逆台形を呈しており、

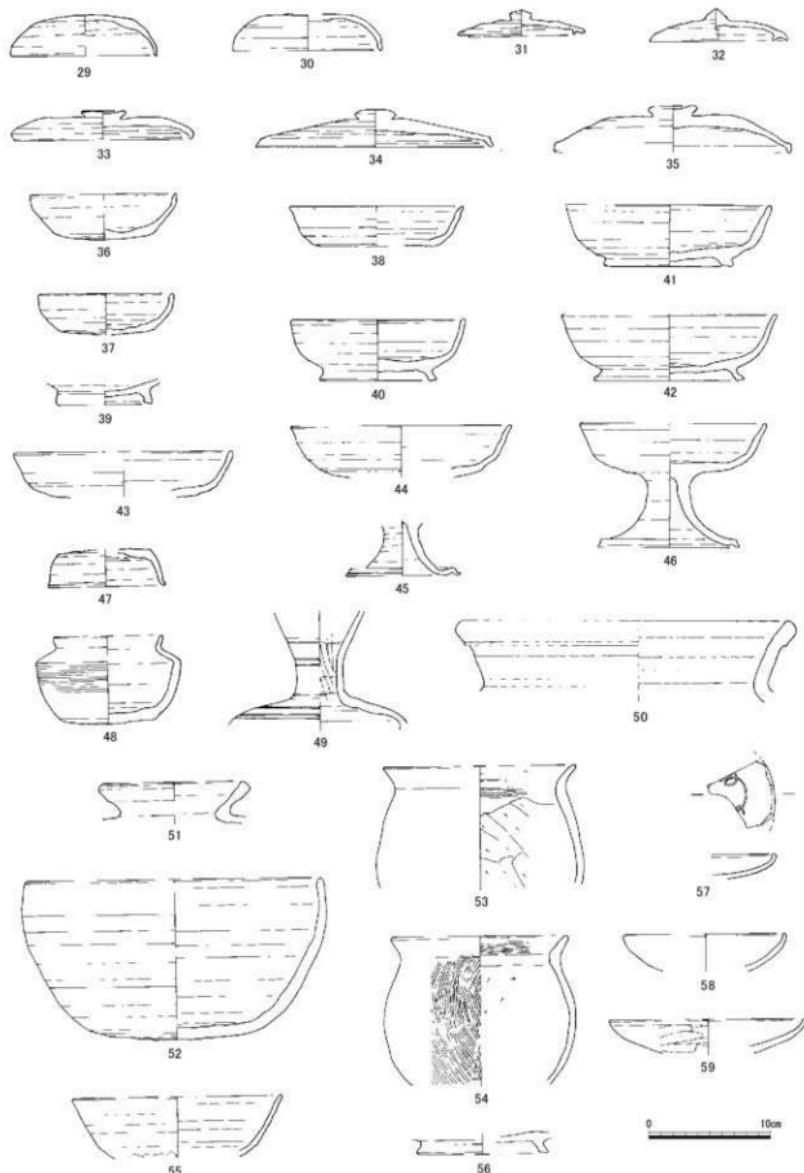
規模は長軸153cm、短軸108cm、深さ15cm、底面標高は  
262cmを測る。出土遺物は、弥生土器の壺60、甕61・  
62、鉢63などが認められる。時期は弥生時代後期中葉  
と推定される。



第4図 竪穴住居1出土遺物① (1/4)



第5図 積穴住居1出土遺物② (1/4)

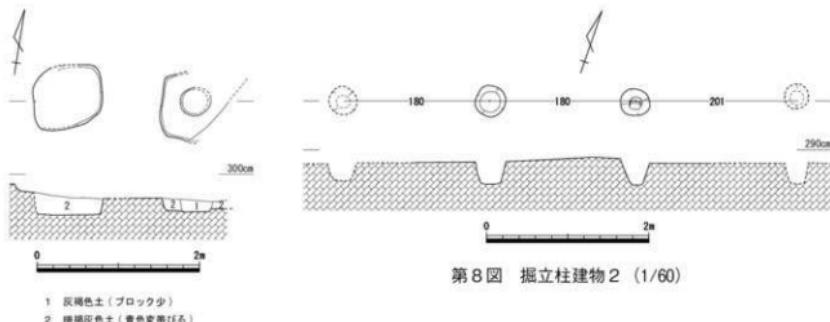


第6図 積穴住居2出土遺物 (1/4)

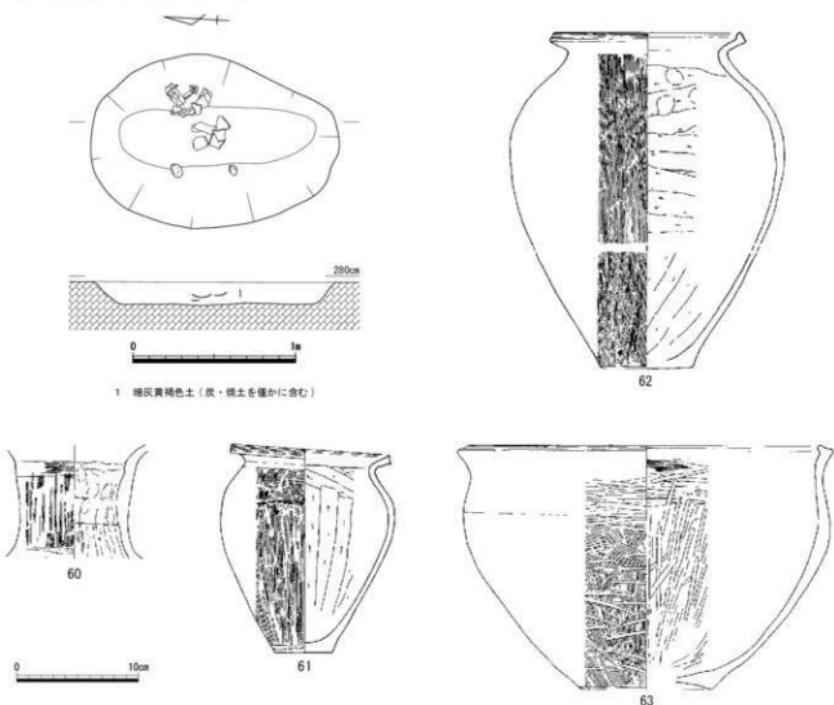
## 土坑2（第3・10～12図、図版1～3）

調査区北西端に位置する。調査時はSX01と称していた。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈しており、規

模は長軸135cm、短軸75cm、深さ52cm、底面標高は226cmを測る。特に、上層を中心に土器溢りの状況である。出土遺物は、弥生土器の壺64～72、甕73～78、高杯79



第7図 挖立柱建物1（1/60）



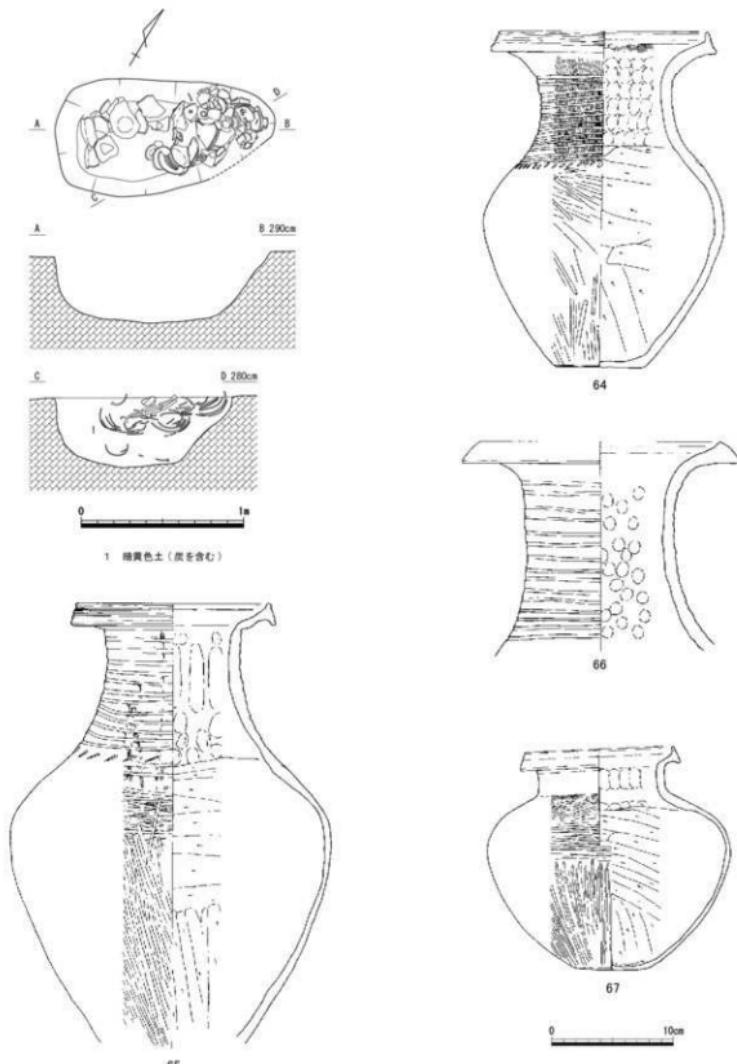
第9図 土坑1（1/30）・出土遺物（1/4）

～81、鉢82～86、台付鉢87などが認められる。時期は弥生時代後期中葉と推定される。

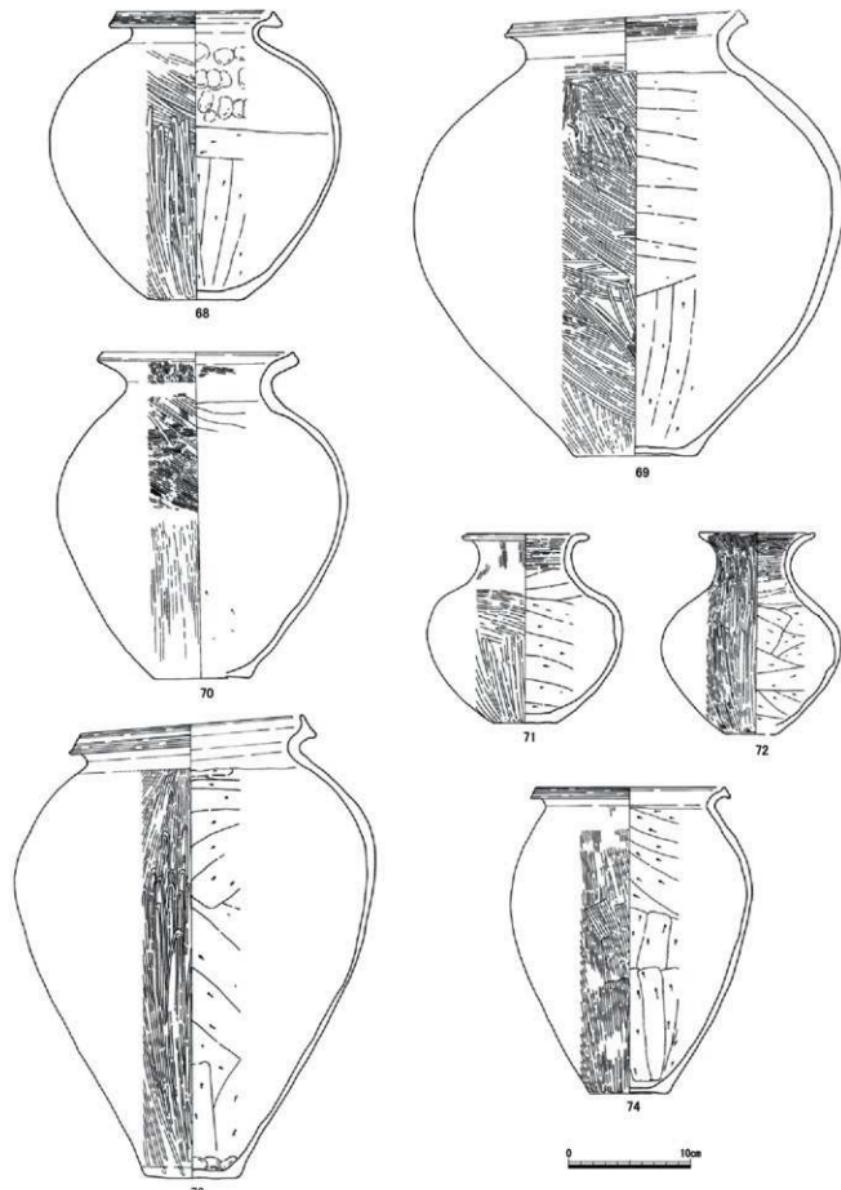
### 土坑3（第3・13図）

調査区北西端に位置する。調査時はS K02と称してい

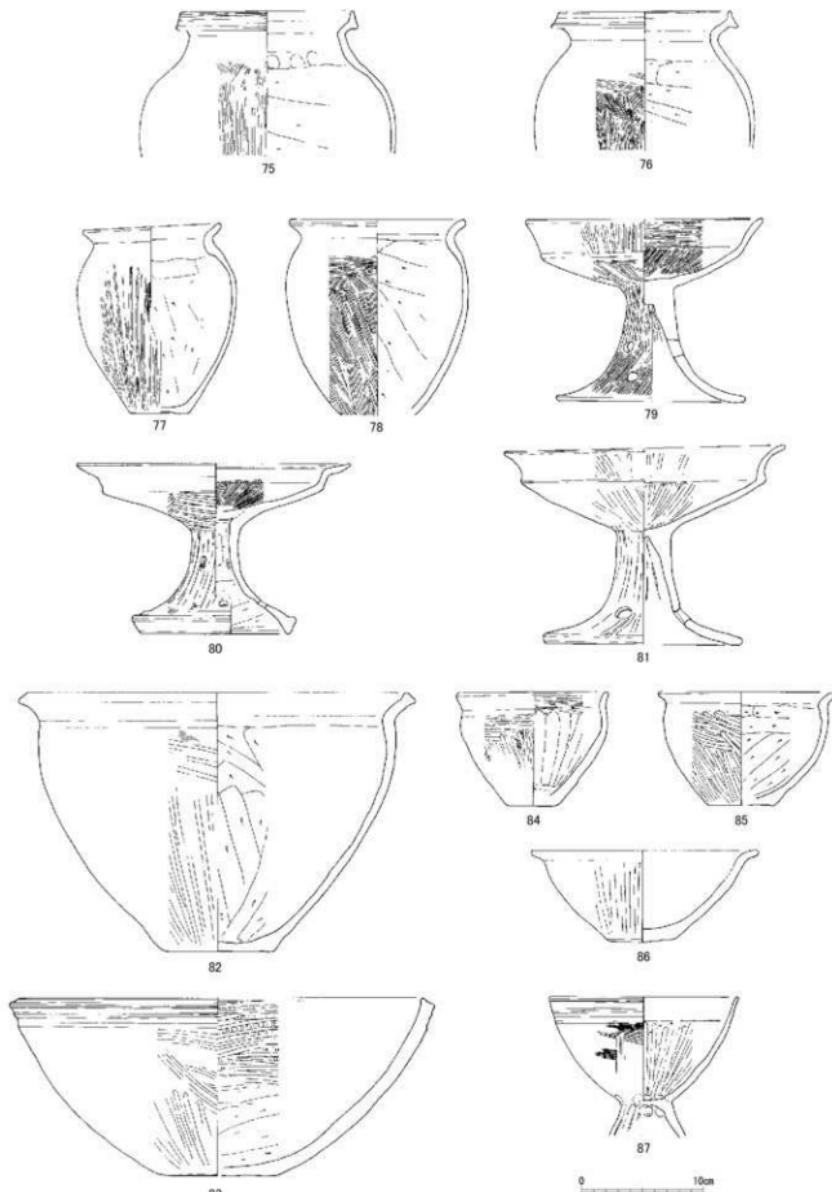
た。残存状況は調査区境のため北東側を欠損している。平面形は梢円形、断面形は二段掘りの逆台形を呈しており、規模は長軸147cm以上、短軸69cm以上、深さ51cm、底面標高は246cmを測る。出土遺物は、須恵器の杯蓋



第10図 土坑2 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第11図 土坑2出土遺物② (1/4)



第12図 土坑2出土遺物③ (1/4)

88、高台杯身89、高杯90などが認められる。時期は7世紀後半と推定される。

#### (4) 溝

溝1（第3図）

調査区中央付近に位置する。調査時はS D01と称していた。流路は東-西方向であり、西端は留まる。断面形は逆台形であり、規模は上端幅15cm、深さ6cm、底面標高は298cmを測る。図化し得る遺物はないが、時期は調査時に所見により、中世と推定される。

#### (5) 柱穴（第3・14・15図、図版3）

調査の状況から、古墳時代後期～中世を中心に数十基程度の柱穴を検出している。このうち、調査時にP22と称していた柱穴からは、須恵器杯身91、P11・17・10と称していた柱穴からは、順に土師器皿92・93・94などが認められた。一方、P122と称していた柱穴からは土鍾C1、P24と称していた柱穴からは土製円板C2や土鍾C3～C6などの土製品が出土している。

#### (6) 遺構に伴わない遺物（第16～18図、図版3）

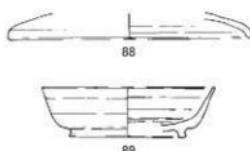
遺構に伴わない遺物としては、弥生土器の鉢95、台付鉢96や土師器の甕97・98、把手鉢99、高台椀100や須恵器の杯蓋101～103、杯身104、高台杯身105、甕106、捏鉢107、鉢108・109、把手鉢110や土師質高台椀111、須恵質插鉢112や丸瓦113、平瓦114～116などが認められる。なお、杯蓋101は杯身の可能性がある。

また、輪羽口C7・C8、土製円板C9～C14、土鍾C15などの土製品、流紋岩～ディサイト（角閃石の結晶あり）製（鈴木茂之（岡山大学）鑑定）の砥石S1などの石器、釘M1などの鉄器も出土している。

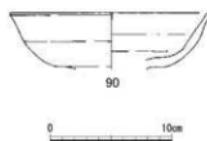
### 3 まとめ

矢部南向遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期及び古代・中世の時期を主体に、足守川の自然堤防（微高地）上で営まれた集落である。吉備の中枢地域として、弥生時代後期集落（高塚遺跡<sup>(4)</sup>、津寺遺跡<sup>(5)</sup>、加茂戸所遺跡<sup>(6)</sup>、足守川加茂A・加茂B・矢部南向遺跡<sup>(7)</sup>など）のあり方は、洪水等の自然環境の変化も考慮すべきであるが、流域一帯を統括する政治的な要因から集合体への何らかの移動の働きかけがなされたことを暗示しており、微高地（各遺跡・ムラ）間相互の再編状況は、いざれはクニへの統合に繋がるとする見方がある<sup>(8)</sup>。弥生時代後期後葉になると、足守川右岸丘陵に位置する橋築遺跡<sup>(9)</sup>やこれに後続する蛭喰神社遺跡<sup>(10)</sup>の墳丘墓が築造される。のことから、同遺跡は首長繼承の新たな祭祀形態の出現を契機とした足守川流域の集落の大改編・統合によって誕生した集落の1つと捉えることもできる<sup>(11)</sup>。

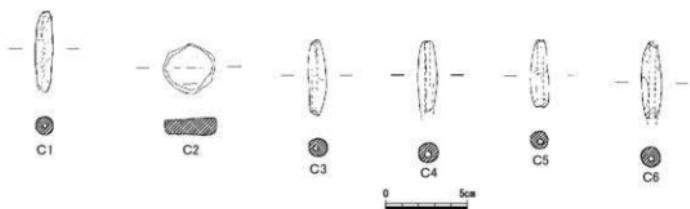
一方、7世紀代の出土遺物をみると、杯H（奈文研分類）に比べて、出土量も少なく流通も限定された器種であった杯G（同）<sup>(12)</sup>の杯蓋31・32は注目される。同遺



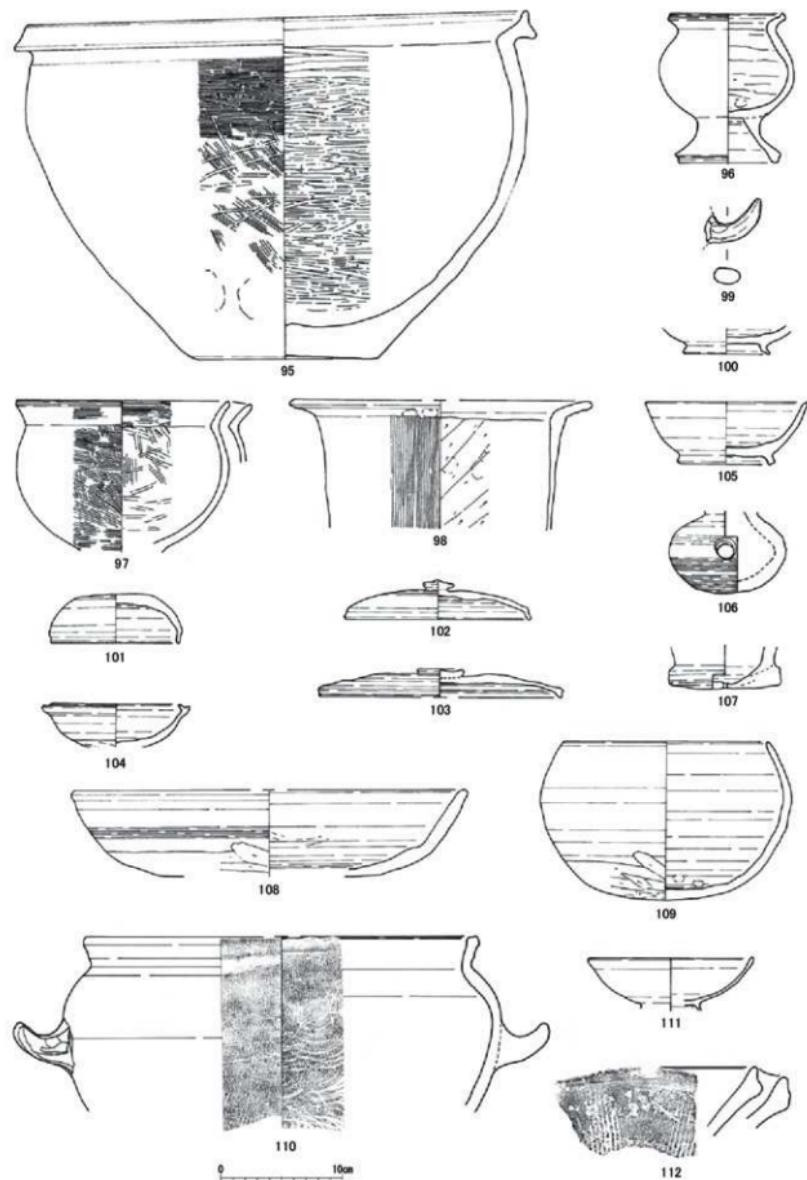
第13図 土坑3出土遺物（1/4）



第14図 柱穴出土遺物①（1/4）



第15図 柱穴出土遺物②（1/3）



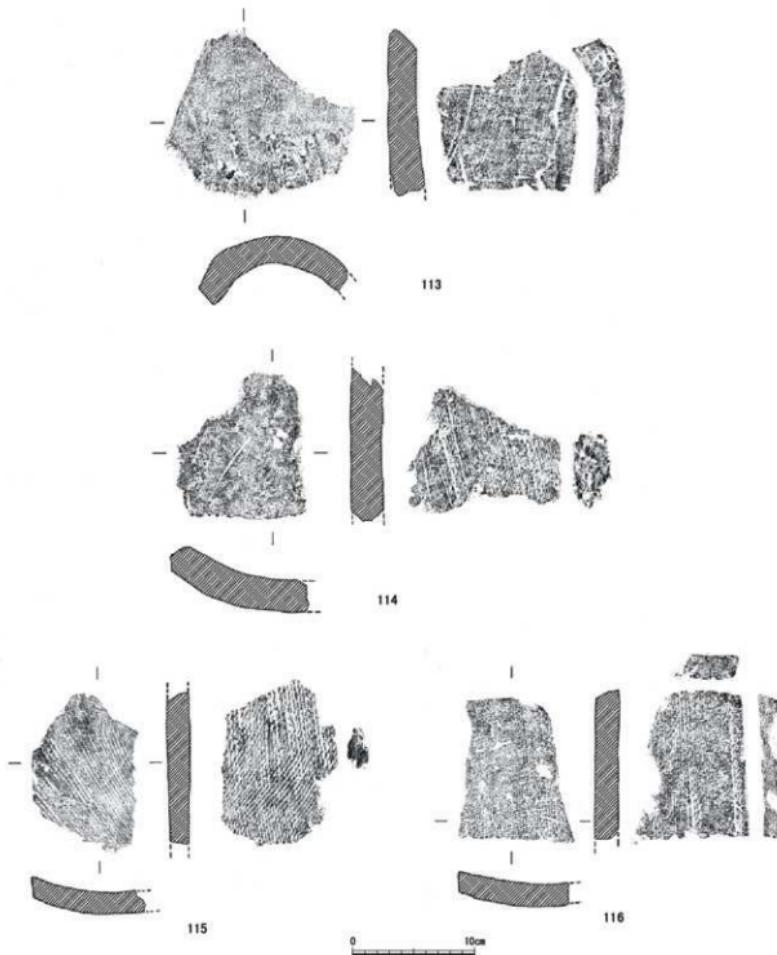
第16図 遺構に伴わない遺物① (1/4)

跡周辺では都宇郡の官衙（津寺遺跡）や駅家（矢部遺跡）等の律令体制を担う公的施設の整備が進むが、その前段階にあたる当地の位置づけやこの器種を志向した需要層の存在・性格を考える上で示唆に富む資料と言える。

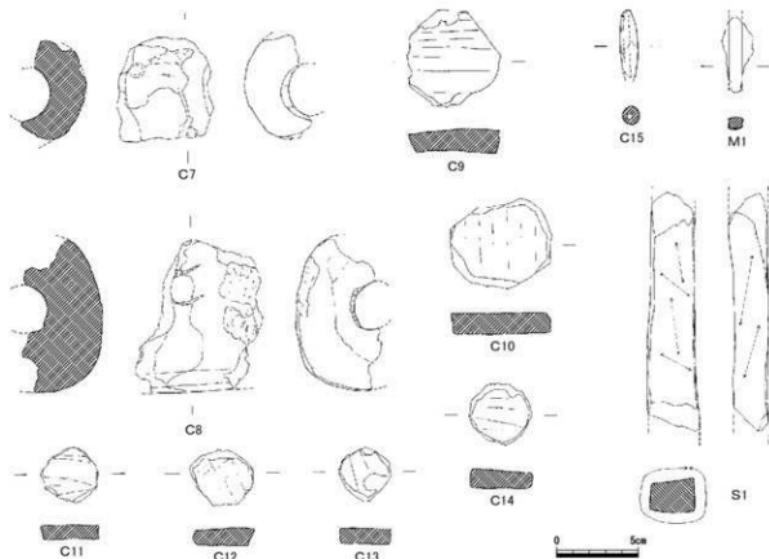
### おわりに

当センターでは、過去に県事業関係で発掘調査を実施

して未報告であった遺跡に対して、整理・公開することをこの数年間積極的に取り組んでおり、一部は報告書の刊行を行っている。この度の調査成果の公開は、発掘調査から約40年の月日が過ぎてしまい、また、諸事情により必要十分な体裁とはいえないものの、本誌での報告が地域の歴史研究に寄与するとともに、学術研究の資料として広く役立つならば幸いである。



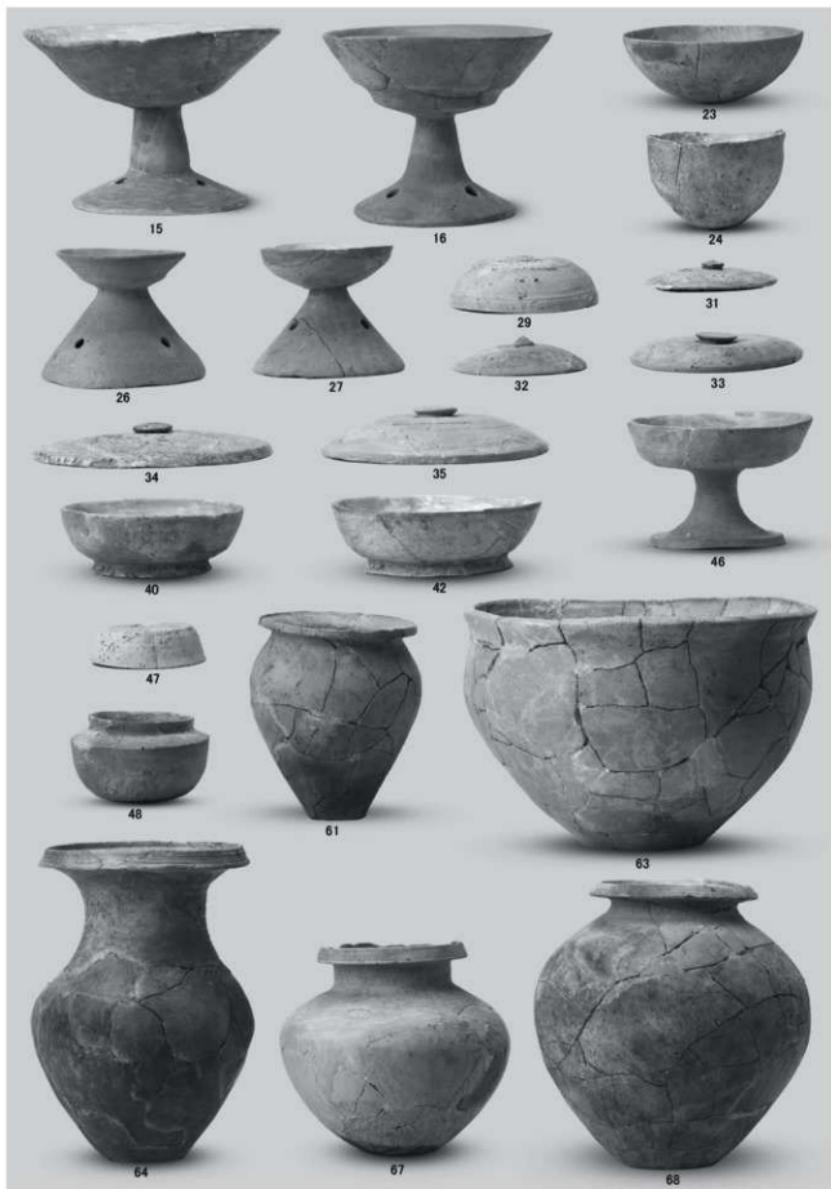
第17図 遺構に伴わない遺物② (1/4)



第18図 遺構に伴わない遺物③ (1/3)

## 註

- (1) 岡山県教育委員会1983「10 矢部南向遺跡」「岡山県埋蔵文化財報告」13
- (2) 澤山孝之2022「第1章地理的・歴史的環境」「西加茂遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」260 岡山県教育委員会
- (3) 岡山県教育委員会1995「足守川加茂A遺跡・足守川加茂B遺跡・足守川矢部南向遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」94
- (4) 岡山県教育委員会2000「高塚遺跡・三手遺跡2」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」150
- (5) 岡山県教育委員会1998「津寺遺跡5」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」127
- (6) 岡山県教育委員会1999「加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」138
- (7) 許(3)文献
- (8) 江見正己2000「第3章高塚遺跡 第4節まとめ 1 弥生時代の集落変遷」「高塚遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」150 岡山県教育委員会
- (9) 近藤義郎編1992「楯築弥生墳丘墓の研究」楯築刊行会
- (10) 平野泰司・岸本道昭2000「蛭喰神社弥生墳丘墓の弧帶石と特殊器台・壺」「古代吉備」第22集
- (11) 許(8)文献
- (12) 金田善歌2013「第4章総括 第5節鬼城山から出土した土器について」「史跡 鬼城山2」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」236 岡山県教育委員会  
※遺物写真的撮影については、江尻泰幸の協力と援助を得た。
- ※収載した遺物の図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市北区西花尻1325-3）に保管している。
- ※第2図は、「おかやま全県統合型GIS」の「数値地図（国土基本情報）」のシステム共通番号測量法に基づく国土地理院承認（使用）R3JHs1を使用し、これに許(3)文献の同遺跡周辺地形図・遺構全体図を加筆したものである。



図版1 整穴住居1・2、土坑1・2出土遺物



図版2 土坑2出土遺物



図版3 土坑2・柱穴出土遺物、遺構に伴わない遺物、土製品・石器

## 岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査

山磨 康平・高田恭一郎

## 1 調査の概要

調査位置は、国道250号線百間川橋下流150mの百間川右岸堤防表法面に設置された階段の基礎部分である。百間川原尾島遺跡と同沢田遺跡の境に当たり、百間川緑地整備事業に伴い岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した。調査期間は平成4年4月28日～5月17日、調査面積は8m<sup>2</sup>である。

調査の結果、微高地で弥生時代の前期の溝3条と古墳時代前半の柱穴複数を確認した。周辺の調査状況等と併せ、沢田遺跡の弥生時代前期の環濠集落が検出された微高地の一部と想定され、その西端がこの付近にまで達する可能性が強まった。  
(山磨康平・高田恭一郎)

## 2 遺構と遺物

溝1 調査区の北西端に南北から北東方向に検出した。北端は溝3により上面が削平されている。検出幅は1.2m、最大深さ65cmを測る。断面はU字形をなし、溝底面は海拔1.45m付近である。埋土は第1層中に炭、焼土粒

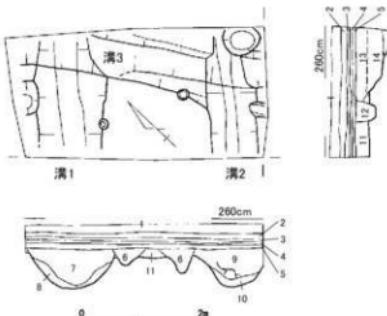
を多く含んでいる。土器の出土も第1層中からが大半を占める。

1～15・26は壺形土器、16～25・27は甕形土器、28～31は蓋形土器である。壺形土器1は頸部に2本の沈線を、4にも沈線が認められる。2は頸部に貼り付け突帯を巡らし、内外ともに丁寧なヘラミガキである。5は頸部下端に段を有す大形品である。6は同下部にヘラ描き平行線と重弧文の沈線を、8・9・10にも複数の沈線を施す。7は体部外面に段を有し、外面のヘラミガキが顕著である。11は体部に縫にヘラ描き文を施している。26は頸部とみられる。甕形土器16は外反気味の、20は内反気味の口縁に貼り付け突帯を有し、突帯面に刻み目を施す。16では口縁端部にも認められる。突帯のない17・18は端部に刻み目を、19では頸部に3条のヘラ描



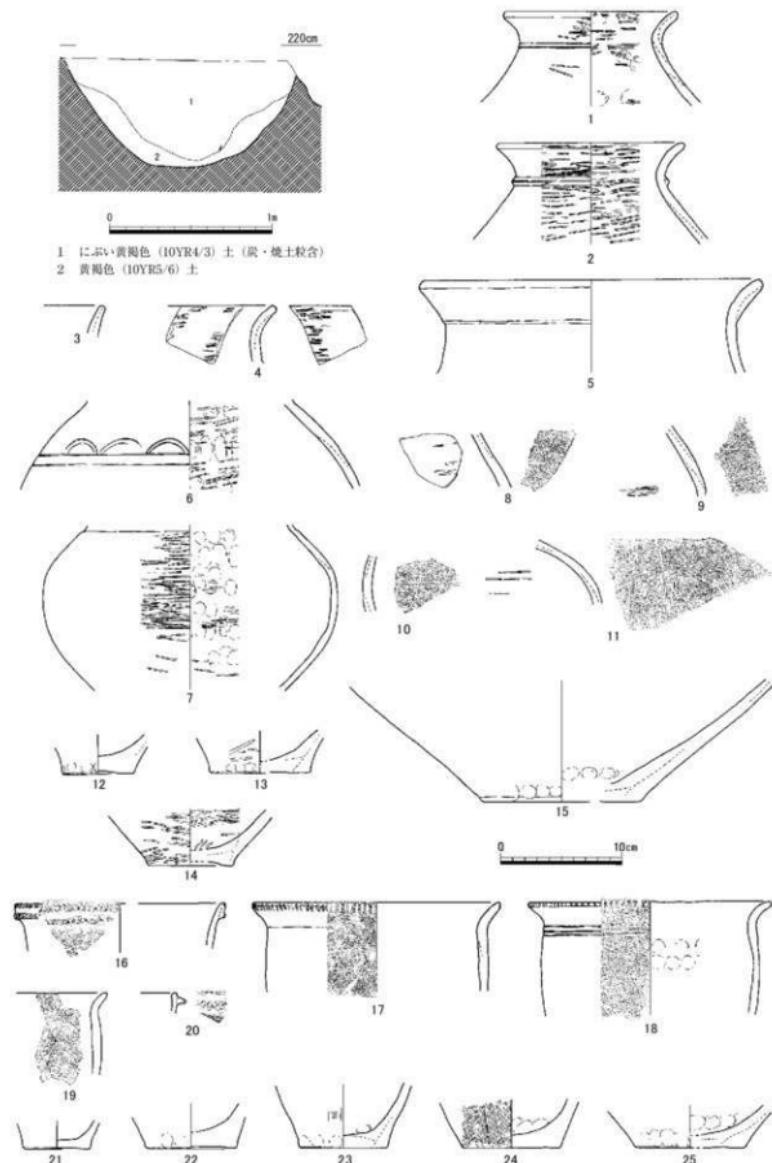
1 百間川原尾島遺跡 2 百間川沢田遺跡

第1図 調査位置図 (1/25,000)

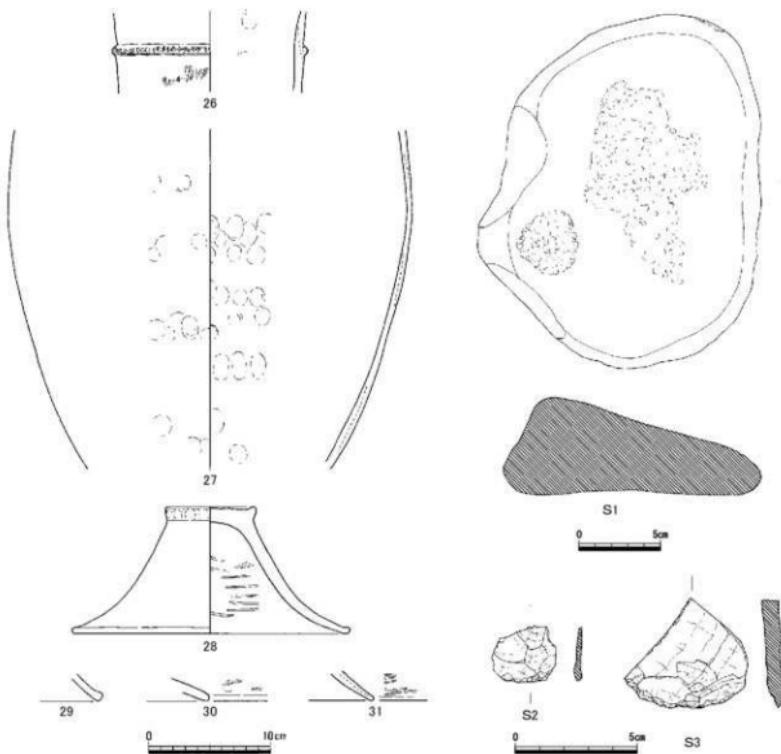


- 1 現代耕作土
- 2 淡黄色 (5Y7/3) 砂
- 3 灰色 (10YR7/1) 粘質土 卓中世包含層
- 4 黄灰褐色 (10YR6/2) 粘質土 (Fe沈着)
- 5 にふい黄褐色 (10Y3/3) 土 (下部Fe沈着)
- 6 頭色 (10Y4/4) 土 ※柱穴
- 7 にふい黄褐色 (10Y4/3) 土 (炭・焼土粒含)
- 8 黄褐色 (10Y5/6) 土
- 9 暗褐色 (10Y3/4) 土 (炭・焼土粒含)
- 10 頭色 (10Y4/6) 土
- 11 黄褐色土
- 12 暗褐色 (10YR3/4) 土 ※柱穴
- 13 灰褐褐色 (10YR3/3) 粘土 (Mn沈着層)
- 14 黄褐色 (10YR3/3) 粘土 (粘質土)
- 15 黄褐色 (10YR5/6) 粘土

第2図 調査区全体図 (1/80)



第3図 溝1 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第4図 溝1出土遺物② (1/4・1/3・1/2)

き沈線を施している。蓋形土器はいずれも内面に煤が付着している。

石器は凹石、サスカイト製のスクレイバー等である。百・前・Ⅱと考えられる。

溝2 溝1と1.7mほどの間隔を置きほぼ平行する溝で、調査区南東端で検出した。溝1と同様に北端が溝3により削平されている。検出最大幅は85cm、最大深さ60cmを測り、U字形の断面をなす。溝底部レベルは海拔1.5m付近である。埋土は溝1と同様に2層に分離でき、第1層中に焼土、炭を多く含み土器片の出土もこの下層中からが多い。

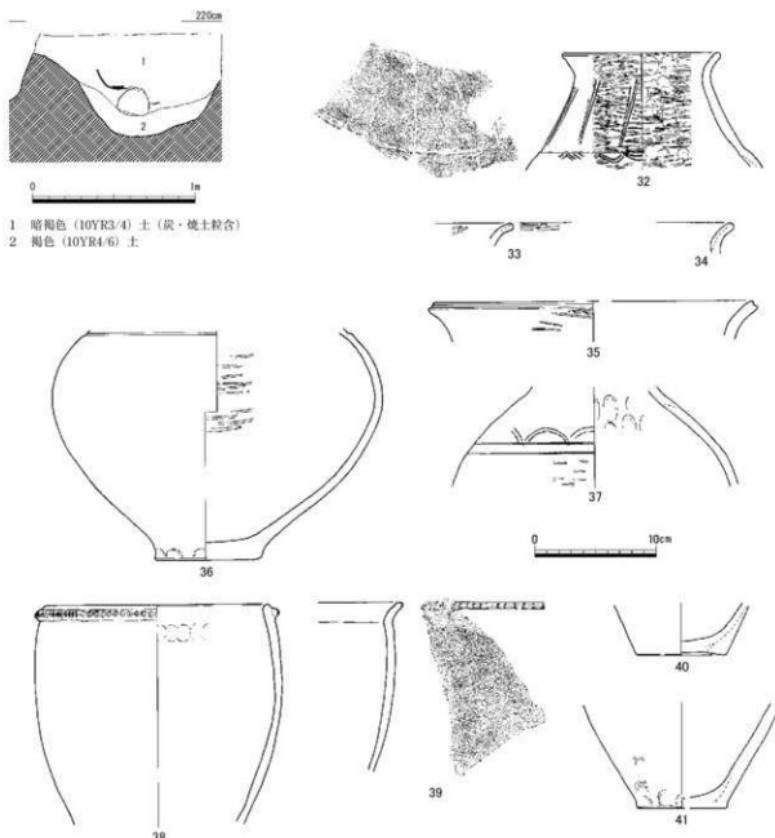
32～37は壺形土器、38～41は甕形土器である。壺形土器32は体部に段を有し段を境に上に3本単位の綫方

向の、下に重弧文の沈線を施す。内外縁ともにヘラミガキが顕著である。37は体部に2本の沈線とこの上部に重弧文の沈線を施す。36も体部に沈線が認められる。甕形土器38は口縁部に貼り付け突帯を突帯面にヘラ刻み目を施す。39は無帶で口縁端部に刻み目を施す。

石器はサスカイト製のスクレイバーが出土している。百・前・Ⅱと考えられる。

溝3 調査区北東端で検出し、溝1・2を削平し直交する。北側肩が未検出で微高地端部の段状遺構の可能性もある。断面は途中に段をなし平坦な底面である。最大深さ55cmを測り、底部レベルは海拔1.55m付近である。埋土は2・3層間にマンガンの集積が顕著であった。

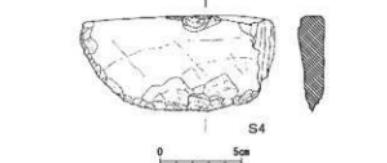
壺形土器42は溝2・3の交点出土で頭部に2本の沈



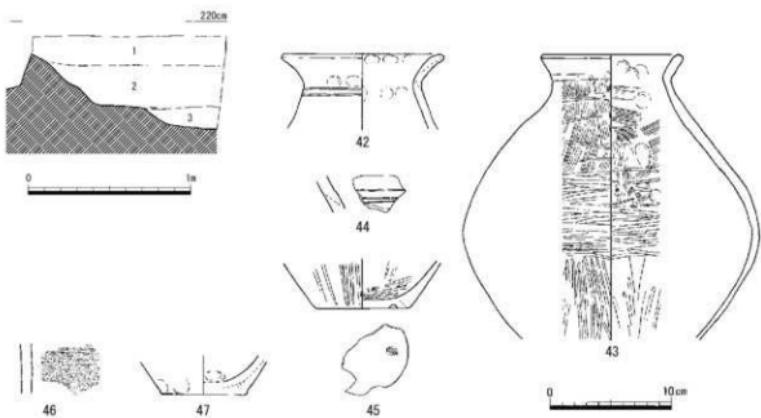
第5図 溝2 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)

線を施す。44は削り出し突帯である。壺形土器46は掃描き沈線か。45の底部には粉痕がある。出土土器に弥生時代前期以外は認められないものの、遺構の新旧や埋土の堆積状況等から弥生時代前期以降の後期までの範囲と考えられる。

その他の出土遺物 検出中や掘り下げ等の出土で所属の不明確なものを掲載した。いずれも弥生時代前期の遺物である。ただ48～50・52・56・60は溝1と3の交差した付近からの出土でいずれかの遺構に属する土器である。



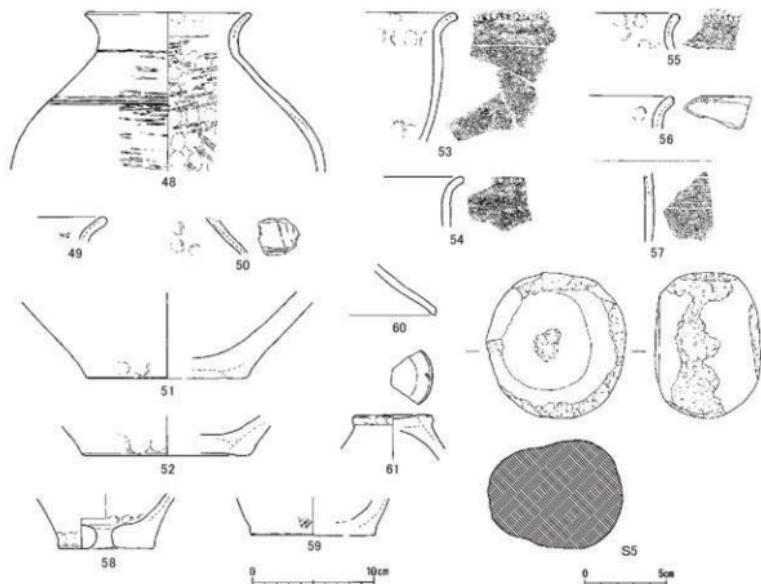
壺形土器48は頸部に段を有し、体部に3本の沈線を施す。内外面にヘラミガキが認められる。50は体部上半に縦方向のヘラ描き沈線を複数施している。58は底部に焼成後穿孔がある。壺形土器53～56はいずれも外反



第6図 溝3 (1/30)・出土遺物 (1/4)

する口縁部をなし端部に刻み目を施す。53はヘラ描き沈線を体部上半に1本施す。頸部付近の横方向のハケメが顕著である。57は現状で7本の櫛描く状の沈線が認

められる。60・61は蓋形土器の天井部と裾部で、61の天井部上面に切痕がある。敲き石S 5は周囲および側面に使用の痕跡が認められる。  
(山崎)



第7図 その他の出土遺物 (1/4 · 1/3)



1 調査地（南東から）



2 調査区全景（北西から）



3 出土遺物

## 紀要

第3号

令和6年3月21日 印刷

令和6年3月21日 発行

発行 岡山県古代吉備文化財センター  
岡山市北区西花尻1325-3

印刷 株式会社印刷工房フジワラ  
岡山市北区丸の内2-11-18